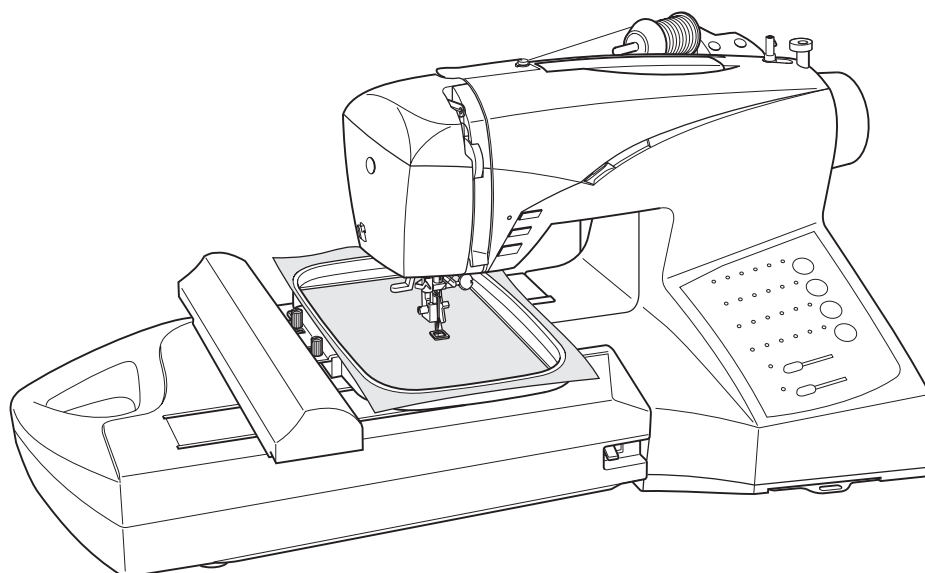




JAGUAR

SP-3500



取扱説明書

★ご使用前にこの『取扱説明書』を十分お読み下さい。

★この『取扱説明書』はお使いになる方がいつでも見られるところに保管して下さい。

ミシンと共に使用するパソコンの仕様について

この度は弊社の製品をご購入いただきありがとうございます。

下記の仕様を満たすパソコンであれば、付属のソフトウェアCDをパソコンに読み込んで（インストールして）、使用することが出来ます。


- > CPU：ペンティアムⅢ以上もしくは同等の互換性。
- > 対応 OS：Microsoft Windows（日本語版）XP/Vista/7 推奨。
- > メモリ：128 MB 以上推奨。
- > CD-ROMドライブ、USBポート、キーボード及びマウスを装備。
- > ハードディスク空き容量：500 MB 以上。
- > モニタ解像度：1024 × 768 ピクセル、16ビットカラー以上。


= 安全にご使用いただくために =

- ◎ご使用の前に、この『安全上の注意』をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◎お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。

絵表示について

この『安全上の注意』では、使用者が製品を安全に使用できるように、誤った取り扱いをする事によって生じる内容を次のような絵表示によって区分しています。いずれも重要な内容ですので必ず守ってください。


 警告：取り扱いを誤った場合、人が死亡又は重傷を負う危険が生じる事が想定される内容を示しています。


 注意：取り扱いを誤った場合、人がケガをしたり、物的損傷が発生したりする恐れがある内容を示しています。

絵表示の例


















 記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。


 記号は使用者の行為に注意を呼びかける内容であることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容が描かれています。

 記号は使用者の行為を指示強制したりする内容であることを告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。

警告

感電、火災の恐れがあります

<p> 禁止</p> <p>このミシンは国内専用です。 一般家庭用交流電源 100 V 以外の電圧では使用しないでください。 異なる電圧で使用すると火災・感電の原因となります。</p>	<p> ぬれ手禁止</p> <p>ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 感電やけがの原因になります。</p>
<p> プラグを抜く</p> <p>以下のような時は電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いてください。プラグを差し込んだままにしておくと、思わぬ火災や感電の原因となることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミシンのそばを離れる時 ・ミシンを使用しない時 ・ミシンのお手入れをする時 ・ミシンを移動させる時 ・ミシン使用中に停電した時 	<p> プラグを抜く</p> <p>コンセントから抜く時は、コードを持たずに必ずプラグを手で持って抜いてください。 コードを引っ張ると内部で断線し、感電や発火につながる恐れがありますので大変危険です。</p> <p> 禁止</p> <p>電源コードは無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、何かに巻きつけたりしないでください。 また、コードが重いものの下敷きにならないようにしてください。 コードが内部で断線したり破損して、火災・感電の原因になります。</p>
<p> 水ぬれ禁止</p> <p>ミシン、電源コード、電源プラグ等を水につけたり濡らしたりしないでください。 また、浴室や加湿器のそばなど水がかかるような場所や湿気の多い場所では使用しないでください。 火災・感電の原因となりますので、万一濡れた場合は絶対に使用しないでください。</p>	<p> 分解禁止</p> <p>お客様自身での修理、分解、改造はしないでください。 火災・感電・けがの原因になります。 修理が必要な場合は、お買い上げの販売店か販売元までご相談ください。</p>
<p> 禁止</p> <p>ミシンの内部に金属類や燃えやすいものなどの異物や水分を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。 火災・感電の原因となりますので、特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。</p>	<p> 禁止</p> <p>ミシンの上に乗らないでください。 倒れたりこわれたりしてけがの原因となることがありますので、特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。</p>
<p> 禁止</p> <p>ミシンを極端に傾けたり、前後左右に激しく動かさないでください。 感電や故障の原因になります。</p>	<p> 禁止</p> <p>ほこりの多いところで使用しないでください。 電源プラグの刃や刃の取付面にほこりが付いている時は、乾いた布でふき取ってください。 そのまま差し込むと火災の原因になります。</p>
<p> 禁止</p> <p>ミシンをぐらついた台の上や傾いた所などの不安定な場所に置かないでください。 また、毛布やクッションなどの柔らかいものの上にも置かないでください。 落ちたり倒れたりして、けがや火災の原因になります。</p>	<p> 注意</p> <p>ミシンを操作中にネクタイ・ネックレス・髪などを針周辺に引き込まれないようにしてください。 万一引き込まれてしまった場合は、ただちに電源を切って取り除いてください。</p>
<p> 禁止</p> <p>ミシンの通風孔をふさがないでください。 内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p>	<p> 禁止</p> <p>雷が鳴り出したら、電源プラグには触れないでください。 感電の原因になります。</p>

 注意 感電、火災、けがの原因となります	
 ミシンには正規の部品（ボビン・針等）をご使用下さい。 禁止	 ミシンの使用中に、電子レンジや掃除機などの高容量の電気製品のご使用はお控えください。ミシンの動作が不正確になる場合があります。 注意
 最初のひと針は、必ずプーリーを手で回し、布に針が刺さった状態から操作を始めてください。 注意	 お子様のご使用になる時やお子様の近くで使用される時は、特に安全に注意してください。 注意
 ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、プーリー、天びんなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。 注意	 以下のことをする時は、電源スイッチを切ってください。 禁止 <ul style="list-style-type: none"> ・針を交換する時 ・上糸、下糸をセットする時
 曲がった針はご使用にならないでください。 禁止	 ミシンを動かす時は、かまカバーを閉じてください。 禁止
 縫う時は布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。 禁止	 業務用としてのご使用はお控えください。過負荷による故障の原因になります。 注意
 お手入れの際、シンナーやベンジンで拭いたりしないでください。 変質・破損・塗料はがれの恐れがあります。 禁止	 ミシンに以下の異常がある時はすみやかに使用を停止し、お買い求めの販売店または販売元で点検・修理・調整をお受けください。 禁止 <ul style="list-style-type: none"> ・正常に作動しない時 ・水にぬれた時 ・落下などにより破損した時 ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したり、異常に熱くなった時 ・異常な音やにおいがする時
 最初にミシンを使用するときは、押え金の下に布切れを置いて、糸を使用しないでミシンを操作し、十分に油気を取り除いてください。 注意	
 針の下に指をいれないでください。けがをするおそれがあります。 注意	

「自動停止装置」について

- ◆ このミシンは、誤った操作などをしたとき、自動的に運転を止める安全装置がついています。
- ◆ たとえば、縫製中に糸がかまにくい込んだりしたようなとき、安全装置がそれを感知し、3秒以内に自動的に電流を遮断し、モーターを止めます。
- ◆ モーターが止まったら、糸がらみなどミシンを止める原因となったものを取り除いてください。
- ◆ かまに巻きついた糸を取り除く場合はハサミで糸を切ってください。

※ 製品のデザイン、仕様は改良のため予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

も く じ

1. ご使用になる前に

各部の名称.....	4 ~ 5
電源のつなぎ方.....	6
操作スイッチ.....	7 ~ 8
スピードコントロール.....	8
糸ごまのセット.....	9
押え上げ.....	10
送り歯ドロップレバー.....	10
フリーアーム(筒縫い).....	11
ミシンのバランスの取り方.....	11
下糸の巻き方.....	12 ~ 13
ボビンのセット.....	13
上糸のかけ方.....	14 ~ 15
自動糸通し器の使い方.....	15
下糸の引き上げ方.....	16
針と糸と布の使い方.....	17
針のとりかえ方.....	17
上糸調子のとり方.....	18
押えのとりかえ方.....	18
操作パネルの機能.....	19

2. さあ縫ってみましょう

縫い目長さとお目巾早見表.....	20 ~ 21
直線縫い.....	22 ~ 25
縫い方向の変え方.....	23
返し縫い.....	23
ファスナーつけ・パイピング.....	24
縫いにくい布地の縫い方 段縫い・薄物・厚物.....	25
点線キルト縫い.....	25
ジグザグ縫い.....	26
まつり縫い・伸縮まつり縫い.....	27
点線ジグザグ縫い 裁ち目かがり、つくろい縫い.....	28
スーパー縫い(ストレッチステッチ).....	29 ~ 31
直線伸縮縫い・ジグザグ伸縮縫い・ スモッキング縫い・はぎ合せ縫い・フェザー縫い・ ブランケット縫い(1)・ボックス縫い・ ブランケット縫い(2)・オーバーエッジ縫い・ パインリーフ縫い.....	32
飾り縫い.....	32
連続模様.....	33
ボタン付け.....	33
ボタンホール(ボタン穴かがり).....	34 ~ 36

3. 刺しゅう器の使い方

刺しゅう器をセットする前に 押えのとりかえ方.....	37
ボビンのセット.....	37
上糸のかけ方.....	38
下糸の引上げ方.....	38
補助テーブル.....	38
送り歯ドロップレバー.....	39
刺しゅう器のセット.....	39
フープのセット フープに布を張ります.....	40
布地と接着芯の使い方.....	41 ~ 42
フープをセットする前のミシンの準備.....	43
フープのミシンへのセット.....	44
刺しゅう器の取り外し.....	45
刺しゅう器をセットしたときの操作スイッチ スタート/ストップスイッチ.....	46
針停止位置選択スイッチ.....	46
返し/とめぬいスイッチ.....	46
スピードコントロール.....	46
上糸調子ダイヤル.....	46
トラブルになったときのアドバイス 目とび、糸切れが発生する.....	47
刺しゅうの模様がずれる.....	47
空縫い部分ができたとき.....	48
ミシンが停止したとき 下糸がなくなったと思われる場合.....	48
エラーメッセージ.....	49 ~ 50

4. ミシンのお手入れ

送り歯とかまの掃除・注油.....	51
針棒周辺の掃除・注油.....	52

5. ミシンの調子が悪いとき、 次の原因を確かめましょう

6. 別売り付属品のご案内

仕様

ミシン

本体寸法: 巾42.8×奥行30.7×高さ29.4 (cm)
本体質量(重量): 10 kg (補助ベッド付き)
定格電圧: AC 100V
定格消費電力: 55W
定格周波数: 50/60Hz

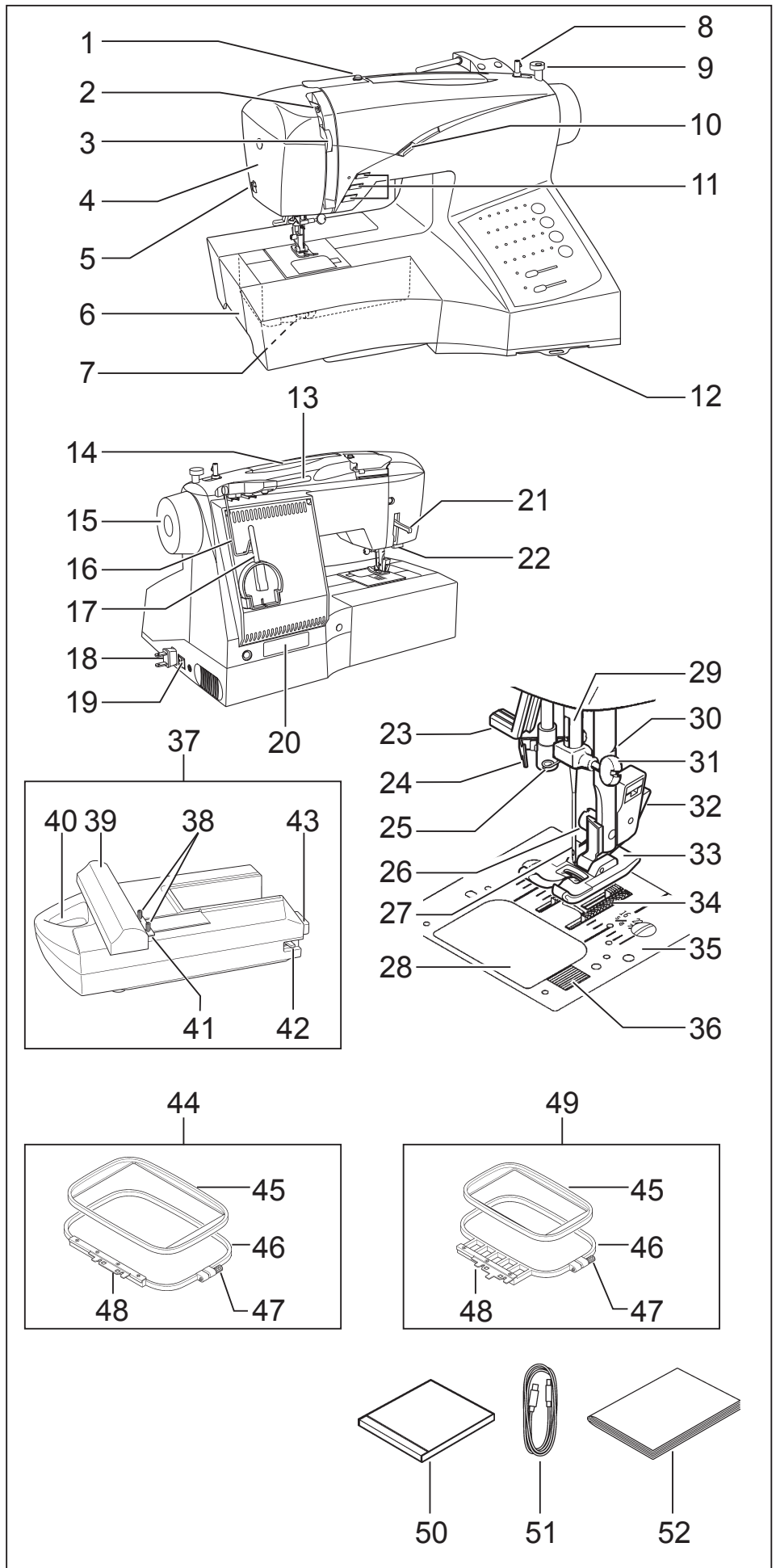
刺しゅう器

本体寸法: 巾43.4×奥行27.0×高さ13.3 (cm)
ミシン本体接続時: 巾63.7×奥行30.7×高さ29.4 (cm)
本体質量(重量): 2.3 kg

1. ご使用になる前に ……

各部の名称

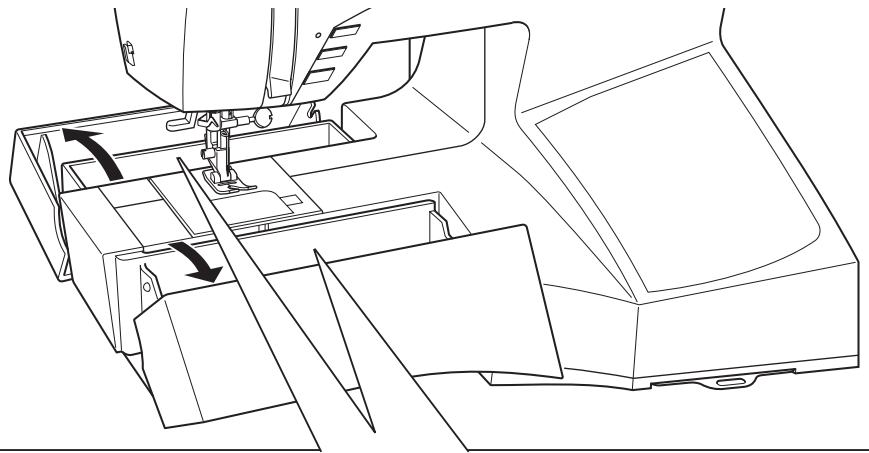
1. 下糸巻き案内
2. てんびん
3. 上糸調子ダイヤル
4. 面 板
5. 糸切り
6. 補助テーブル（付属品入れ）
7. 送り歯ドロップレバー
8. 下糸巻き軸
9. 下糸巻き押え
10. スピードコントロールつまみ
11. 操作スイッチ
12. エラーメッセージ早見表
13. 水平糸立棒
14. ハンドル
15. プーリー
16. 糸案内棒
17. 垂直糸立棒
18. 電源プラグ
19. 電源スイッチ（ライトスイッチ兼用）
20. 機番プレート
21. 押え上げ
22. ボタンホールレバー
23. 糸通しレバー
24. 糸通し装置
25. 針棒糸案内
26. 押え止めネジ
27. 針
28. かまカバー
29. 針 棒
30. 糸切り刃
31. 針止めネジ
32. 押え解放レバー
33. 押 え
34. 送り歯
35. 針 板
36. かまカバー開放レバー
37. 刺しゅう器
38. フープ取付ネジ
39. キャリッジ
40. ハンドル
41. フープ台
42. 解放レバー
43. コネクター
44. 大フープ
45. フープ内枠
46. フープ外枠
47. フープ締付ネジ
48. フープ取付板
49. 小フープ
50. 刺しゅうソフトウェア CD
51. USB ケーブル
52. 説明書



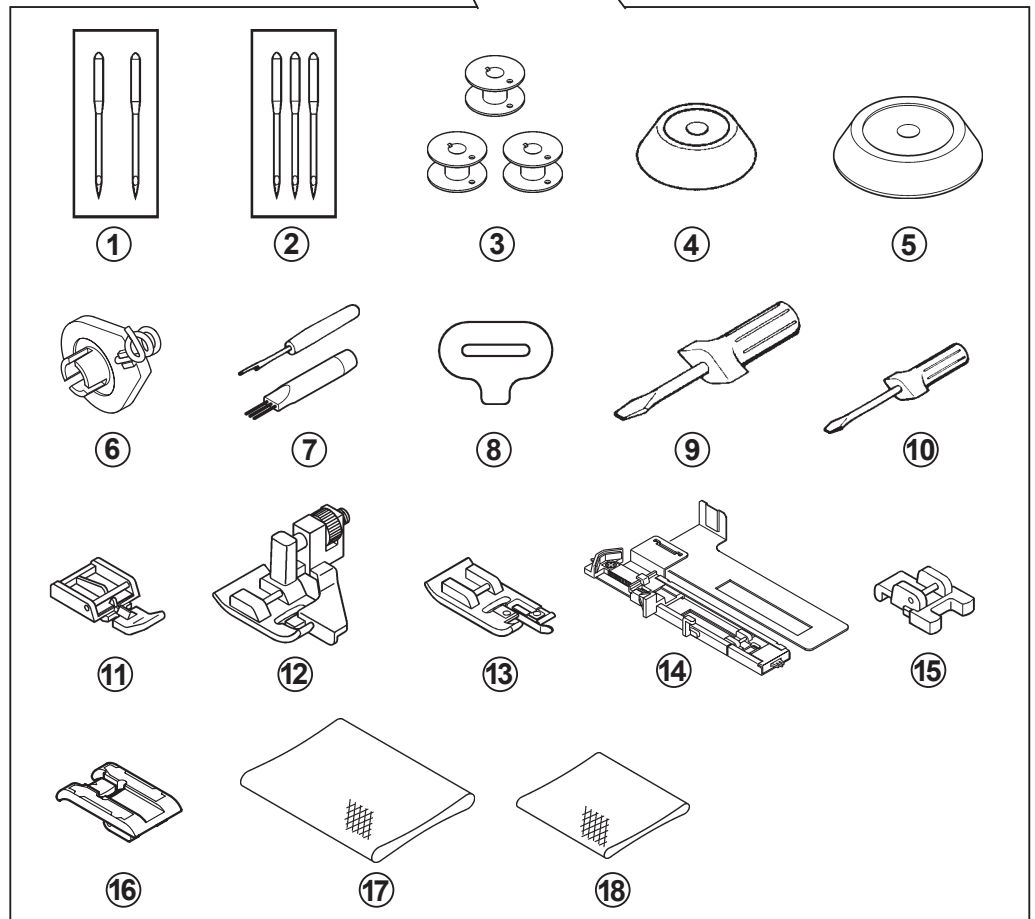
付属品

ミシン用

図の様に付属品入れを左に引き出し、
ふたを開けると付属品が入っています。

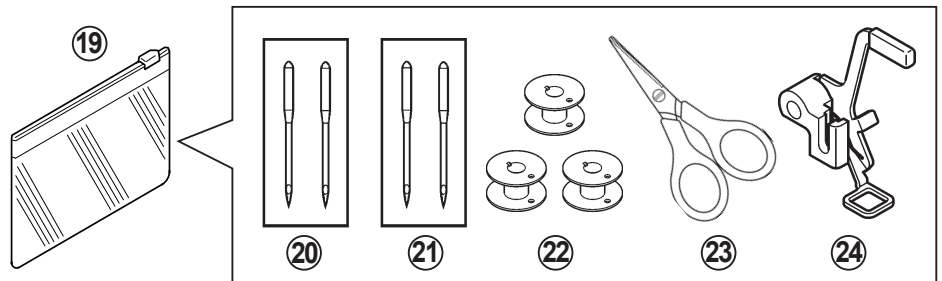


1. ジャガー針 HM×2 (#14 × 2本)
2. ミシン針 HA×1 (#14 × 3本)
3. ボビン (× 3)
4. 糸ごま押え (小)
5. 糸ごま押え (大)
6. 糸かけ案内
7. シームリッパー / ブラシ
8. 針板用ネジ回し
9. ネジ回し (大)
10. ネジ回し (小)
11. ファスナー押え
12. かくし縫い押え
13. 端縫い押え
14. ボタンホール押え
15. ボタン付け押え
16. サテン押え
17. 糸ごまネット (大)
18. 糸ごまネット (小)

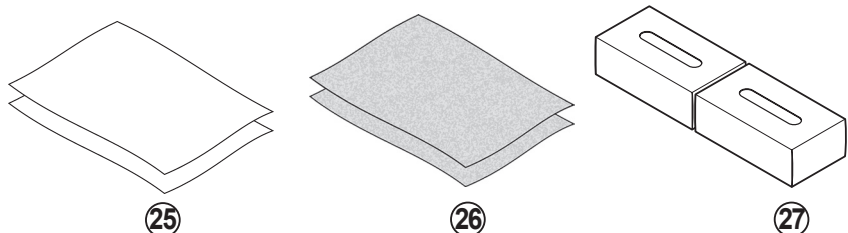


刺しゅう器用

19. 付属品入れ
20. ジャガー針 BL×4 (#11 × 2本)
21. ジャガー針 BL×4 (#14 × 2本)
22. ボビン (× 3)
23. ハサミ
24. 刺しゅう押え



25. 試し布 (2枚)
26. 接着芯 (2枚)
27. 6色刺しゅう糸セット



☆刺しゅうには付属のジャガー針BL×4をご使用ください。
(針のとりかえ方参照)

電源のつなぎ方

電源スイッチを「OFF」にしてください。

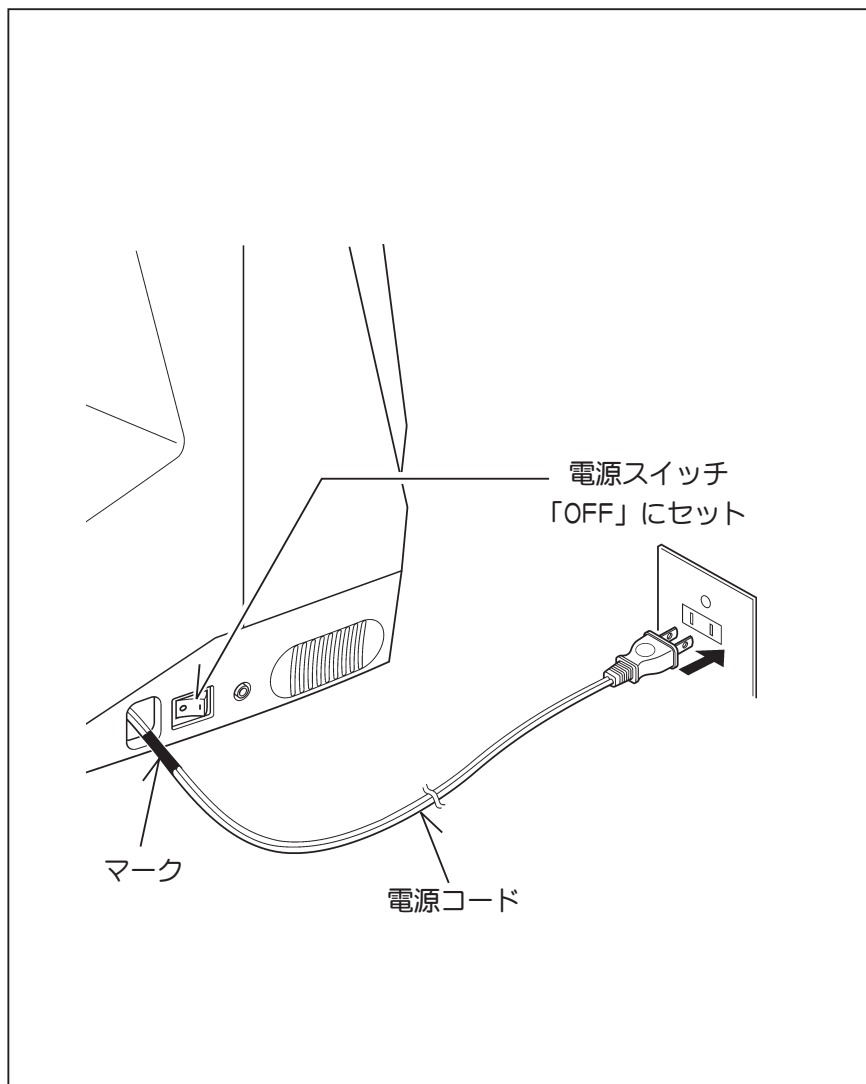
電源コードは、コードリール式になっています。

電源コードを引き出し、差込プラグを電源に差し込みます。

⑧ 電源コードの黄色のマーク以上は引き出さないでください。

コードをしまうときは、少し引っ張って離すと自動的に巻きこみます。

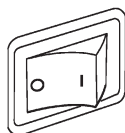
電源スイッチを押して電源を入れます。
(照明ランプも同時につきます。)



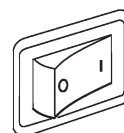
注意

ミシンを使用しないときは、必ず電源スイッチを切り、電源コードを電源から抜いてください。

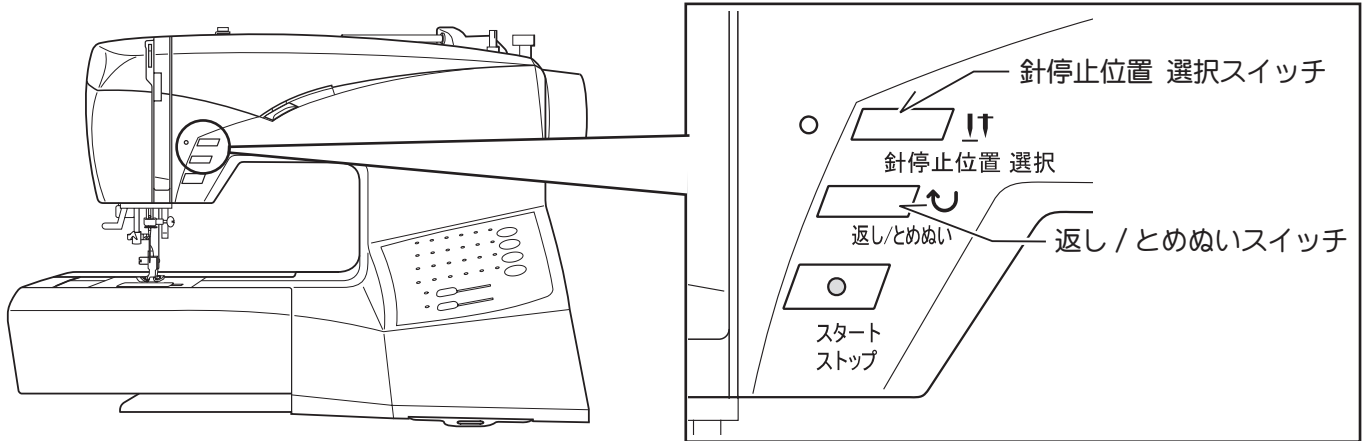
電源スイッチ
「OFF」



電源スイッチ
「ON」



操作スイッチ



針停止位置 選択スイッチ

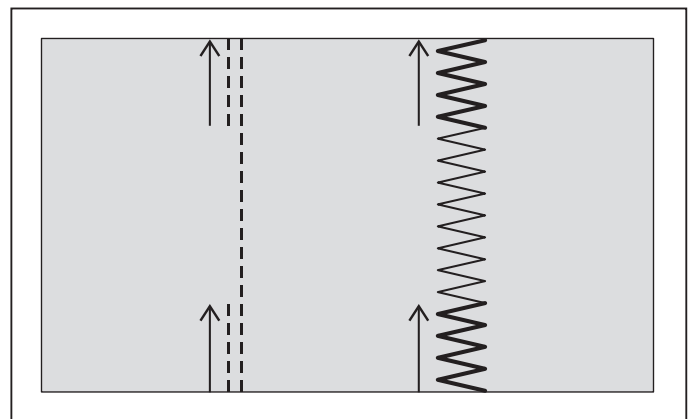
このスイッチを押し、赤いランプが点灯すると、針は常に最下点で止まります。

もう一度押し、ランプが消え、針は常に最上点で止まります。

返し/とめぬいスイッチ

返し縫い機能（直線縫い/ジグザグ縫い）

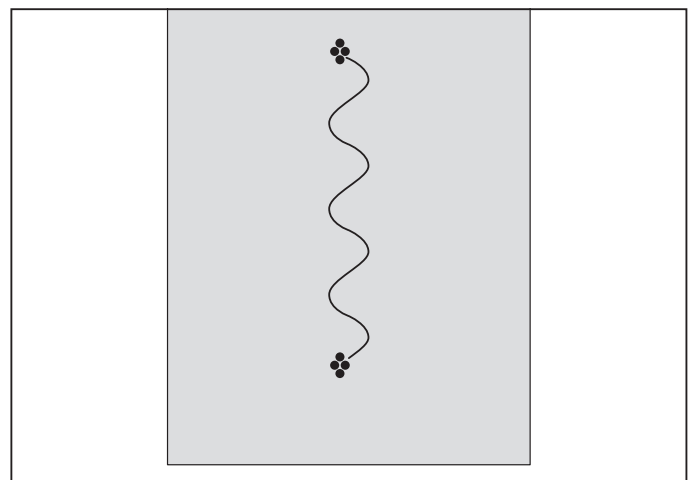
スイッチを押している間は返し縫いし続けます。



止め縫い機能（直線縫い/ジグザグ縫い以外）

直線とジグザグ縫い以外の模様を選択すると、しっかり縫い終わるように数針止め縫いをして自動的に止まります。止め縫いスイッチを押した時点で、その位置に止め縫いをします。

注意： 縫い始めと縫い終わりではどけないようにするために、この機能はとても便利です。



⑧ 使用中に電源コードがコンセントから抜けたり、停電などによりミシンが止まると、再び電気がきてもミシンは動かないようになっています。再度使用するときは、電源スイッチをいったん「OFF」にし、再び「ON」にしてから元の状態まで正しく操作し直し、スタート/ストップスイッチを押してください。

スタート/ストップスイッチ

スタート/ストップスイッチを押すと、ゆっくりとスタートし、もう一度押すと針は最上点でストップします。

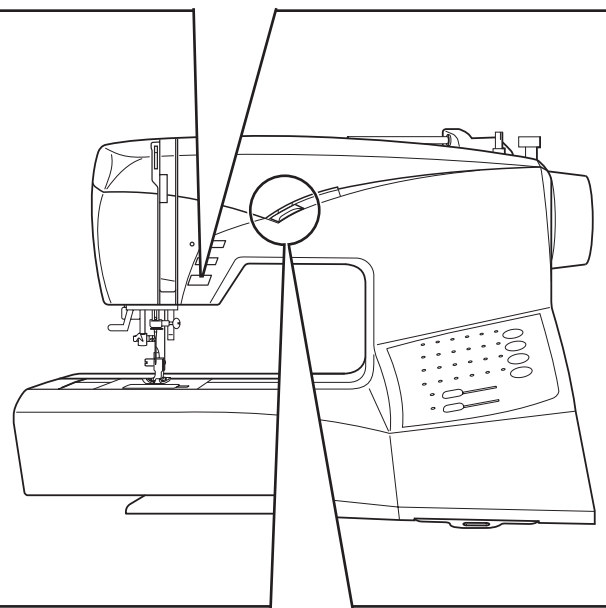
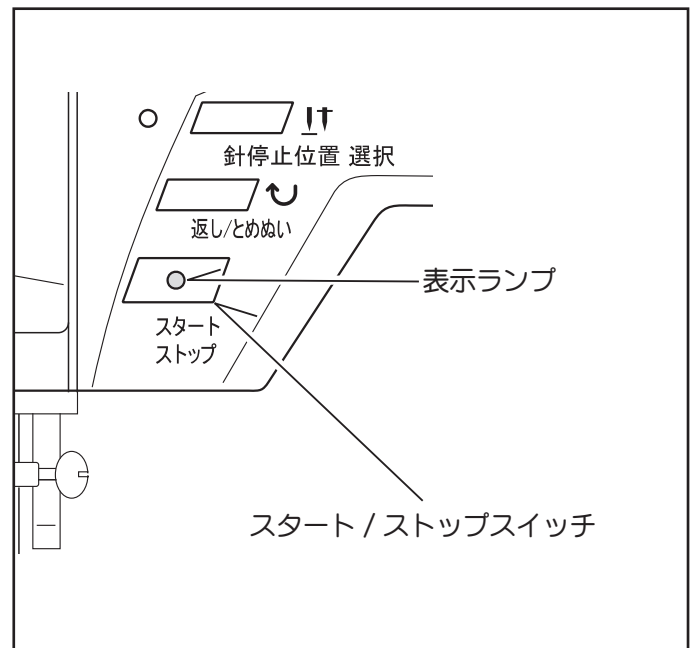
スタート/ストップスイッチの色表示について

- * 緑色は、待機状態のときに表示されます。
- * 赤色は、ミシンが動作中のとき。
- * 赤色点滅は、故障したとき、または、エラー状態のとき。

2～3秒間の点滅は、間違った操作をしたとき。

連続点滅は、異常状態が発生したとき。

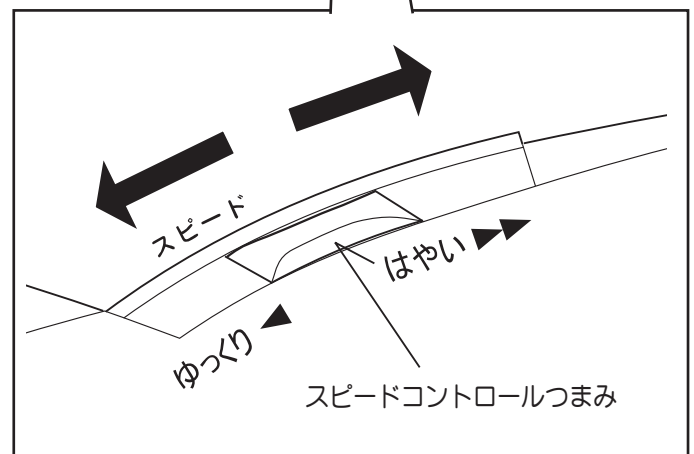
ミシン使用中に布詰まり、糸噛み、糸絡みなどの不具合で、ミシンが回転できなくなる状態のときにモーター保護のために連続点滅して異常状態を知らせます。このような場合には電源を「OFF」にして速やかに不具合部分を取り除いてから、ミシンの電源を再度入れてください。



スピードコントロール

自由に速度調整が可能で、低速でもパワーがありますので、何枚も重ねた布でも針を通すことができます。つまみを右に動かすとスピードが増し、左に動かすとスピードが落ちます。

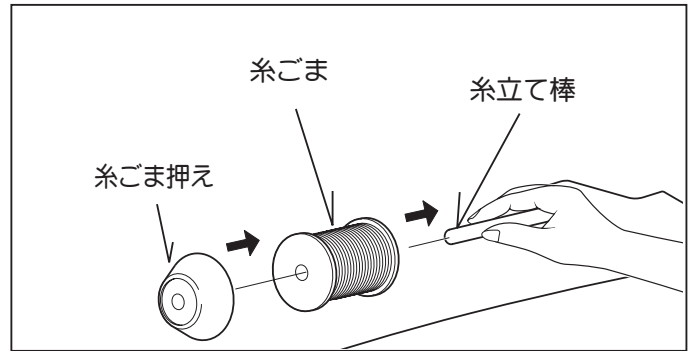
最高速度は、縫い模様ごとに設定されています。



糸ごまのセット

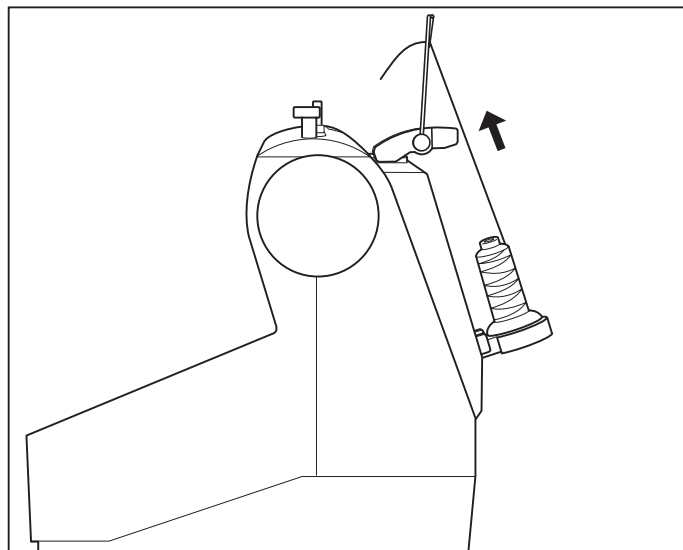
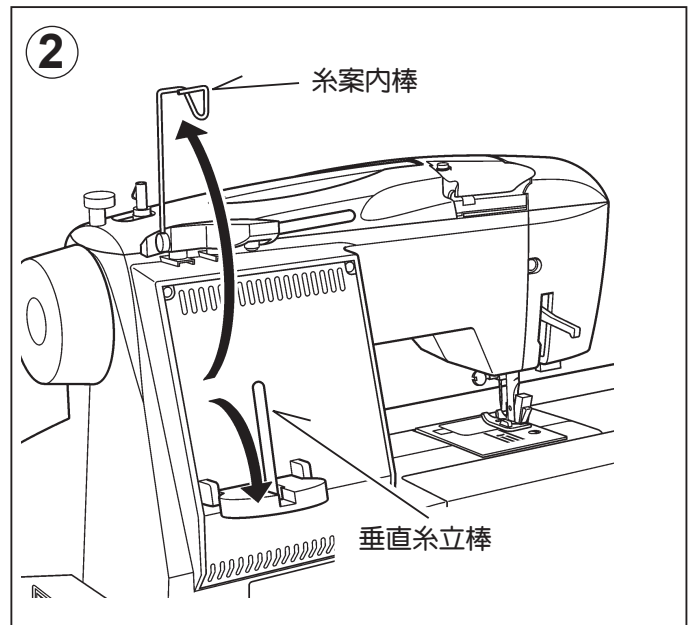
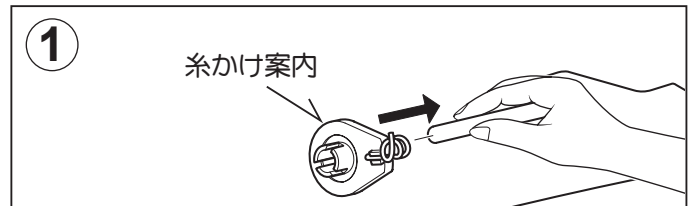
水平糸立棒（通常の糸ごま用）

糸立て棒に糸ごまを差し込み、糸ごま押えをかぶせます。大きいサイズの糸ごまを使用するときは、糸ごま押え（大）を使用します。

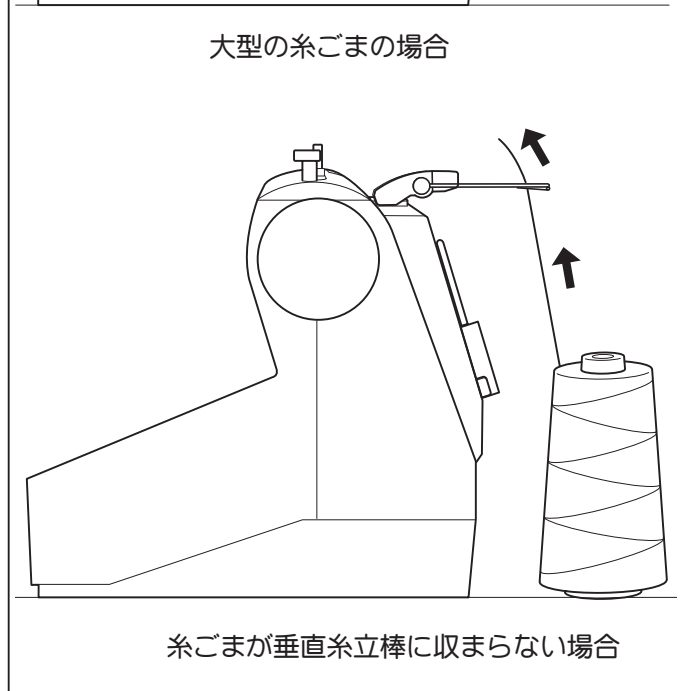
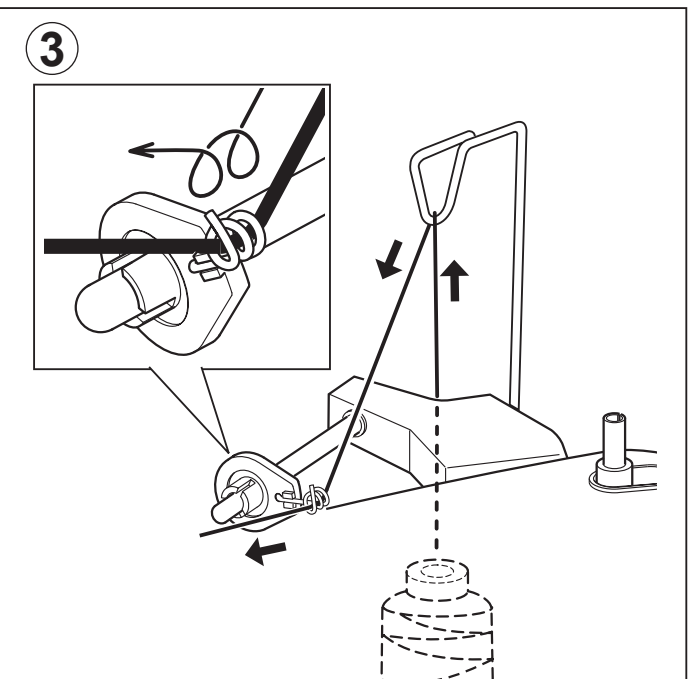


垂直糸立棒（大型の糸ごま用）

1. 水平糸立棒に糸かけ案内を取り付けます。
2. 糸縦棒を引きおろし、糸案内棒を引き上げます。
3. 糸立棒に糸ごまを差し込み、糸案内棒、糸かけ案内を經由して糸を引きます。



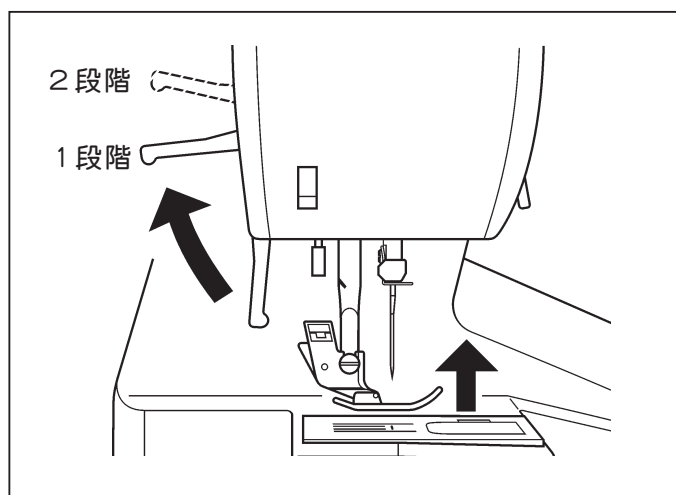
大型の糸ごまの場合



糸ごまが垂直糸立棒に収まらない場合

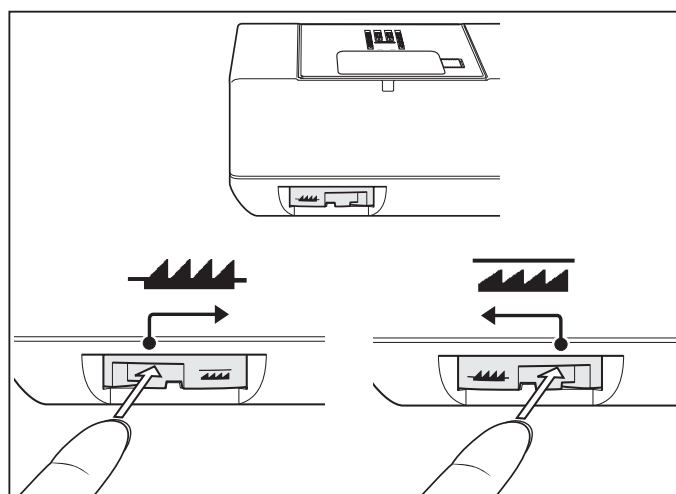
押え上げ

1. 縫うときは、押え上げを下げておきます。
2. 押え上げは2段階です。1段階目は手を離しても押え上げは保持されます。2段階目は更に上へ手で支えながら持ち上げます。



送り歯ドロップレバー

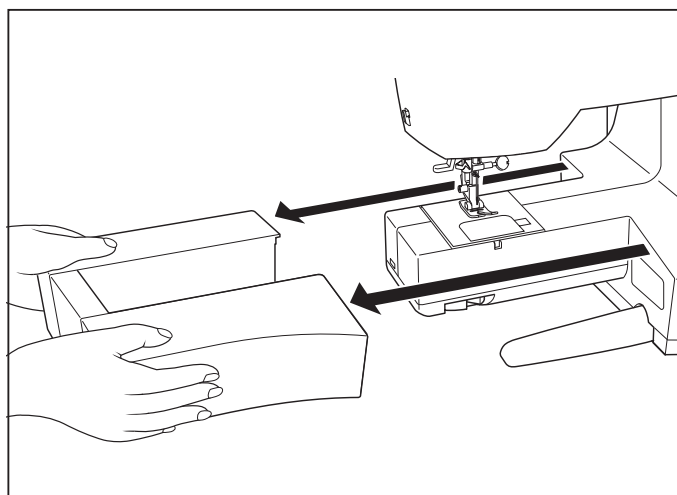
このレバーで送り歯を下げると、手で自由に布を送れますので、仮り縫い（しつけ縫い）に便利です。



フリーアーム（筒縫い）

このミシンは、補助テーブルを左に引っ張って外すとフリーアーム型になります。

補助テーブルをもとに戻すときは、テーブルをミシンに沿ってすべらせながら、所定の位置に差し込みます。



ミシンのバランスの取り方

確認方法

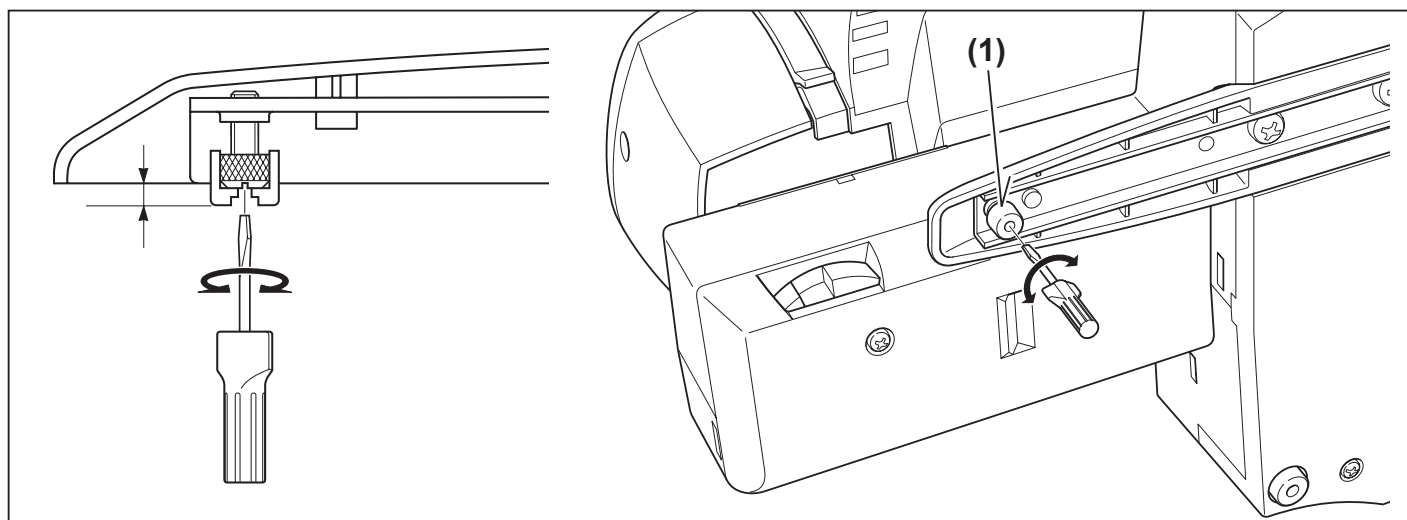
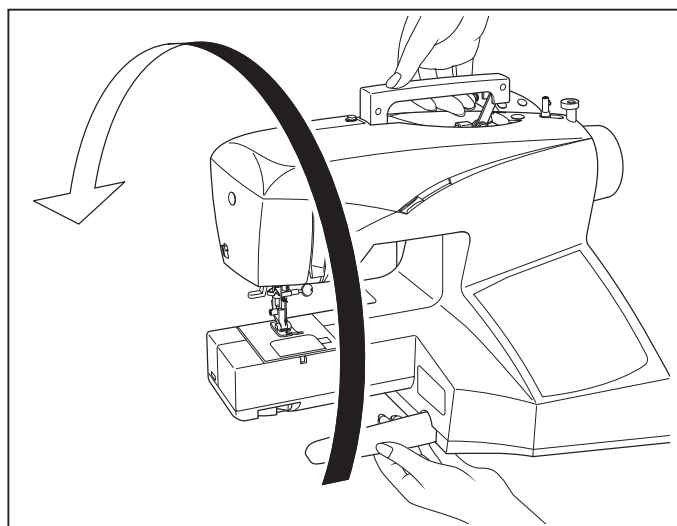
ミシンを平らな場所に置き、バランスが取れているか確認します。

調整方法



ミシンを両手で持ち、静かに寝かせます。

穴(1)にネジ回し(小)を差し込み、回転させて調整します。

調整後、バランスが取れているか確認します。



下糸の巻き方

 注意	使用するボビンについて 右記の寸法のプラスチック製ボビン を使用してください。 金属製ボビンは使用しないでください。	直径：20.5ミリ  高さ：11.5ミリ 材質：プラスチック

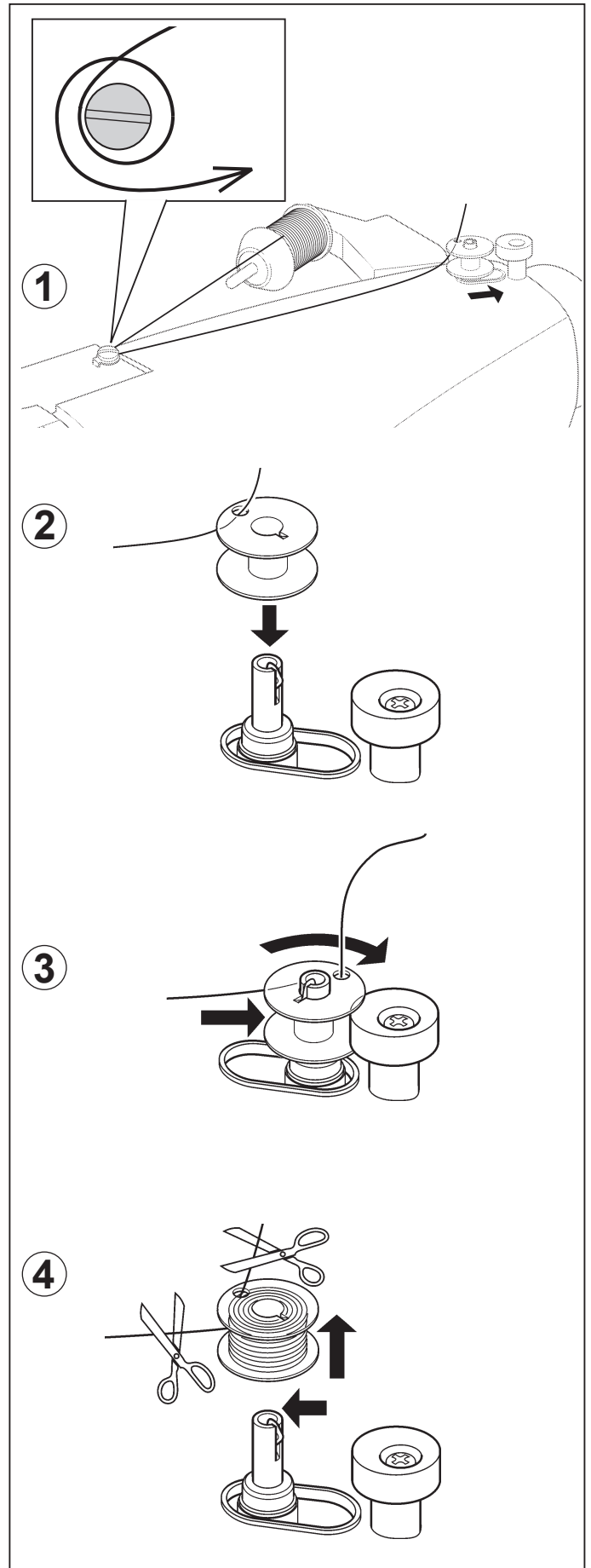
1. 糸立て棒に糸ごまを入れ、糸ごま押えをかぶせます。糸案内①を經由して糸ごまから糸を引きます。

2. ボビンの穴に糸を通し、ボビンを糸巻きレバーにはめこみます。

3. 糸の端を持ち、ボビンを矢印の方向に押しします。スタート/ストップスイッチを押して糸を巻きます。(糸を巻いている間は針は動きません。)

ボビンが数回転したら、糸を離してください。

4. 下糸が一杯になって、ボビンの回転が止まったら、すぐにスタート/ストップスイッチを押してミシンを止めます。糸巻きレバーを左にもどし、ボビンを外し、糸の端を切ってください。



ボビンのセット

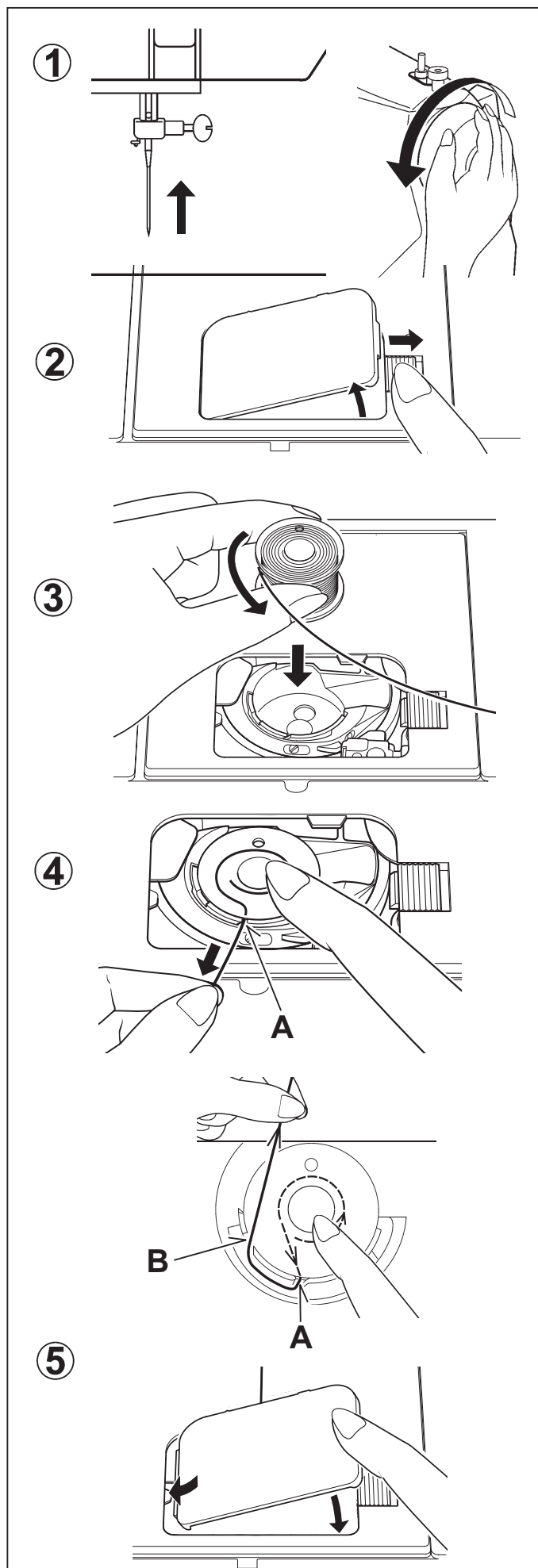
1. プーリーを手前に回して、針を最上点に上げます。

2. 解放レバーを右に押して、かまカバーをはずします。

3. 糸の端を矢印の方向に出してボビンを入れます。

4. ボビンを指で押えながら、糸を手前のみぞAからBに
かけるようにして向こう側に出します。

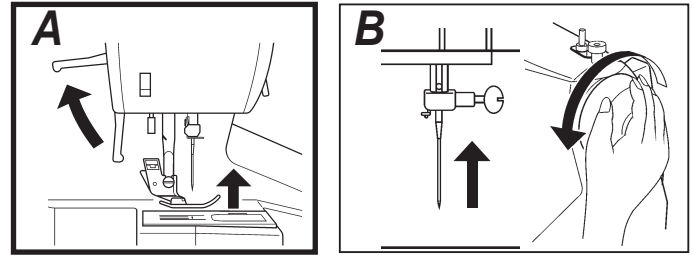
5. 糸を10 cmほど引き出し、かまカバーを取り付けます。



上糸のかけ方

A 上糸をかける前に、必ず押え上げを上げます。

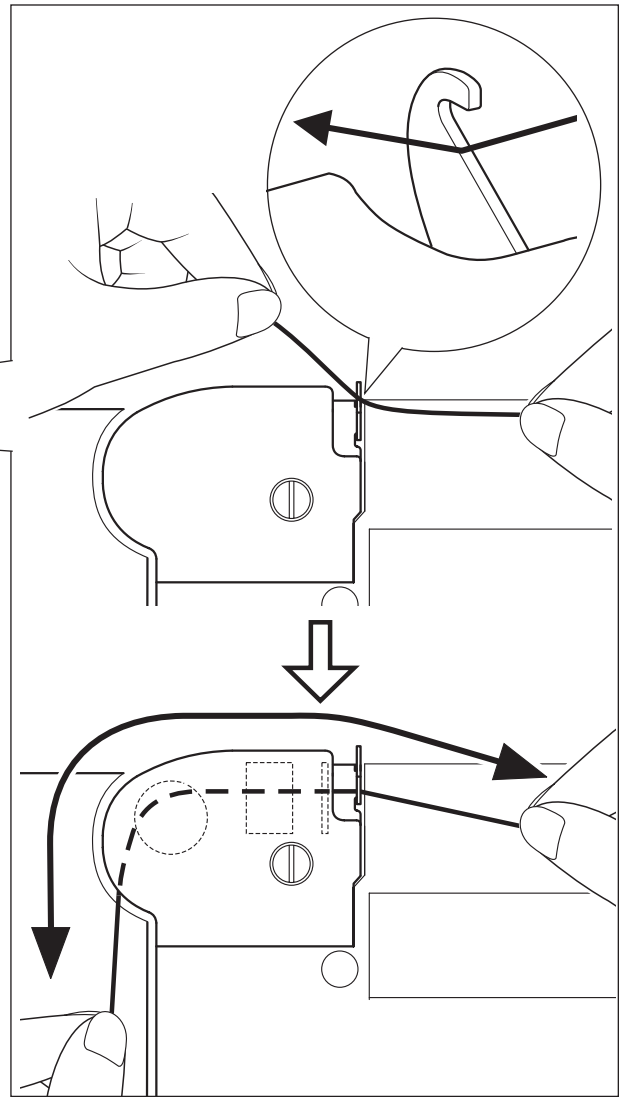
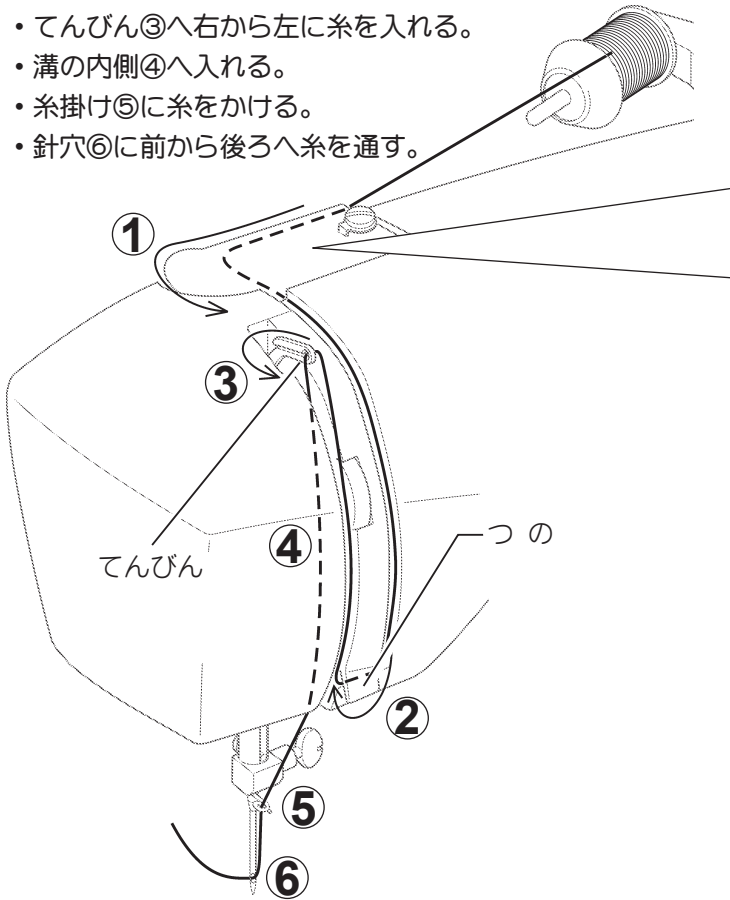
注意 押え上げを上げないで上糸をかけると、内蔵されている糸調子皿に糸が通らない為、糸調子が取れず、正常な縫いが出来ません（下記ヒント参照）。



B プーリーを手前に回して、針を最上点に上げます。

C 図の順番に糸をかけます。

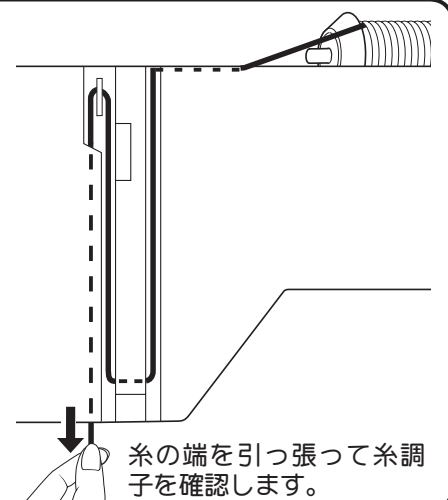
- 両手で糸案内①に糸をかけ、止まるところまで手前に引きます。右手で糸を保持しながら、左手で溝にそって糸を通し、下へ引っぱります。
- つの②の内側にUターンする。
- てんびん③へ右から左に糸を入れる。
- 溝の内側④へ入れる。
- 糸掛け⑤に糸をかける。
- 針穴⑥に前から後ろへ糸を通す。



上糸かけのヒント

内蔵されている糸調子皿に正しく糸が通っているか確認する時は、下記の要領で行ってください。

- まず、押え上げレバーを下げます。
- 上糸調子ダイヤルを数字の大きい方へ回し、糸の端を引っ張って糸調子が強くなっているか確認します。
- 次にダイヤルを数字の小さい方へ回し、糸の端を引っ張って糸調子が弱くなっているか確認します。
- 確認が終わったら、ダイヤルを元の位置（S）に戻します。

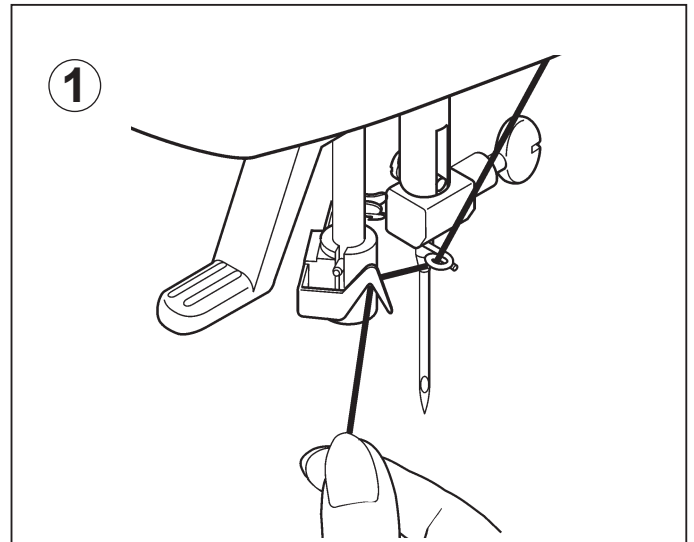


糸の端を引っ張って糸調子を確認します。

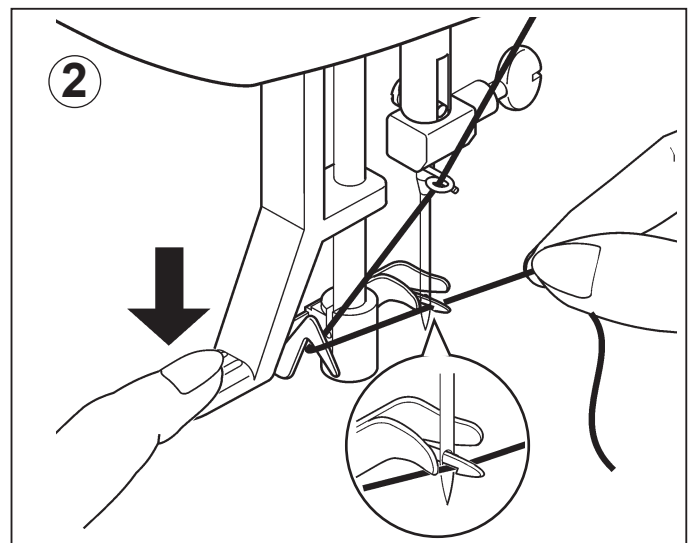
自動糸通し器の使い方

押え上げレバーを下げます。
プーリーを手前に回し、針を最上点付近にしてください。

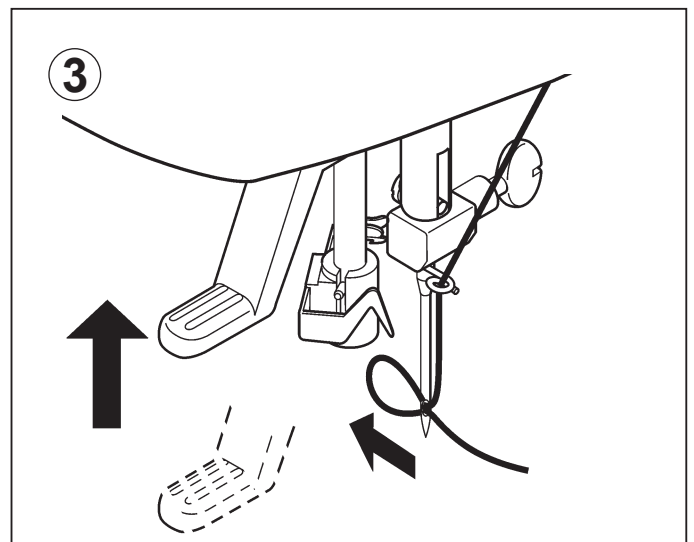
1. 右手に糸を持ち、ガイドの右側から左へ掛けます。



2. 糸通しレバーを最後まで押し下げ、糸を糸掛けカギに引っかけます。糸の端を手前上方に持ってきて軽く持ちます。



3. 糸通しレバーを上げると、糸が針穴に輪になって通りますので、輪になった糸を向こう側に引き出してください。



注 針穴にカギが通らないままムリに押し下げるとカギが曲がり、針穴に通らなくなることがあります。

もしカギが曲がってしまった場合は、付属のネジ回しなどを使って、針穴に入る位置に調整し直してください。

注 細い針に太い糸を使うと糸通しができません。



注意

ミシンが動いているときに糸通しレバーを下げると、故障の原因になりますのでご注意ください。

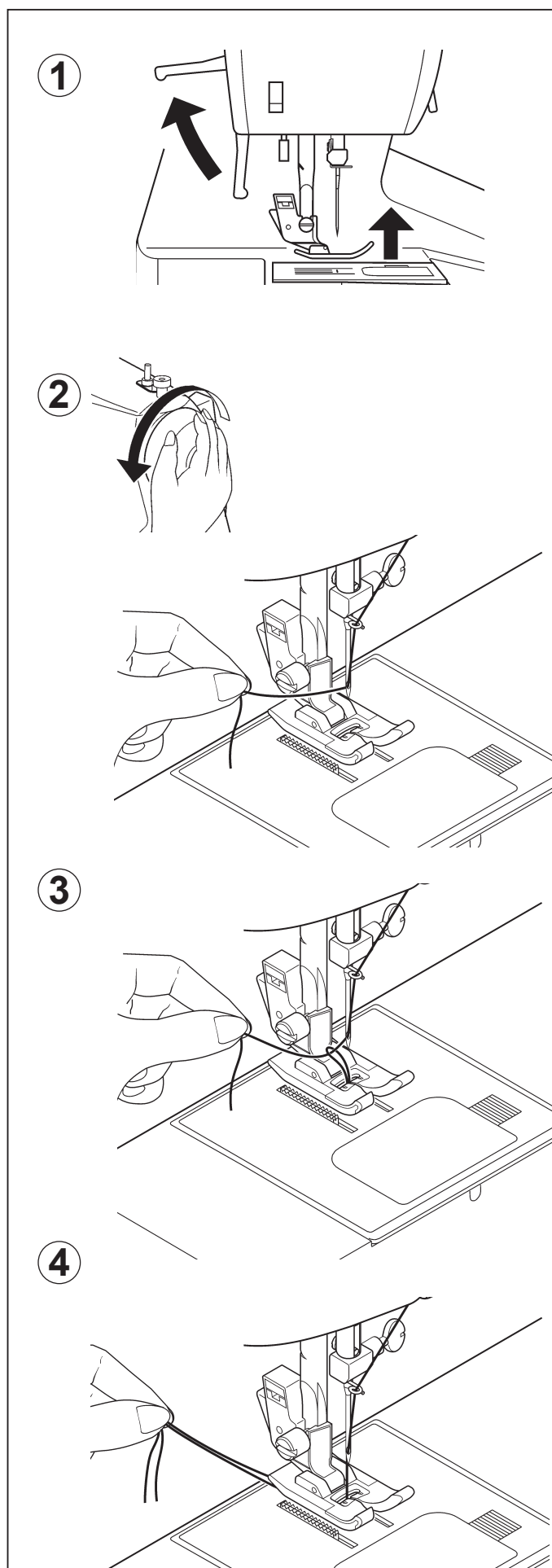
下糸の引き上げ方

1. 押え上げを上げてください。

2. 針糸をゆったりと左手で持ち、プーリーを手前に完全に一回転させてください。

3. 左手の上糸を軽く引っ張り上げると、下糸がついてあがります。

4. 両糸を押え金の下を通して後ろへ引き、糸を10cmほど残しておいてください。



針と糸と布の使い方

HA×1 家庭用ミシン針を使用してください。

布地に適した針と糸を使用してください。

上糸と下糸は通常同じ種類の糸を使います。

曲がった針や先の丸くすりへった針は使用しないでください。

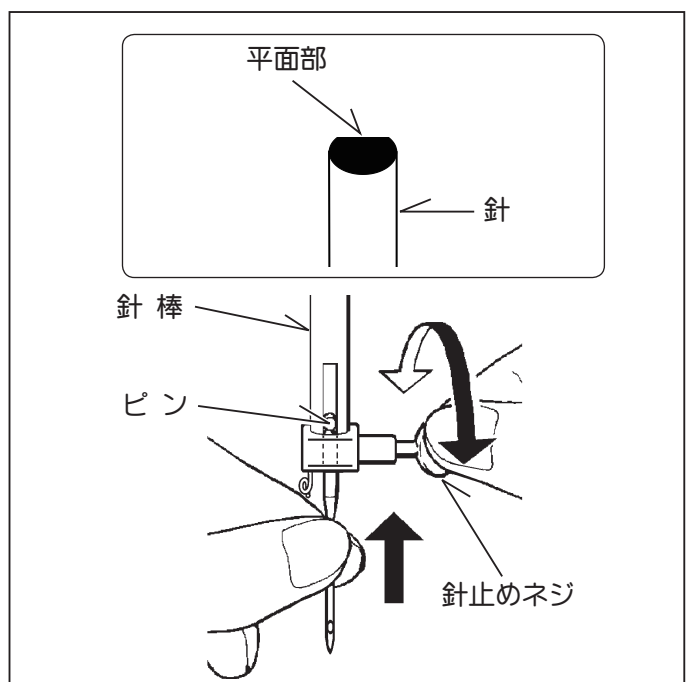
縫いにくい布地の縫い方は25ページを参照ください。

布 地	糸 (番手が大きいほど細くなります)	針 (番手が大きいほど太くなります)
薄物地：合織布（アセテート）、絹地など。 アドバイス：縫いしわを防止するには縫目ピッチ2～3ミリをおすすめします。	カタン糸（木綿糸）、 化繊糸（シャツペスパン）、絹糸 80～100番	9～11番
普通地：木綿地（ブロード・キャラコ・シーティングなど）、 毛織物（フラノ・フェルトなど）、 合織布（ギャバジンなど）、絹地 アドバイス：穴のあいているレースを縫う場合、布の下に紙を敷いてください。	カタン糸（木綿糸）、 化繊糸（シャツペスパン）、絹糸 50～80番	11～14番
厚物地：木綿地（デニム・タオルなど）、 毛織物（ツイード・フェルトなど）、 合織布（レーヨンなどのカーテン地）	カタン糸（木綿糸）、 化繊糸（シャツペスパン）、絹糸 30～60番	14～16番
伸縮地：ジャージー、トリコット、メリヤス、 ニット地などの伸縮性のある布地	カタン糸（木綿糸）、 化繊糸（シャツペスパン）、絹糸 50～80番	11～14番 アドバイス：ニット針の使用をおすすめします。
* ナイロン透明糸を使用される場合、糸の太さ / 布の種類に関係なく、針の太さは14番～16番をおすすめします。 アドバイス：針は太め、上糸圧力は弱めにし、下糸は少なめに巻いてください。		

針のとりかえ方

1. プーリーを手前に回し、針棒を最上点にあげます。
2. 針止めネジを手またはネジ回しでゆるめ、針をはずします。
3. 新しい針の柄の平らな面を向こう側に向けて持ち、針が針棒のピンに当たるまで差しこみます。
4. 手またはネジ回しで針止めネジをかたくしめます。

注意 針を取りかえるときは、必ず電源スイッチを切ってください。



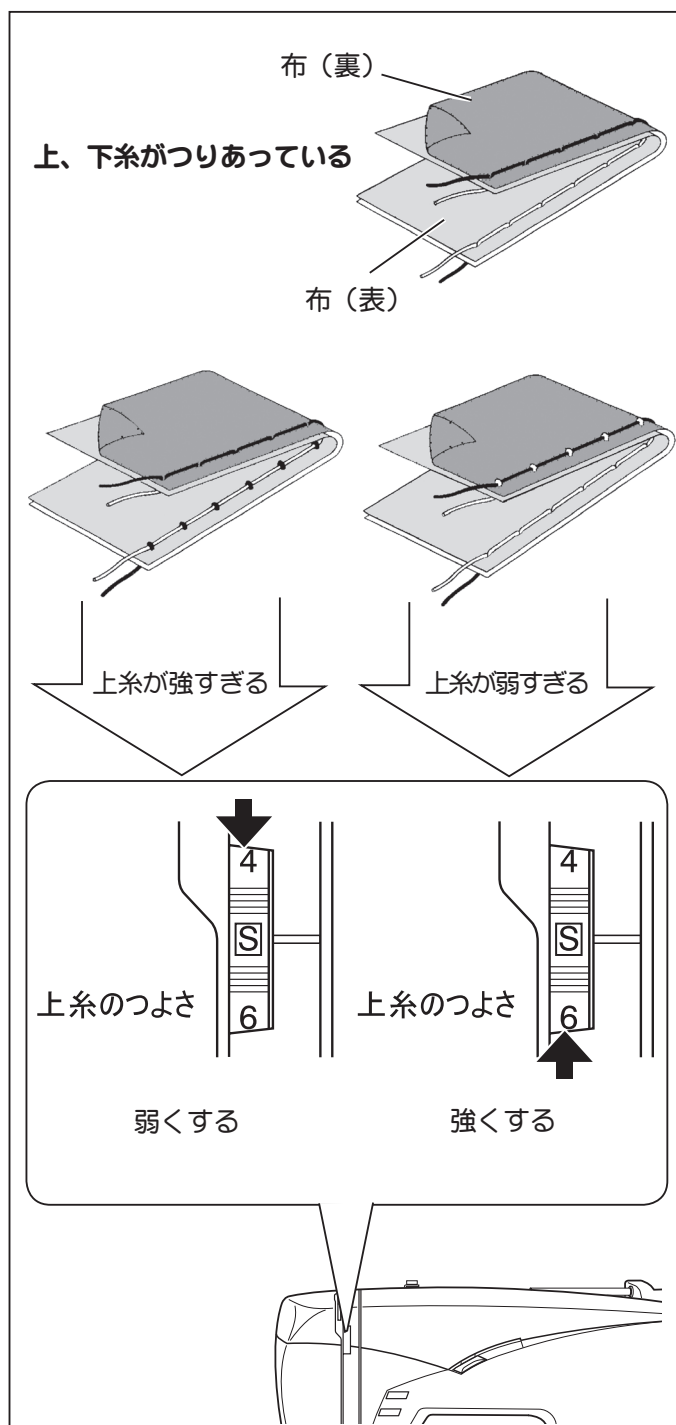
上糸調子のとり方

直線縫いの場合、上糸と下糸が布の中間で適当な張力をもってからみ合うのが、正常な糸調子です。

通常の場合は、「S」に合わせてください。

上糸が強くて、布の表に下糸が出るときは、上糸調子ダイヤルを数字の小さい方へ回して上糸調子を弱めます。

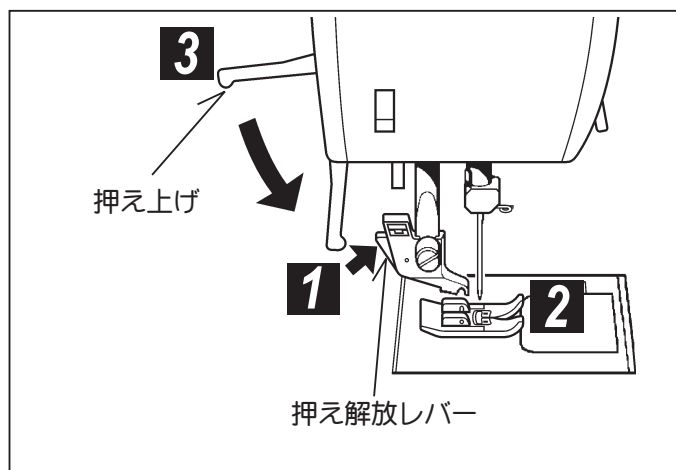
上糸が弱くて、布の裏に上糸が出るときは、上糸調子ダイヤルを数字の大きい方へ回して上糸調子を強めます。



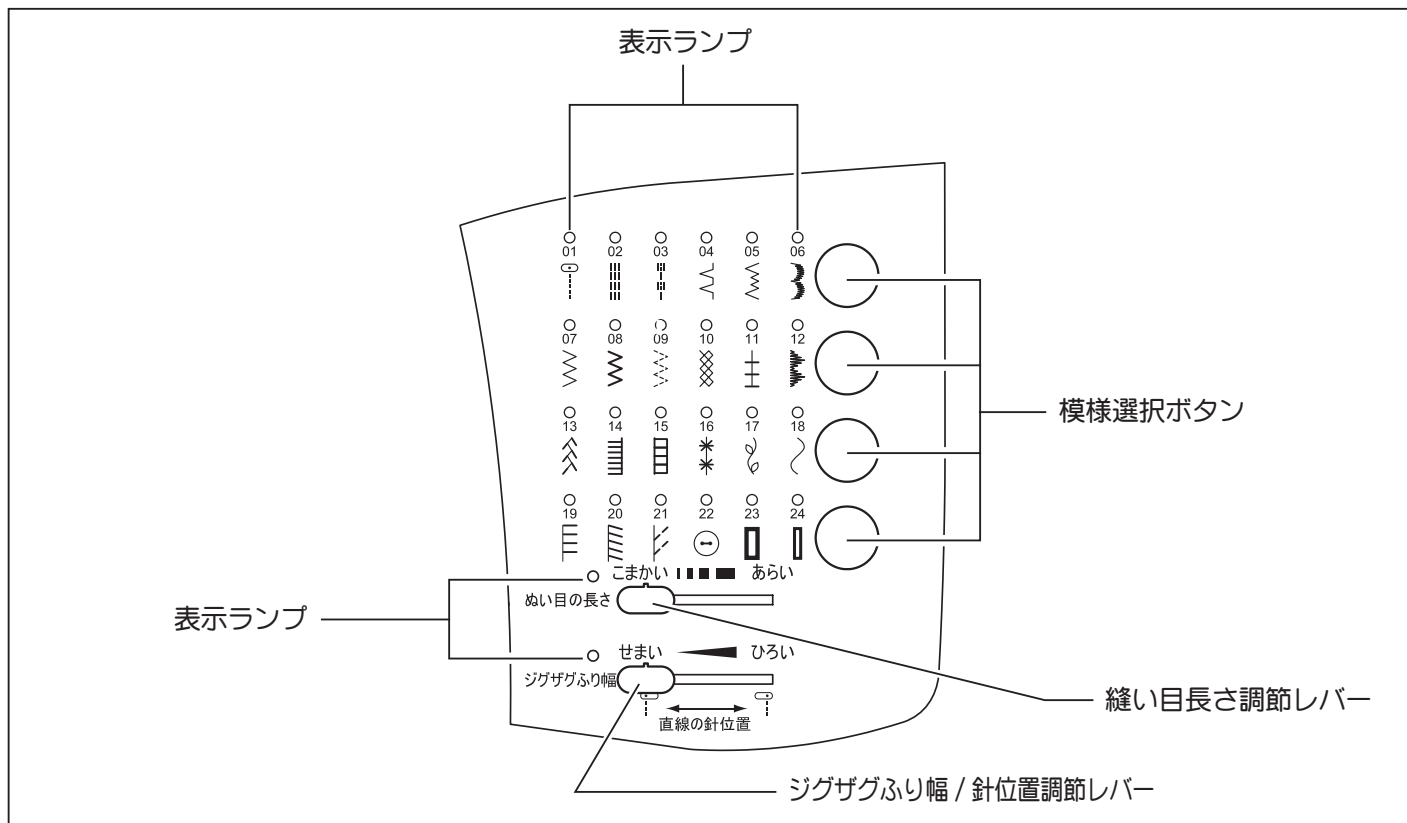
押えのとりかえ方

押えと針を上げます。

1. 押え解放レバーを矢印の方向へ押すと、押えがはずれます。
2. 針板と押えの針穴が合うように新しい押えを針板の上におきます。
3. 押え上げを下げると押えがセットされます。入りにくい時は、押え解放レバーを押すと入ります。



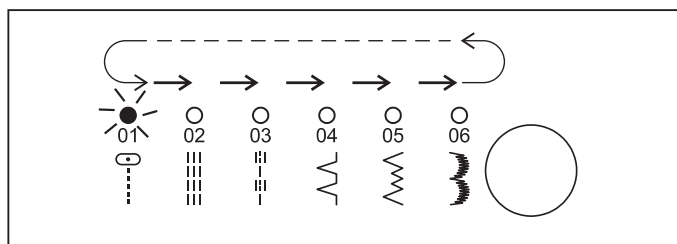
操作パネルの機能



■ 模様選択ボタン

電源を入ると直線縫いの上の表示ランプが点灯します。この状態で直線縫いをすることができます。

他の模様を縫う時は、縫いたい模様がある列の右端の模様選択ボタンを希望の模様の上の表示ランプが点灯するまで押します。



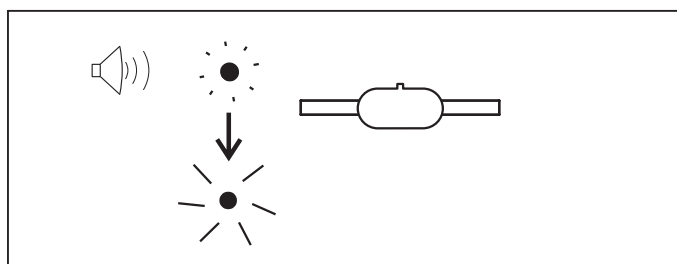
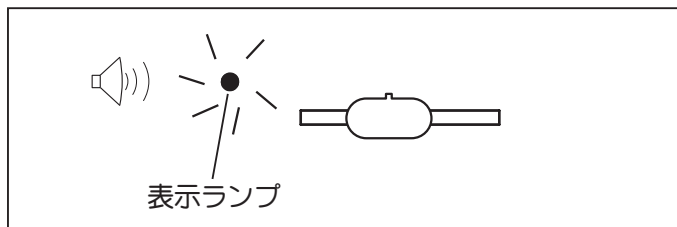
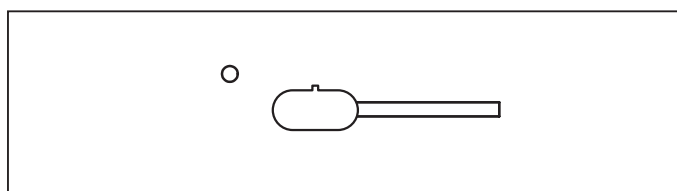
■ 縫い目長さ及びジグザグふり幅 / 針位置調節レバー

ミシンには縫い目長さやジグザグふり幅が自動設定されており、模様を選択すると、あらかじめ自動設定された縫い目長さ、ジグザグふり幅または直線縫いの針位置で縫うことができます。

調節レバーを動かすと自動設定値を簡単に確認できます。レバーが自動設定値の所まで来ると、レバーの左側にある表示ランプが点灯し、「ピッ」と音で知らせます。











お好みの縫い目長さやジグザグふり幅、直線針位置を決めたい場合は「自動設定値」にしてからでないと、変更できません。

自動設定値から開始し、レバーを左右の調整したい位置まで動かします。手動設定位置にくるたびに表示ランプが3回点滅し、「ピッ」と音が鳴ります。

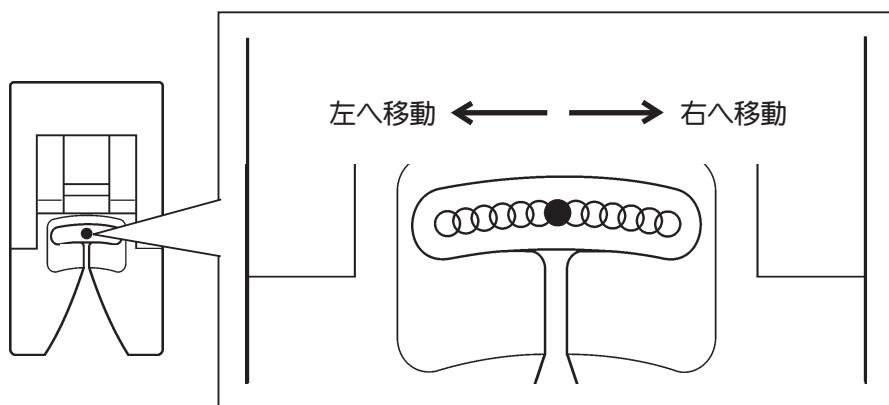
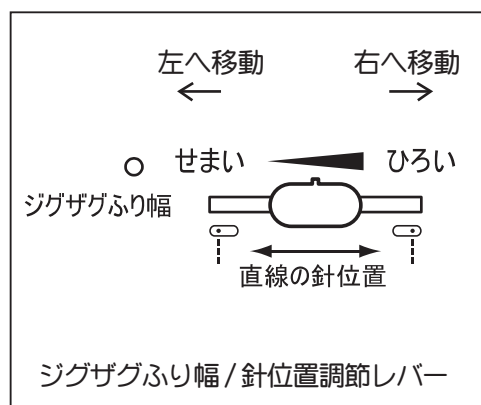

















2. さあ縫ってみましょう ……

縫い目長さとお目巾早見表

縫い模様	模様	縫い目長さ (mm)		直線縫い針位置	
		基本設定 (自動)	微調整 (手動)	基本設定 (自動)	微調整 (手動)
直線	01 	2.5	0.5 ~ 4.75	中基線  左基線-右基線*	
直線伸縮	02 	2.5	1.5 ~ 3.0		
点線キルト	03 	2.5	2.0 ~ 4.0		-
縫い模様	模様	縫い目長さ (mm)		ジグザグふり幅 (mm)	
		基本設定 (自動)	微調整 (手動)	基本設定 (自動)	微調整 (手動)
まつり	04 	2.0	1.0 ~ 3.0	3.0	1.0 ~ 6.0
伸縮まつり	05 	2.0	1.0 ~ 3.0	3.0	2.0 ~ 7.0
スカラップ	06 	0.5	0.25 ~ 1.5	7.0	3.5 ~ 7.0
ジグザグ	07 	2.0	0 ~ 3.0	5.0	0 ~ 6.0
ジグザグ伸縮	08 	2.5	1.5 ~ 3.0	5.0	2.0 ~ 6.0
点線ジグザグ	09 	1.5	0 ~ 2.5	6.0	2.5 ~ 6.0

* 直線縫いは13種の基線が選択できます。



縫い模様	模様	縫い目長さ (mm)		ジグザグふり幅 (mm)	
		基本設定 (自動)	微調整 (手動)	基本設定 (自動)	微調整 (手動)
スモッキング	10 	2.0	1.5 ~ 3.0	6.0	3.0 ~ 6.0
はぎ合せ	11 	2.5	1.5 ~ 3.0	5.0	2.0 ~ 7.0
ピラミッド	12 	0.5	0.25 ~ 1.5	7.0	3.5 ~ 7.0
フェザー	13 	2.0	1.0 ~ 3.0	6.0	3.0 ~ 6.0
ブランケット (1)	14 	2.5	1.5 ~ 3.0	5.0	1.0 ~ 7.0
ボックス	15 	2.5	1.5 ~ 3.0	5.0	1.0 ~ 7.0
スター	16 	2.5	1.5 ~ 3.0	7.0	3.5 ~ 7.0
リーフ	17 	2.0	1.5 ~ 2.5	7.0	3.5, 7.0
サーフ (波)	18 	1.75	0.75 ~ 2.5	7.0	3.5, 7.0
ブランケット (2)	19 	2.5	1.5 ~ 3.0	7.0	1.0 ~ 7.0
オーバーエッジ	20 	2.0	0.75 ~ 3.0	5.0	1.0 ~ 7.0
パインリーフ	21 	2.0	1.0 ~ 3.0	5.0	1.0 ~ 7.0
ボタン付け	22 	-	-	3.0	2.0 ~ 4.5
ボタンホール	23 	0.5	0.5, 0.75	3.5	-
	24 	0.5	0.5, 0.75	3.5	-

直線縫い

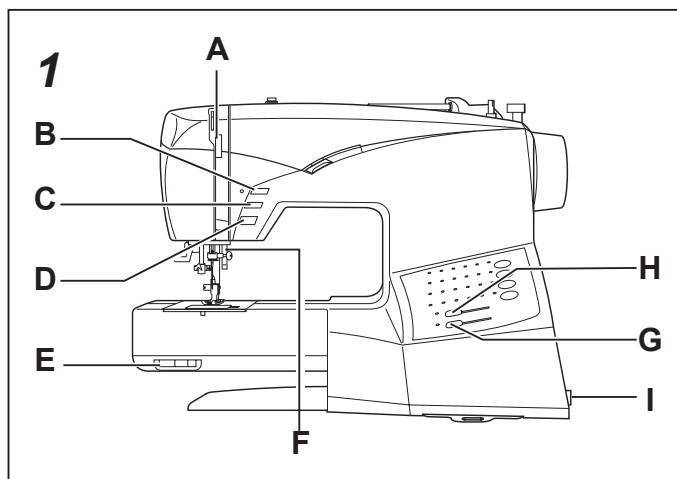
01

直線縫いはミシン縫いの基本ですので、試し縫いをして正しい使い方をよく覚えましょう。

1. ミシンのセット

押え「ジグザグ押え」 上糸調節ダイヤル「S」

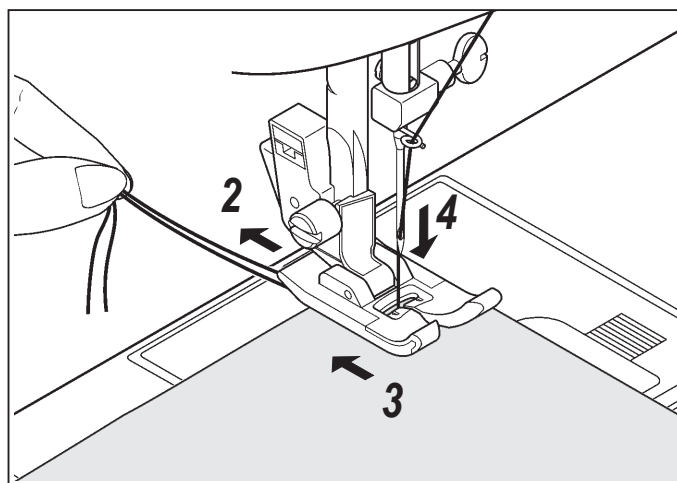
- A. 上糸調子ダイヤル
- B. 針停止位置 選択スイッチ
- C. 返し/とめぬいスイッチ
- D. スタート/ストップスイッチ
- E. 送り歯ドロップレバー
- F. 押え上げ
- G. ジグザグふり幅/針位置調節レバー
- H. 縫い目長さ調節レバー
- I. 電源スイッチ



2. 上糸と下糸をそろえて押えの下から向こう側へ10cmほど引き出します。

3. 布を押えの下に入れ、押えを下げます。

4. プーリーを手前に回して、針を布に突き刺します。



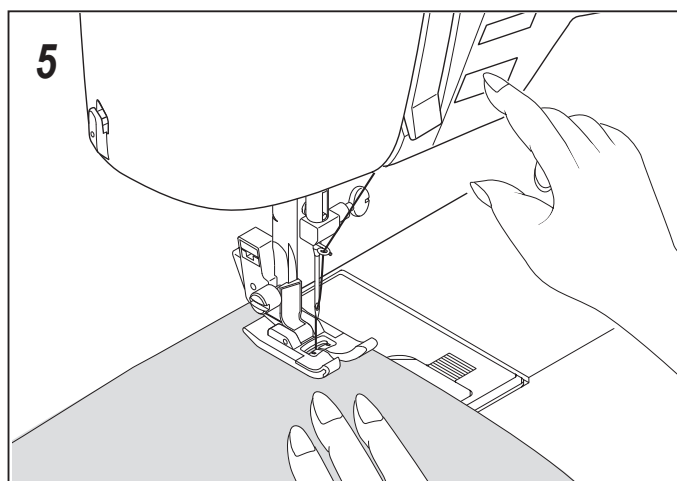
5. スタート/ストップスイッチを押して縫い始めます。

「はやい」スピードをお望みの場合は、スピードコントロールのつまみを右に動かしてください。

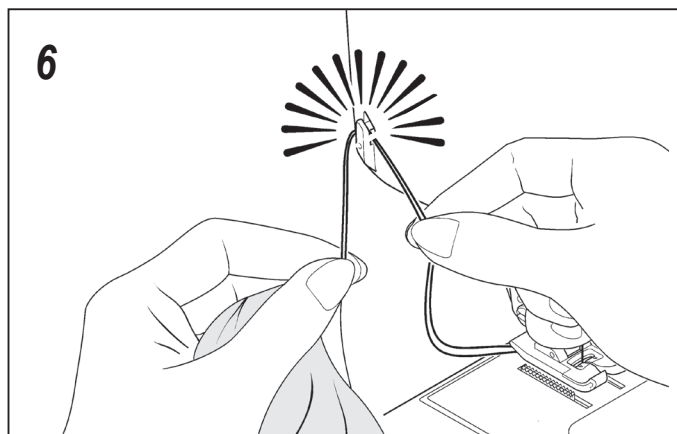
縫っている間は、ミシンの布送りに合わせて、軽く導いてください。

布はしまで来たら、スタート/ストップスイッチをもう一度押してミシンを止めます。

⑧ 糸締りが強い場合、上糸調子ダイヤルをやや弱めにしてください。

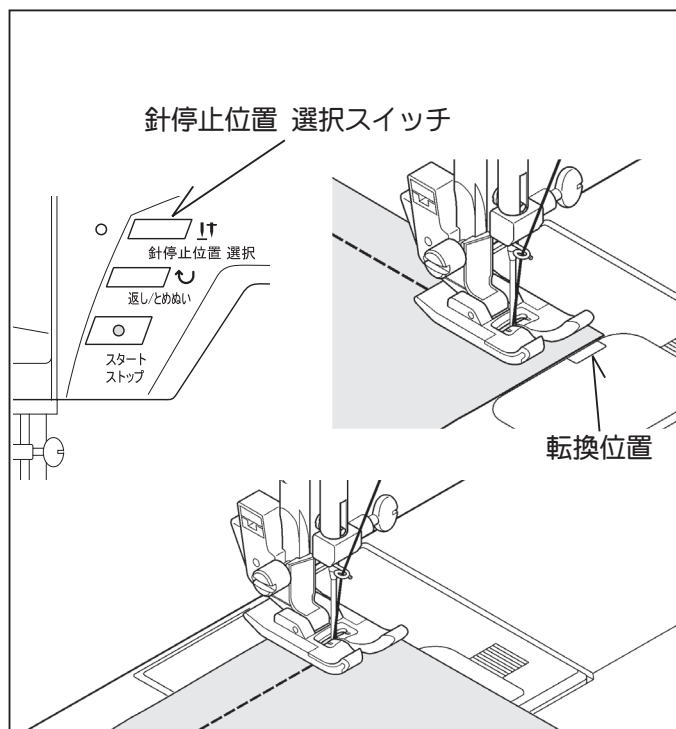


6. 針と押えを上げ、布地をうしろへ引き出し、糸切りで糸を切ります。



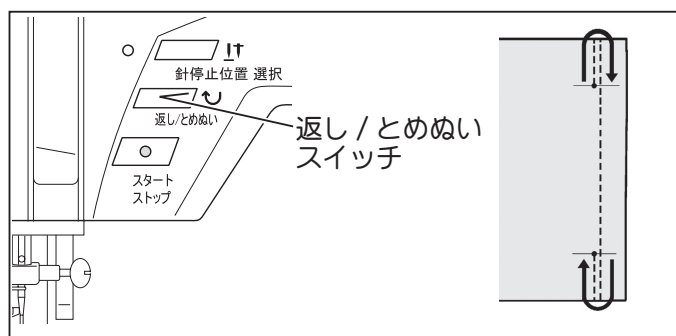
縫い方向の変え方 (布端から 16mm で縫う場合)

1. 布の角が針板上の「転換位置」に来たら、スタート / ストップスイッチを押してミシンを止めます。
2. 針停止位置 選択スイッチを押して針を布地に突き刺し、押えを上げます。
3. 布地をまわし、布の下端を 16mm の線に合わせます。
4. 押えを下げて再び縫い始めます。



返し縫い

縫い始めと縫い終わりに3～5針返し縫いをしておきますと、縫い目がほころびず、丈夫になります。返し/とめぬいスイッチを押している間は、返し縫いをします。



ファスナーつけ

01

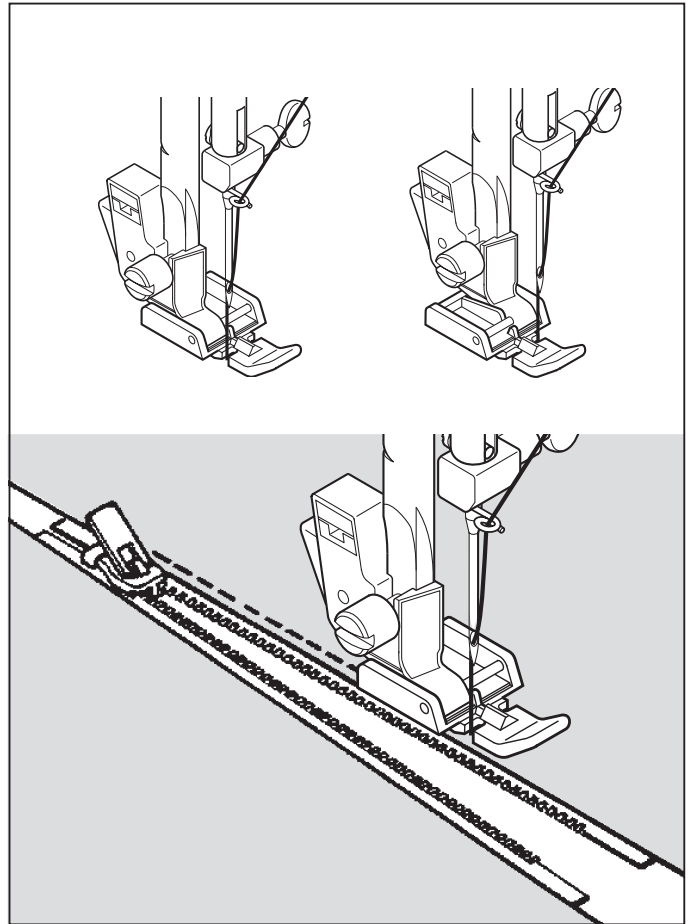
ミシンのセット

ぬい模様「直線縫い・中基線」

押え「ファスナー押え」

ファスナーの右側を縫うときは、押えホルダーを押えの左側のピンに取付けて縫います。

左側を縫うときは、押えホルダーを押えの右側のピンに取付けて縫います。



パイピング

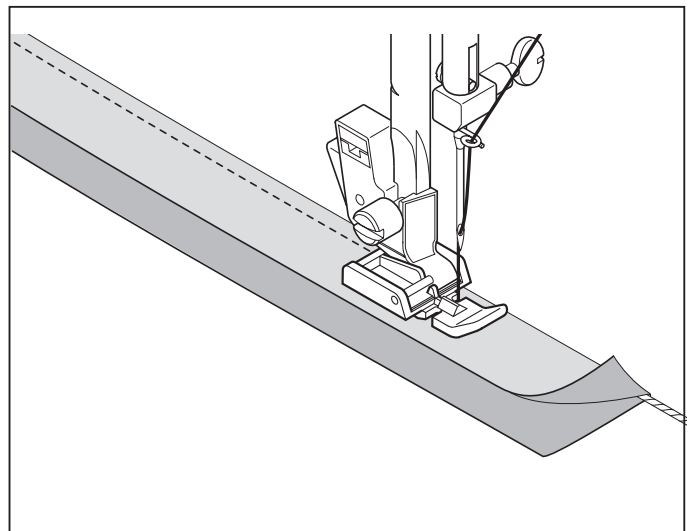
01

ミシンのセット

ぬい模様「直線縫い・中基線」

押え「ファスナー押え」

バイアステープを外表に折るか、バイアステープでコードをくるみ、押えホルダーをファスナー押えの右側に取り付けて図のように縫います。



縫いにくい布地の縫い方

段縫い

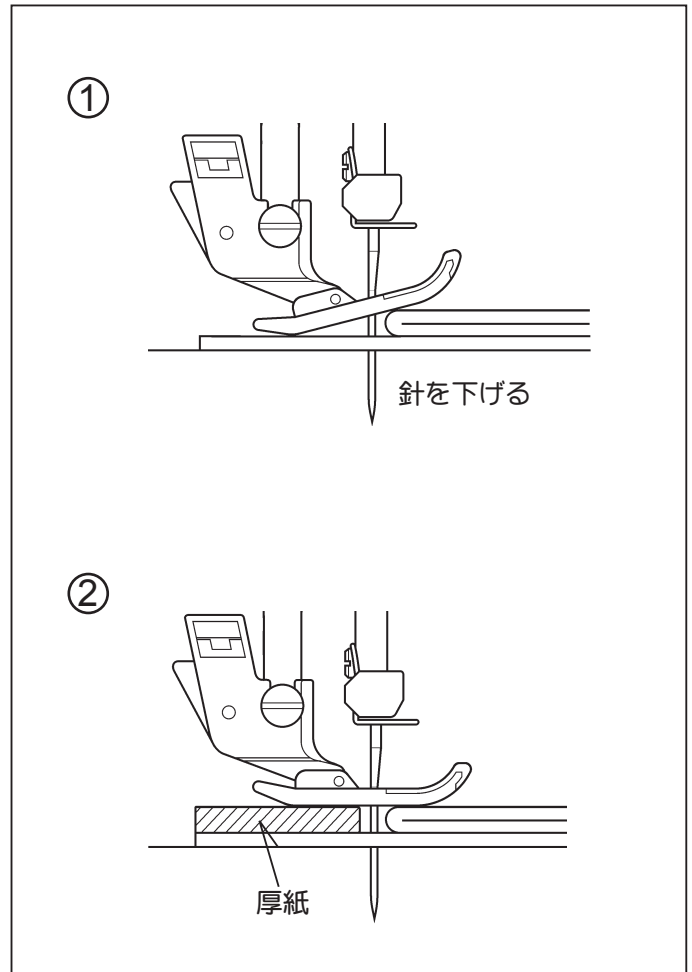
- ※ 布送りがスムーズでない場合、手で布の送りを助けながら縫います。
- ※ 図のように重なった厚地の布を縫う場合は、図①の状態でもシンを止め、針を下げます。図②の様と同じ厚さの布地または厚紙を押えの下に敷いて縫います。布送りがスムーズになり、目飛びも防げます。

薄物（レース布、薄物布）

- ※ レース布や特に薄い布地の場合、布の下に紙を敷きます。縫い終わったら、紙を取り除きます。薄物縫いで目飛びしたり、しわがよる場合も紙を敷いてください。
- ※ 薄物の縫い始めは、上糸と下糸を少し引っ張りながら縫います。

厚物（タオル布）

- タオル布を縫う際は、布の種類によって布送りが悪くなる場合があります。布の下に紙を敷き、太い針 #16 を使用し、ゆっくりとしたスピードで縫います。縫い終わったら、紙を取り除きます。
- ※ 縫い目長さを「2mm」以上にしてください。



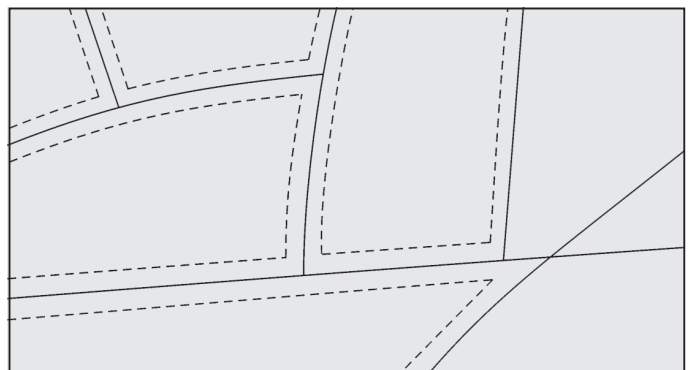
点線キルト縫い

03
1
1
1

この縫いでは下糸が布表面に引き上げられ、手縫い風の直線縫いが出来ますので、ステッチ縫いやキルト縫いに使えます。

1. 下糸はキルトに合った色の糸を使います。
2. 上糸は布の色に似た細い糸を使います。
3. 下糸が表面に引っ張り出されるように上糸テンションを少し強くします。
4. 縫い始めます。

注 使用される布切れで試し縫いをして、最適の糸調子と縫い目長さを選択します。

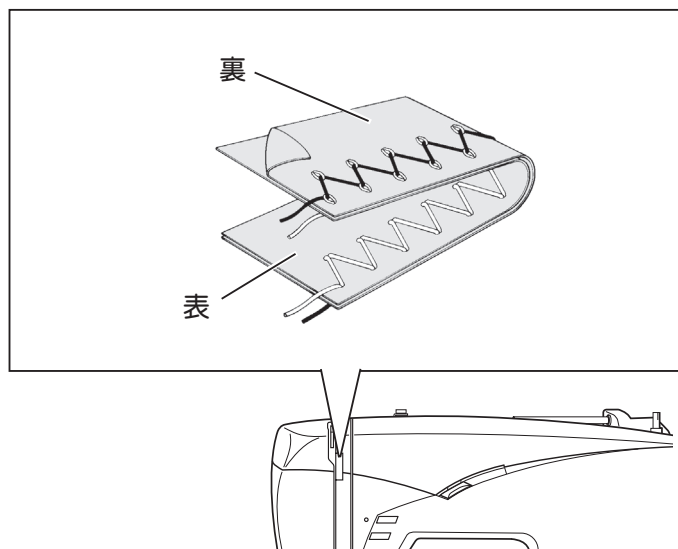


ジグザグ縫い ⁰⁷

ミシンのセット

押え「ジグザグ押え」 上糸調節ダイヤル「S-E」


布の裏側に上糸が少し出るように、直線縫いのときより上糸調子をやや弱めにした方が良いでしょう。



縫い目長さ及びジグザグふり幅

縫い目長さ、ジグザグふり幅は右の表を参考に設定してください。

 は基本設定（自動）値。
縫い目長さ 2.0mm、ジグザグふり幅 5.0mm

 は微調整（手動）設定時の選択範囲です。
縫い目長さ 0～3.0mm、ジグザグふり幅 0～6.0mm



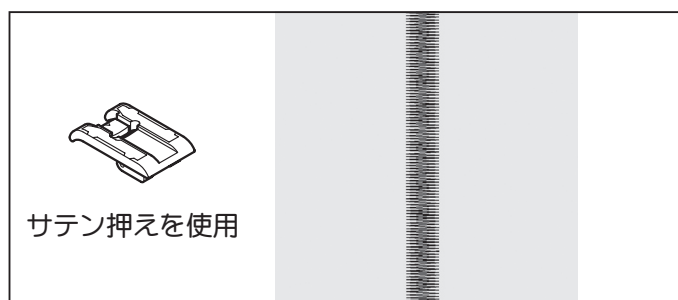
ジグザグふり幅

縫い目長さ	mm	0	0.5	1.0	1.5	2.0	2.5	3.0	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0
	0													
0.25														
0.5														
0.75														
1.0														
1.25														
1.5														
1.75														
2.0														
2.5														
3.0														

サテンステッチ（密着縫い）

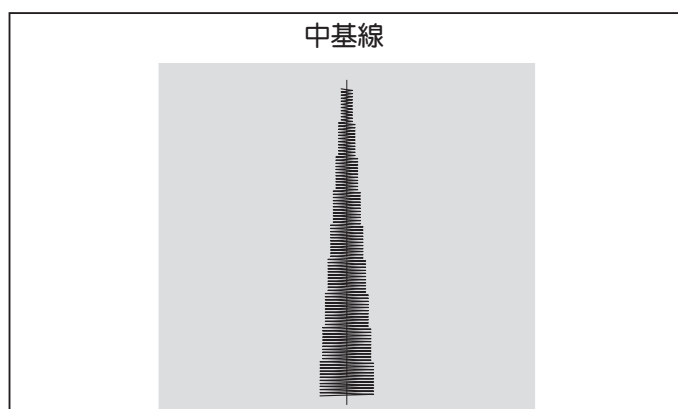
縫い目長さを「0.5mm」ぐらいにセットすると、目のつまつたきれいな縫い目ができます。

⑧ 布の種類によっては、送り詰りする場合があります。その場合は縫い目長さを少し大きくしてください。



ふり幅の変化

縫っているあいだにジグザグふり幅レバーを動かすと、図のように縫い幅を変化させることができます。



まつり縫い・伸縮まつり縫い

04 05
〰 〰

ミシンのセット

押え 「かくし縫い押え」

上糸調節ダイヤル「S-E」

04



— 普通地に適しています。

05



— 伸縮性の布地に適しています。

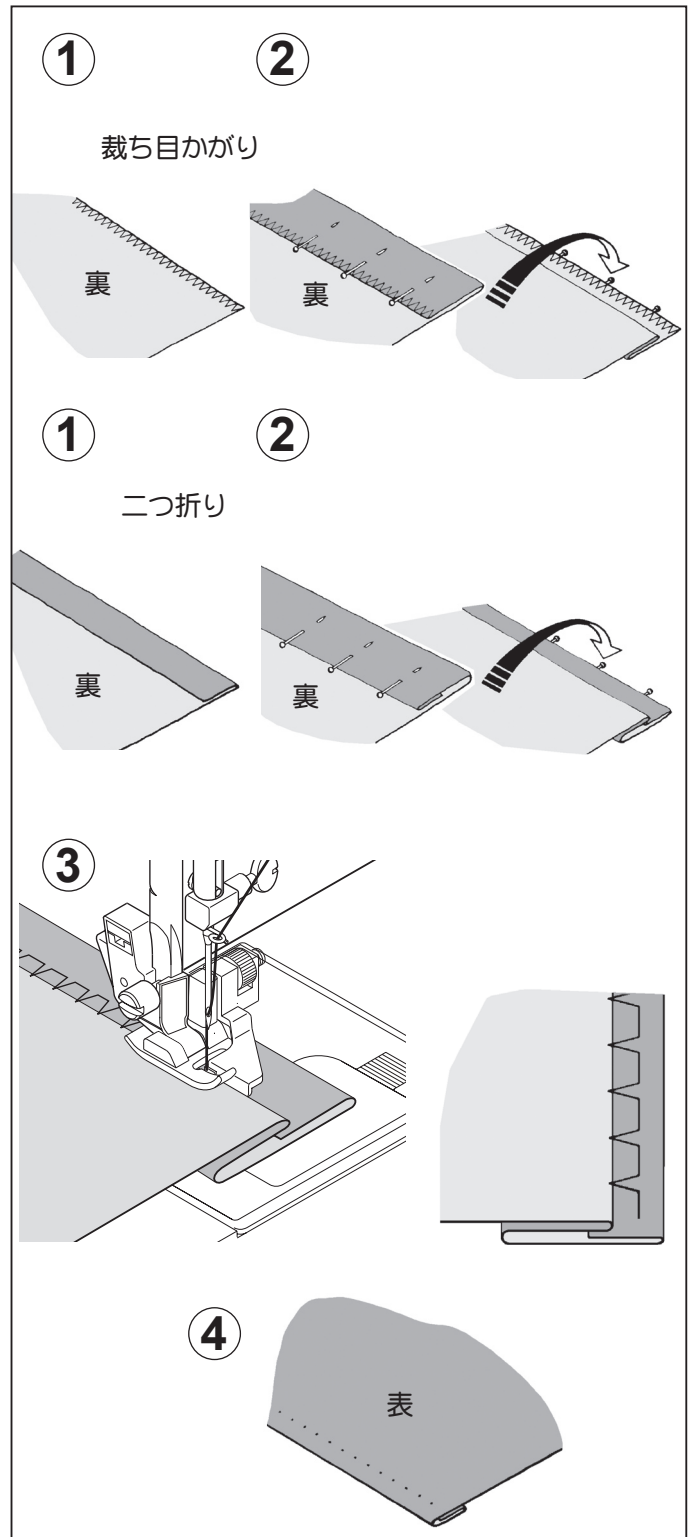
1. 布端を裁ち目かがりするか、二つ折りにします。

2. 出来上り線にそって布を折り、折り山から約7~8m入ったところからすそに向かって、図のように待ち針で止めます。待ち針を持って折り返します。

3. 布の折り山を押えのガイドにそわす様に布をおき、調節ネジをまわし、針が左に振れたとき、針が折り山をわずかに刺すように縫っていきます。

待ち針は押えの手前に来たら順に抜いていきます。

4. 布を表に開くとできあがりです。



点線ジグザグ縫い

09
VAV

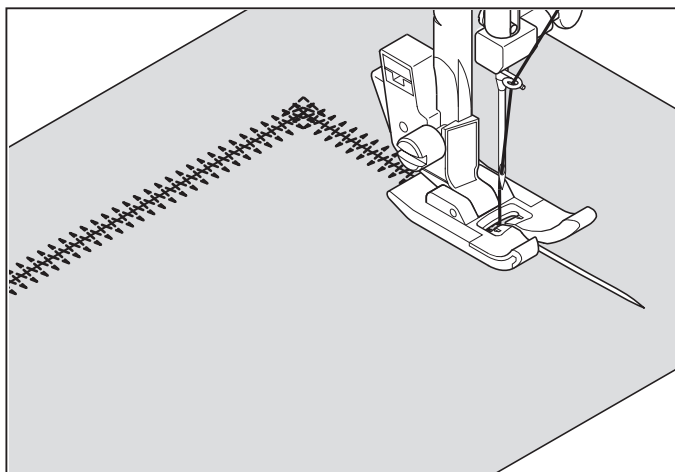
ミシンのセット

押え 「ジグザグ押え」

上糸調節ダイヤル 「S-E」

つくろい縫い

布の裂け目をつくろうには、裂け目を針の下に置き、針が裂け目の両側を拾うように縫います。裂け目の角は、両側から角の中心に向かって縫います。裂け目の下に布をあてて縫うと丈夫につくろえます。



スーパー縫い（ストレッチステッチ）

ミシンのセット

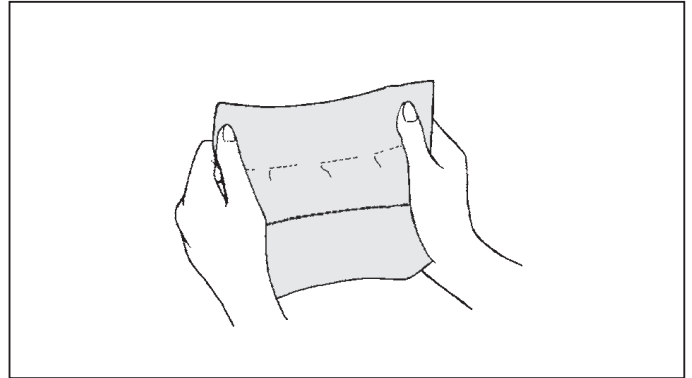
押え 「ジグザグ押え」

上糸調節ダイヤル 「S-E」

直線伸縮縫い

02
|||||

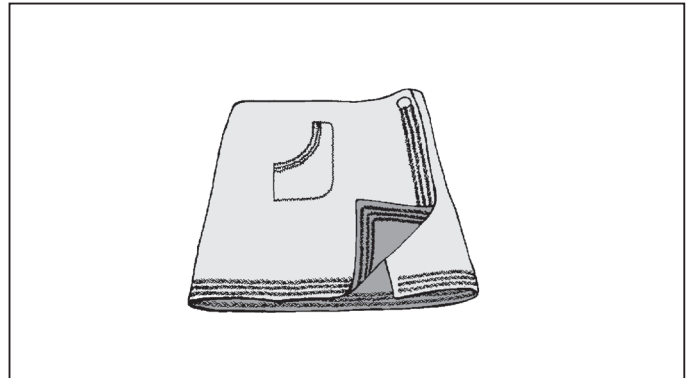
図のように布地をひっぱると、普通の縫いでは糸が切れませんが、伸縮縫いは縫い目が伸び縮みして糸が切れません。



ジグザグ伸縮縫い

08
〰〰〰

縫い目に伸縮性があるので、ニットや、ジャージ、トリコットなどの伸縮性のある布地に適しています。

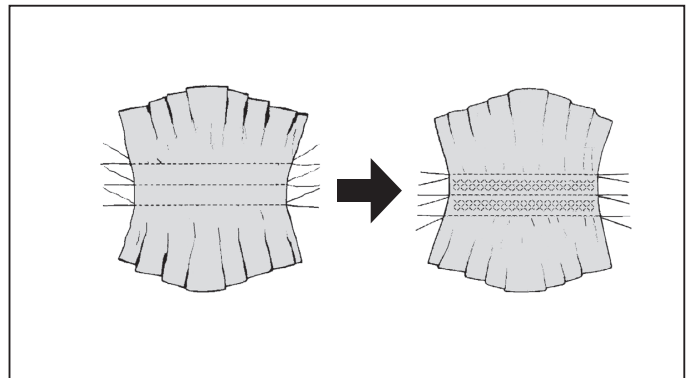


スモッキング縫い

10
XXXX

1. 上糸調子を弱くして、1センチ位の間隔を開けて直線縫いをしてください。
2. 下糸だけを引っ張ってギャザーを寄せ、上糸と下糸を結んでギャザーを固定します。
3. 直線縫いの間をスモッキング縫いします。直線縫いの糸をほどきます。

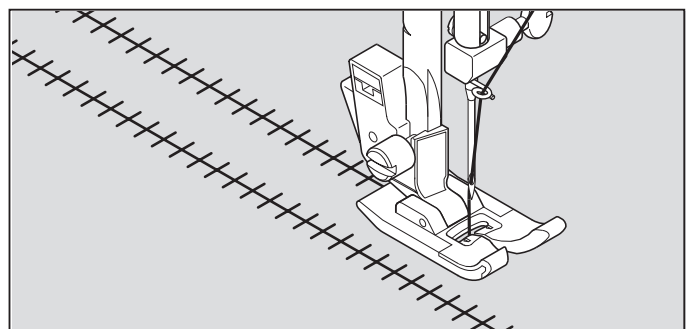
ヨーク、ベビー服、幼児のドレス、ランジェリー、タック押えに最適です。



はぎ合せ縫い

11
±

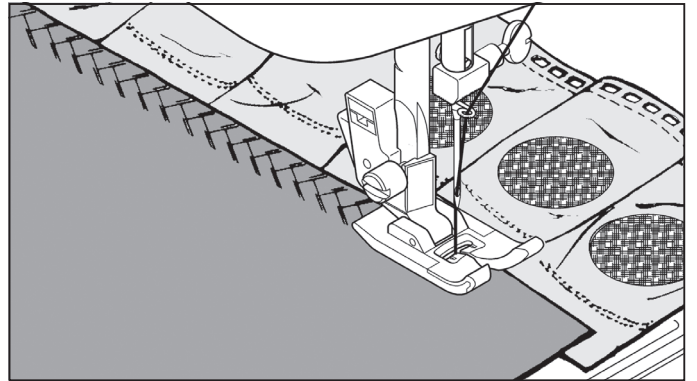
レースの縫い付け、ニットやトリコットの突合せはぎ、ファゴティング、飾り縫いに適しています。



フェザー縫い ¹³



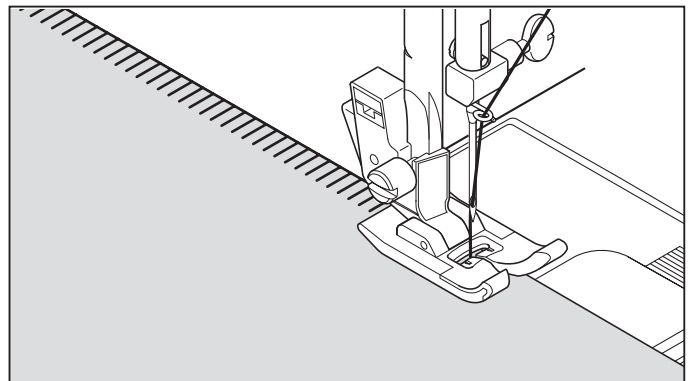
レースの縫い付け、ニットやトリコットの付き合わせは
ぎ、ファゴティング、飾り縫いに適しています。



ブランケット縫い (1) ¹⁴



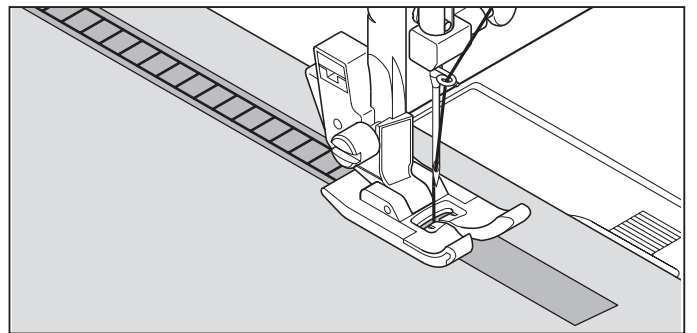
装飾性と実用性を兼ねそなえているので、テーブルクロス、
ナプキン等の縫いしろ、折りしろの始末をするのに
適しています。



ボックス縫い ¹⁵

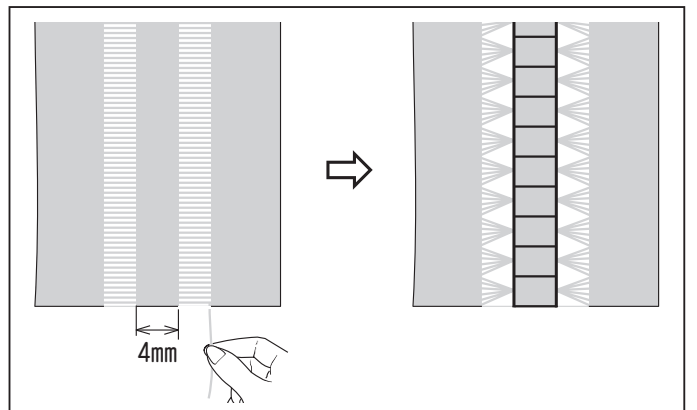


反対色または類似色の薄いテープを押えの下において縫
い付けると、特別の飾り効果が得られます。



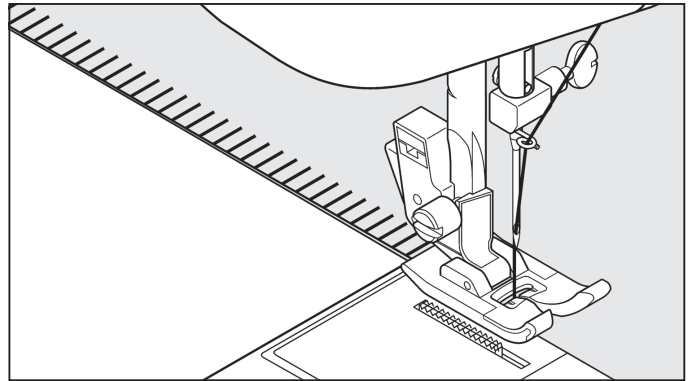
織りの粗い布を使い、図のように約 4mm の間隔を置いて
布の織り糸を抜き取ります。

布の中心をこのステッチで縫うとドロワークが出来上
がります。



ブランケット縫い (2) ¹⁹

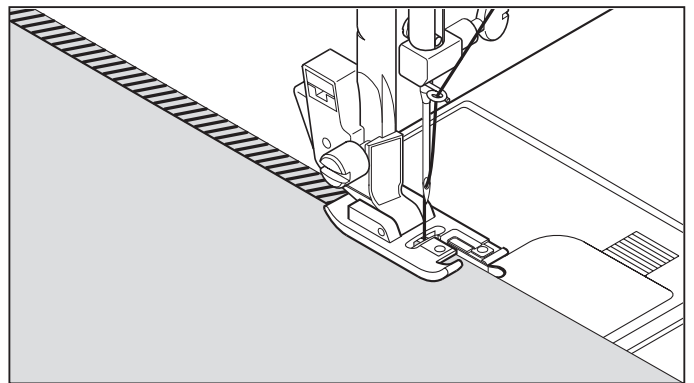
装飾性と実用性を兼ねそえているので、テーブルクロス、ナプキン等の縫いしろ、折りしろの始末をするのに適しています。



オーバーエッジ縫い ²⁰

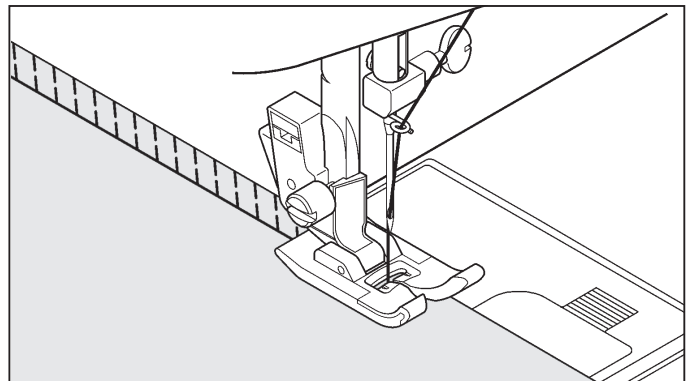
トリコットや柔らかいジャージのような伸縮性のある布地に最適です。

この模様で裁ち目かがりをする時は、端縫い押えの使用をお薦めします。



パイプリーフ縫い ²¹

縫い目に伸縮性があるので、ニットや、ジャージ、トリコットなどの伸縮性のある布地に適しています。



飾り縫い

ミシンのセット

押え 「サテン押え」または「ジグザグ押え」

上糸調節ダイヤル 「S-E」

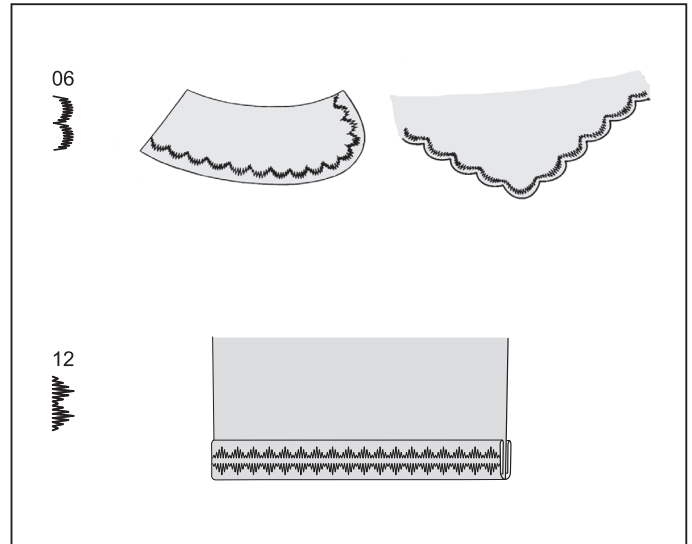
スキヤロップ模様

婦人服や子供服のそでやえり等の縁飾りとして、また端の始末などに利用できます。

端の始末をする場合は、布端をこの模様で縫った後、模様に沿って布地を切り取ります。この際縫い目の糸を切らないように注意します。

ピラミッド模様

パイアステーブを使って縁を折り返します。その上からピラミッド模様で仕上げます。

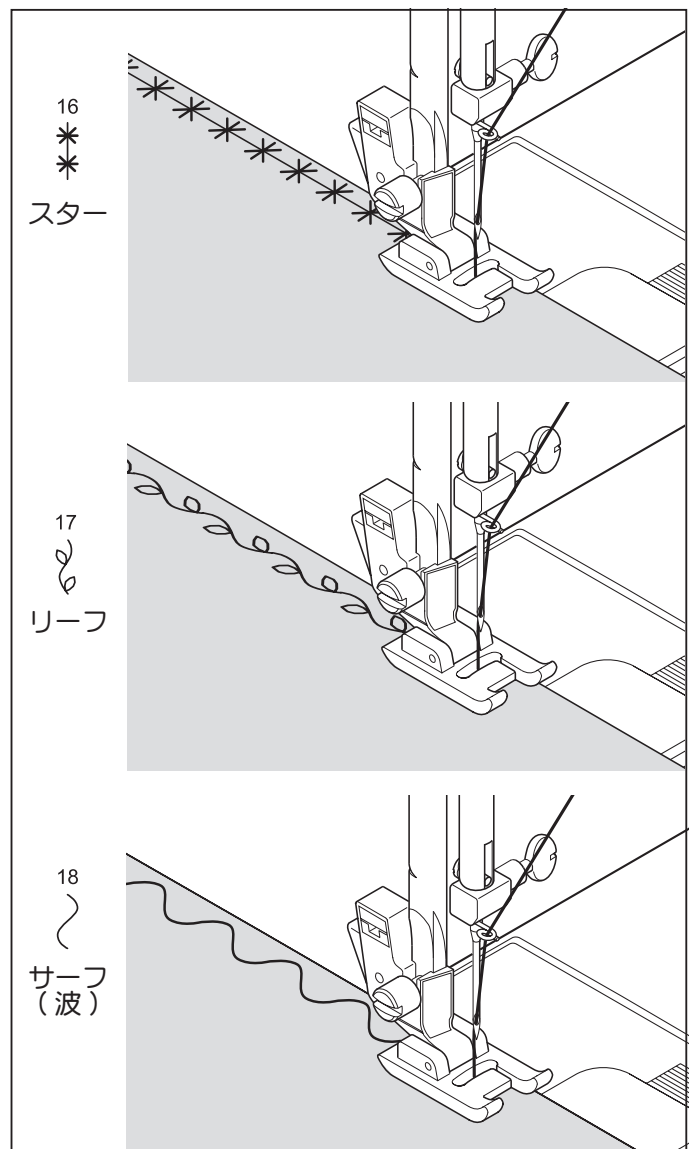


連続模様

ミシンのセット

押え 「サテン押え」または「ジグザグ押え」
上糸調節ダイヤル 「S」

連続模様縫いに最適な模様です。お好みに応じてご使用下さい。




16
スター模様 * を縫う際の注意
*

- * この模様はジーンズ等の厚手の布地に適しています。
- * 比較的薄い布地の場合は、布地の下に和紙、接着芯などを敷いてください。

ボタン付け ²² (→)

ミシンのセット

押え 「ボタン付け押え」
上糸調節ダイヤル 「S」
送り歯調節レバー 

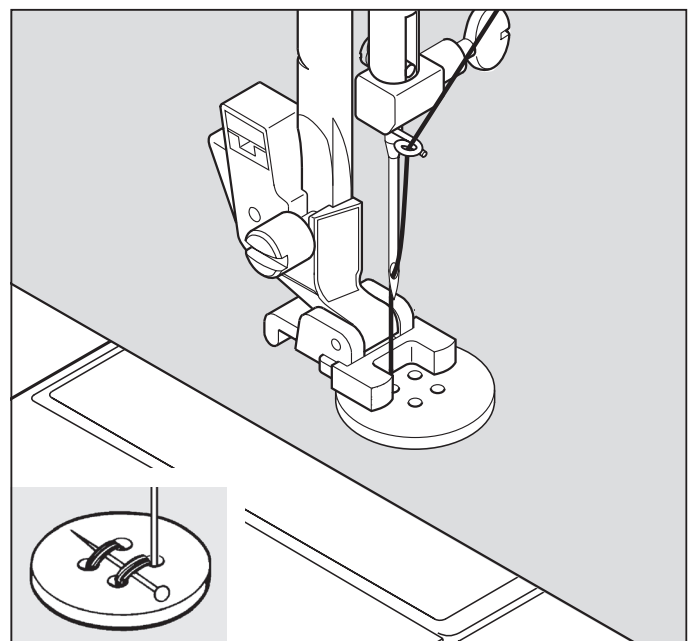
(注) 速度は低速に設定してください。

布のボタンを取り付ける位置にボタンを置き、押えを下ろします。

プーリーを回し、左右のボタン穴に針が落ちるか確認します。必要ならばふり幅を微調整します。

10針ぐらい縫い終わったら、とめぬいスイッチを押して縫い目を止めます。

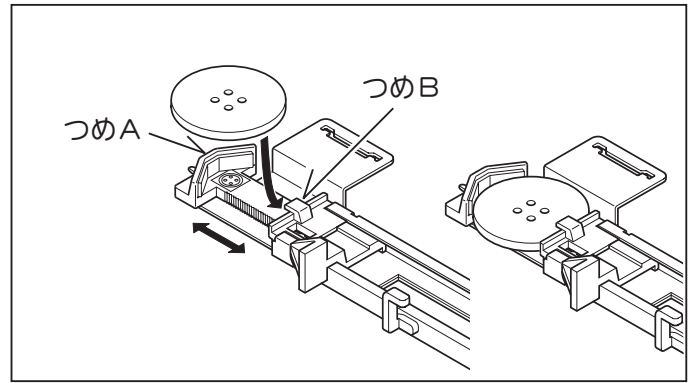
ボタン足を付ける時は、ボタンの中央に待ち針をのせて縫い、上糸の両端をボタンの下に引き出し、ボタン足に巻きつけます。



ボタンホール（ボタン穴かがり）

ボタンホール押えの使い方

1. つめAとつめBの間にボタンをはさみます。
2. ボタンの大きさに応じたボタンホールができます。

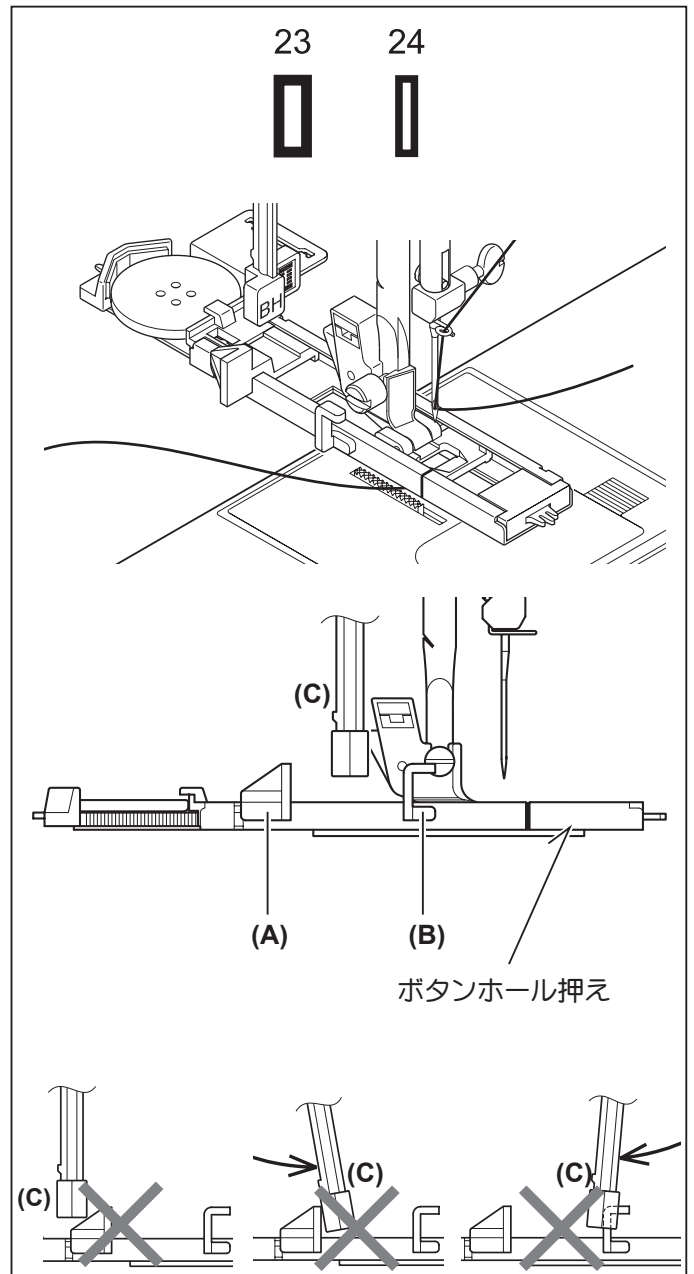


縫い始めのセット・縫い方

※伸縮性のある布地で、進みにくい場合は、布地の下に不織布の接着芯を張ってください。

※使用される布切れで試し縫いをされることをおすすめします。

1. 模様選択ボタンで「23、24」のいずれかを選択し、縫いの設定をします。
2. 押え金をボタンホール押えに交換してください。
3. ボタンホール押えに使用するボタンを取付けます。（上記のボタンホール押えの使い方参照）
4. ストッパー（A）、（B）の間にボタンホールレバー（C）が垂直に下りるようにしてください。



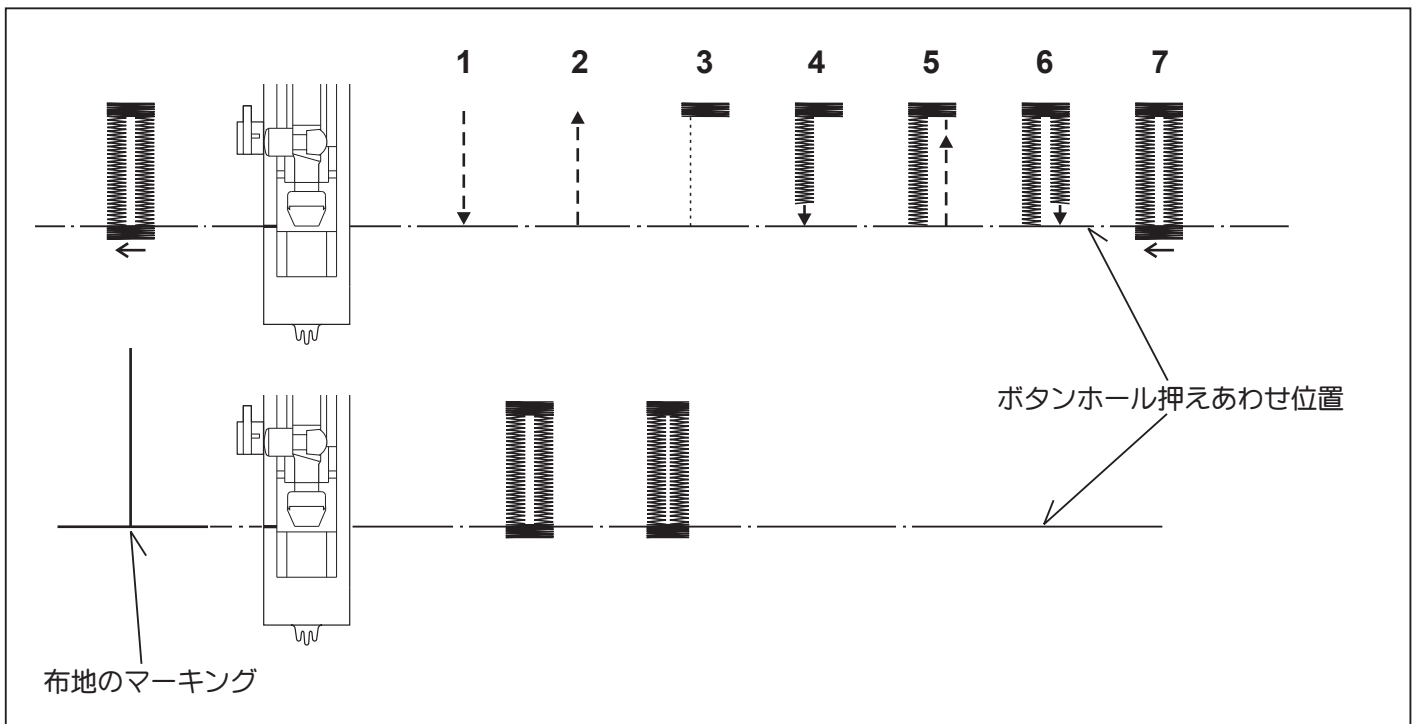
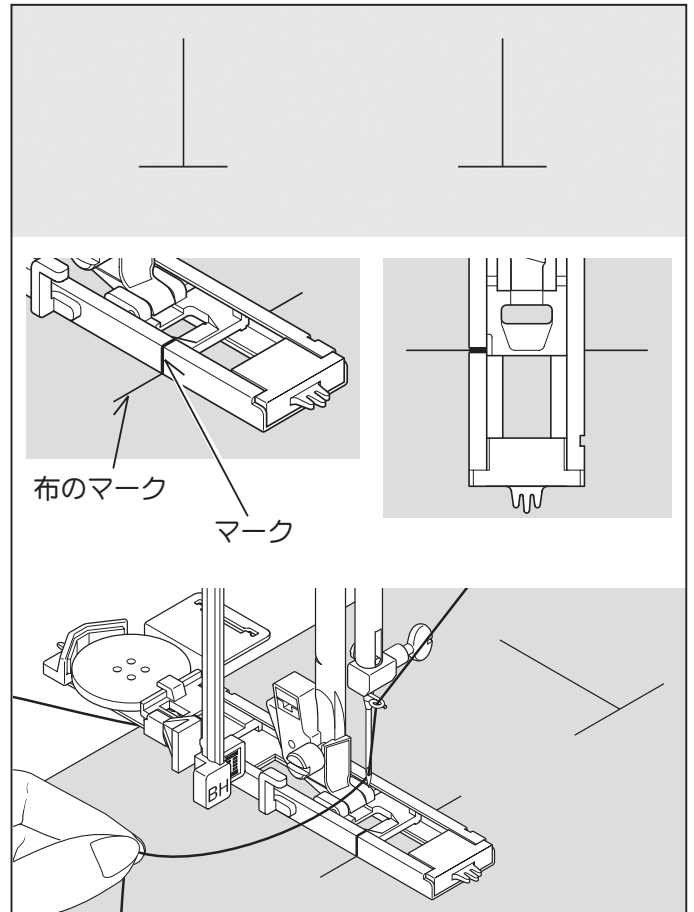
5. 布地の穴かがりをする位置にマークをつけます。

6. 布地を押えの下に入れます。下糸は布の下側にあり、後ろへ10cm程引き出しておいてください。

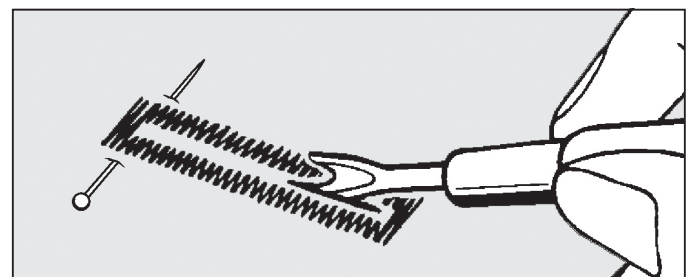
7. 布地のマークとボタンホール押えのマークを合わせて、ボタンホール押えを下ろします。

8. 上糸を持ってスタート/ストップスイッチを押し、ミシンをスタートさせます。

下記の順に自動的に縫いあがります。(布に印をつけたボタンホールあわせ位置より少し余裕をもって縫いあがりますので、ためし縫いをおすすめします。)



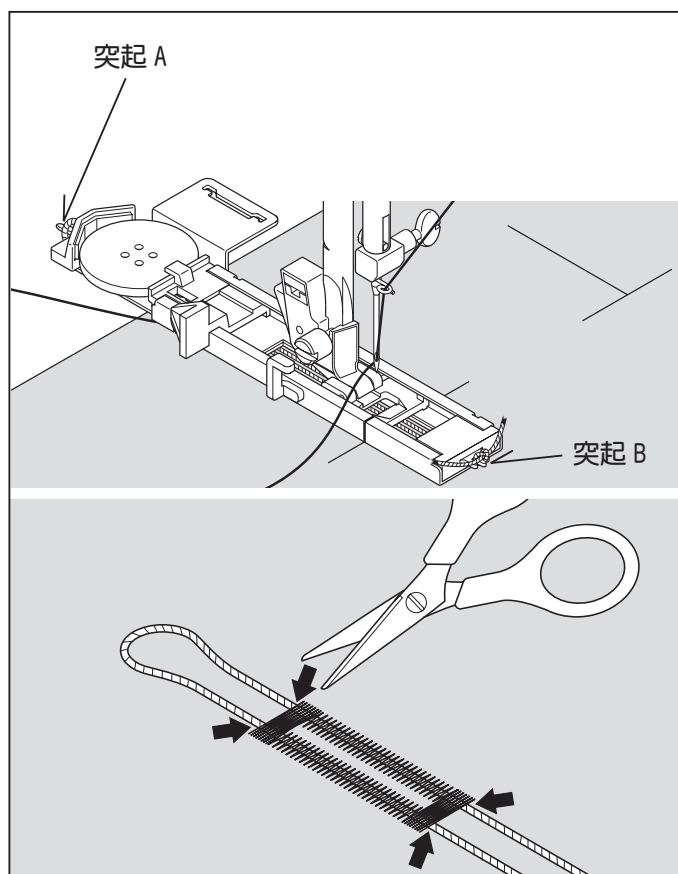
9. 縫い終わったらシームリッパーで中央の布地を切り開きます。その際、縫い糸を切らないように注意してください。



芯入りボタンホール

芯糸を入れて縫うと、ボタン穴の伸びを防ぎ、強いボタン穴ができます。芯糸にはレース糸または穴糸を使います。

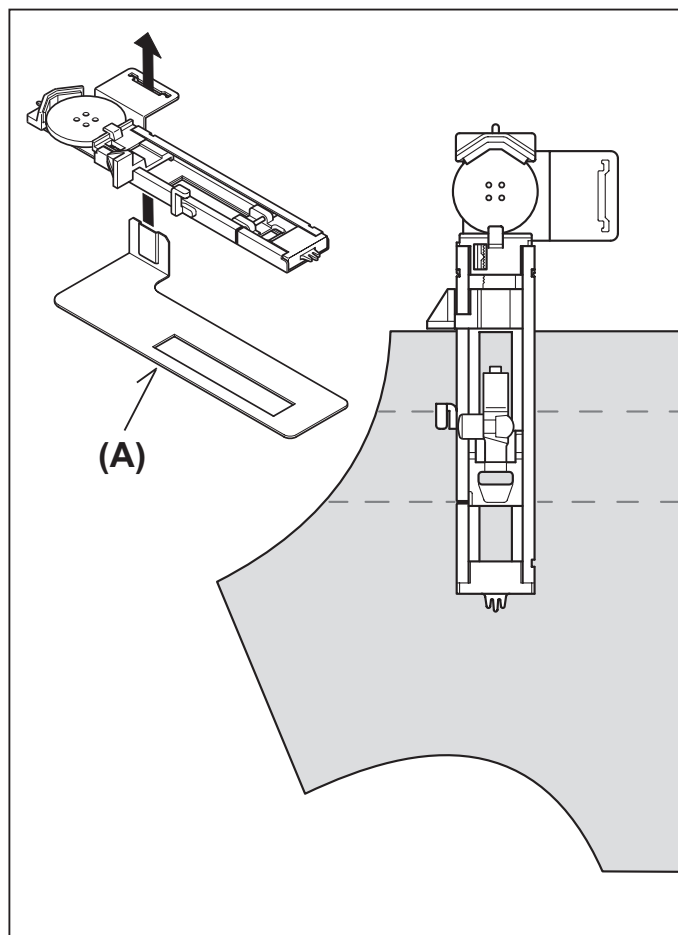
1. 芯糸をボタンホール押えのうしろの突起 (A) に引っかけて、押えの下を通して前の突起 (B) に結び付けます。
2. このまま押えを取りつけて穴かがりすると、芯糸入りのボタンホールができます。
3. 縫い終わったら芯糸を押えからはずし、余分の糸を切り取ります。



縫いにくい布地のボタンホールの仕方

タオル地等の厚物や重ねた布の端にボタンホールをする時は、押えの下に当て板 (A) を取り付けます。


当て板と押えの間に布をはさんで縫います。



3. 刺しゅう器の使い方

刺しゅう器をセットする前に


押えのとりかえ方

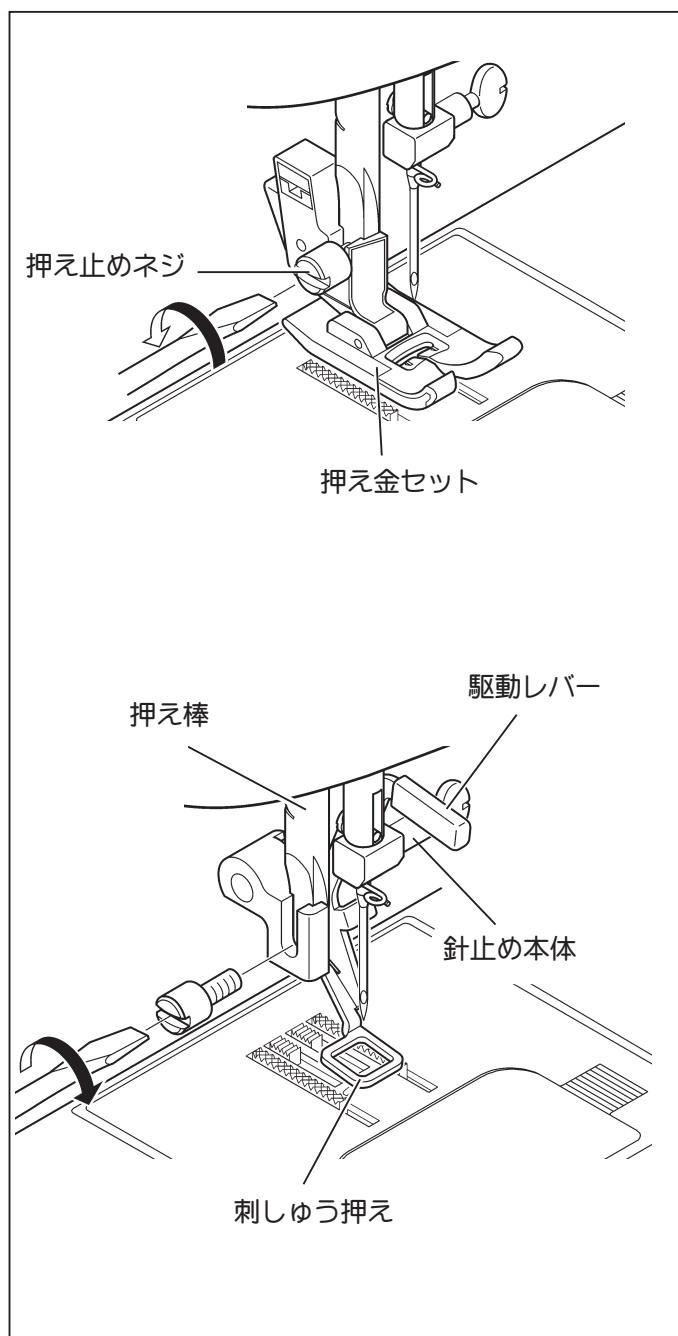
 注意	押えのとりかえの前に、必ずミシンの電源スイッチを切ってください。
---	----------------------------------

※ 押え上げを上げます。

※ プーリーを手で回し、針を最上点に移動します。

1. ネジ回しで押え止めネジを外し、押え金セットを取り外します。
2. 刺しゅう押えを取り付けます。
刺しゅう押えの駆動レバーが、針止め本体の上にくるように押え棒の後部から取り付け、押え止めネジをかたく締めます。
3. 刺しゅう押えを取り付けた後に、手でプーリーを回し針を上下させ刺しゅう押えが針と連動して上下動するか確認します。

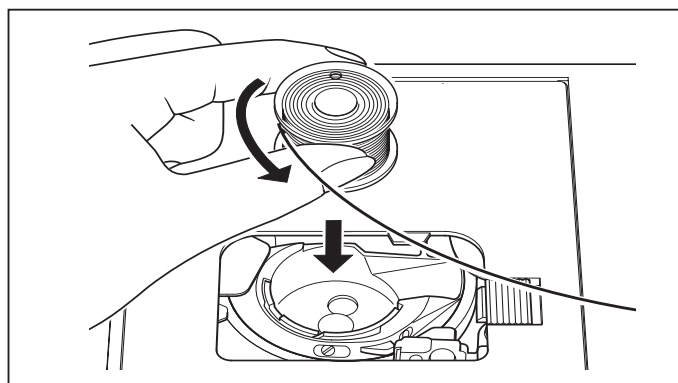
 注意	押えを取りかえるときは、針先に注意してください。
---	--------------------------



ボビンのセット

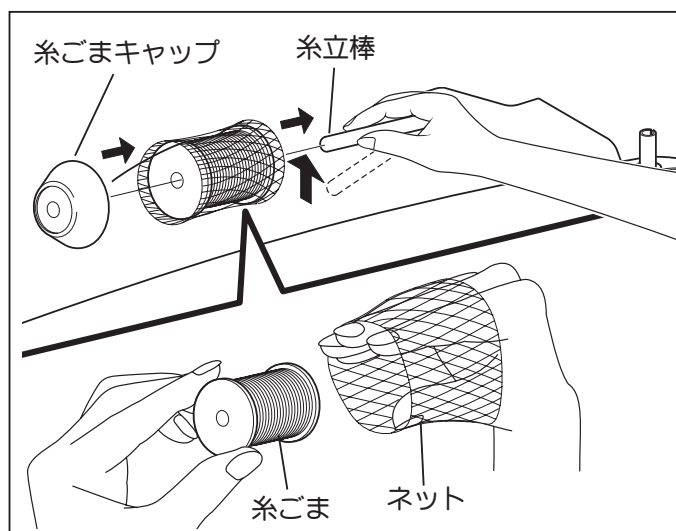
ボビンのセット（13ページ参照）

※ 刺しゅうには多くの糸が必要ですので、必ず下糸巻量が十分なボビンをご使用ください。



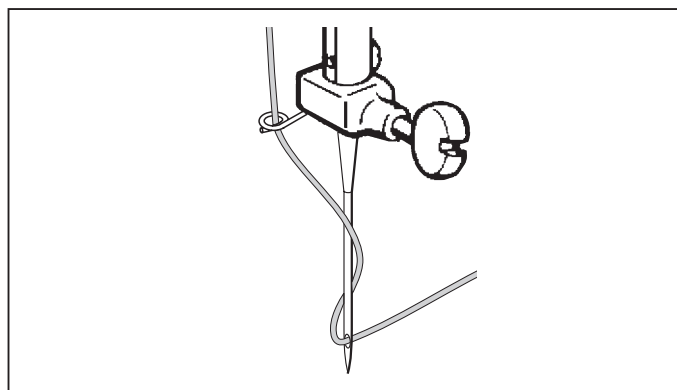
上糸のかけ方

- A. 糸の繰り出しをスムーズにする為、糸ごまにネットをかぶせます。
- B. 糸ごまを糸立棒に取り付け、糸ごまキャップで固定します。



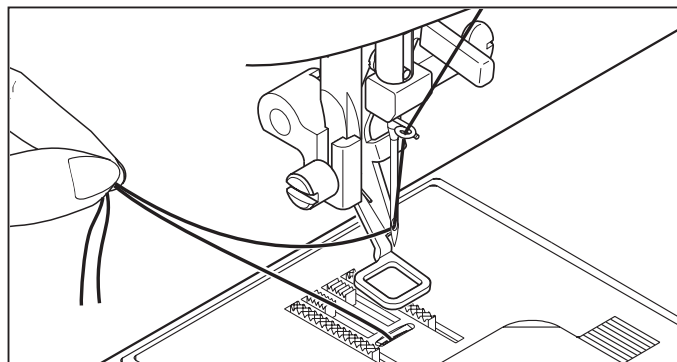
※ 刺しゅうに使用する刺しゅう糸は柔らかく細いため、よじれを起こし、目とび／糸切れなどが発生することがあります。
このような場合、図のように針に刺しゅう糸を巻きつけることをおすすめします。

ご注意： 図とは反対に巻きつけないようにしてください。糸のよじれがかえって増すことになります。



下糸の引上げ方

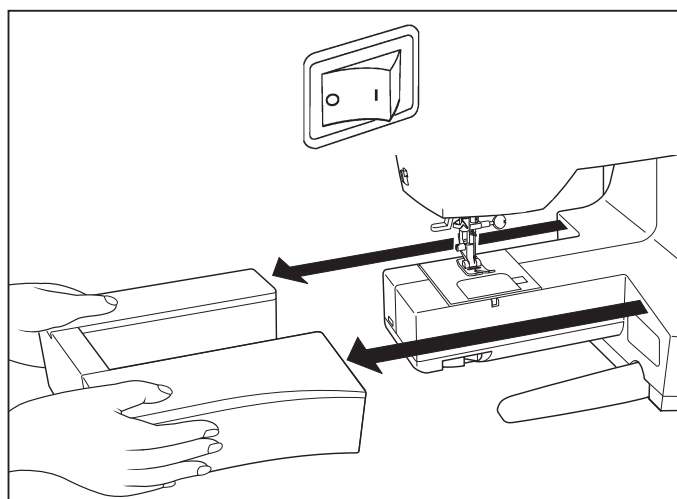
下糸の引き上げ方（16ページ参照）



補助テーブル

ミシンの電源スイッチを「OFF」にしてください。

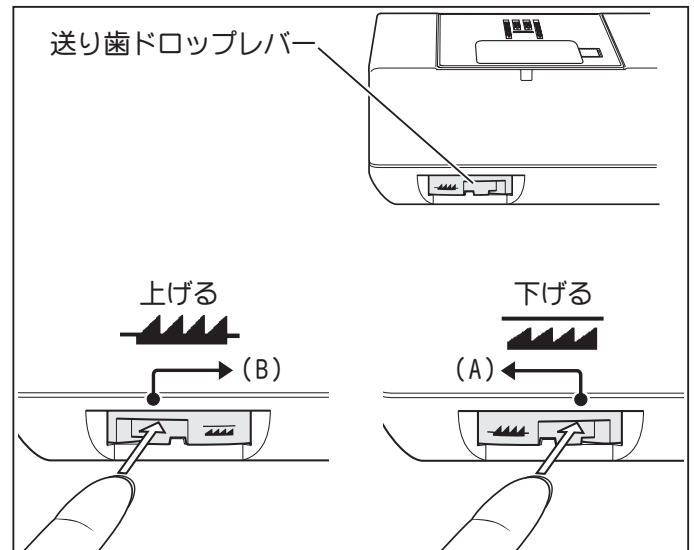
ミシンの補助テーブルを左にすべらせて引き抜きます。



送り歯ドロップレバー

刺しゅう器を取り付ける前に、ミシンの送り歯ドロップレバーを（A）の方向に移動させ、送り歯を下げます。

※ ミシンで縫うときは、送り歯ドロップレバーを（B）の方向に移動させ、送り歯を上げます。この操作をしなければミシンは布地を送ることができません。



刺しゅう器のセット

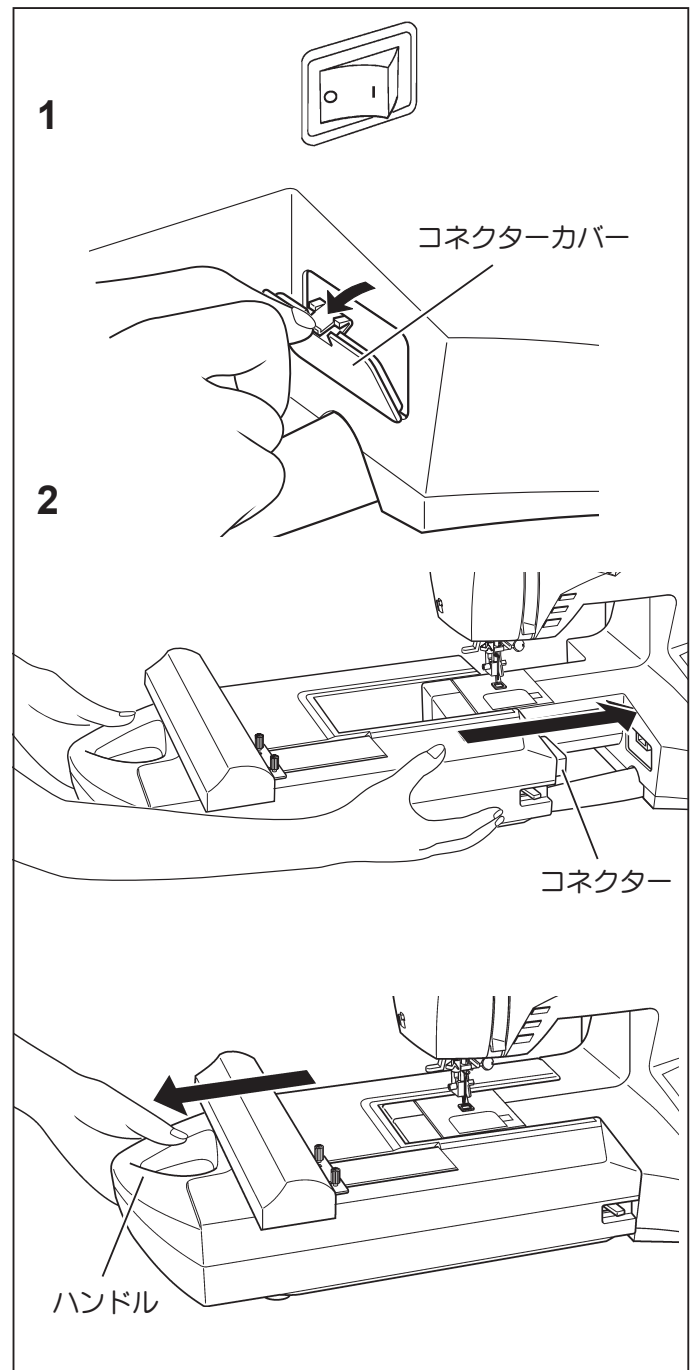
 注意	刺しゅう器をセットする前に、必ずミシンの電源スイッチを切ってください。
---------------	-------------------------------------

ミシンの電源スイッチを「OFF」にしてください。

1. ミシンのコネクターカバーを外します。
 ※ ミシンで縫うときは、コネクターカバーを取り付けます。
2. 刺しゅう器をミシンに沿ってすべらせ、ミシンと刺しゅう器のコネクターを合わせて、「カチッ」と音がするまでしっかりと差し込みます。

刺しゅう器のハンドルを持って外す方向にかかるく引っ張り、外れないか確認します。

⑧ 接合部にすき間があると刺しゅうがずれるなどの原因になりますので、必ず奥まで差し込んでください。



フープのセット

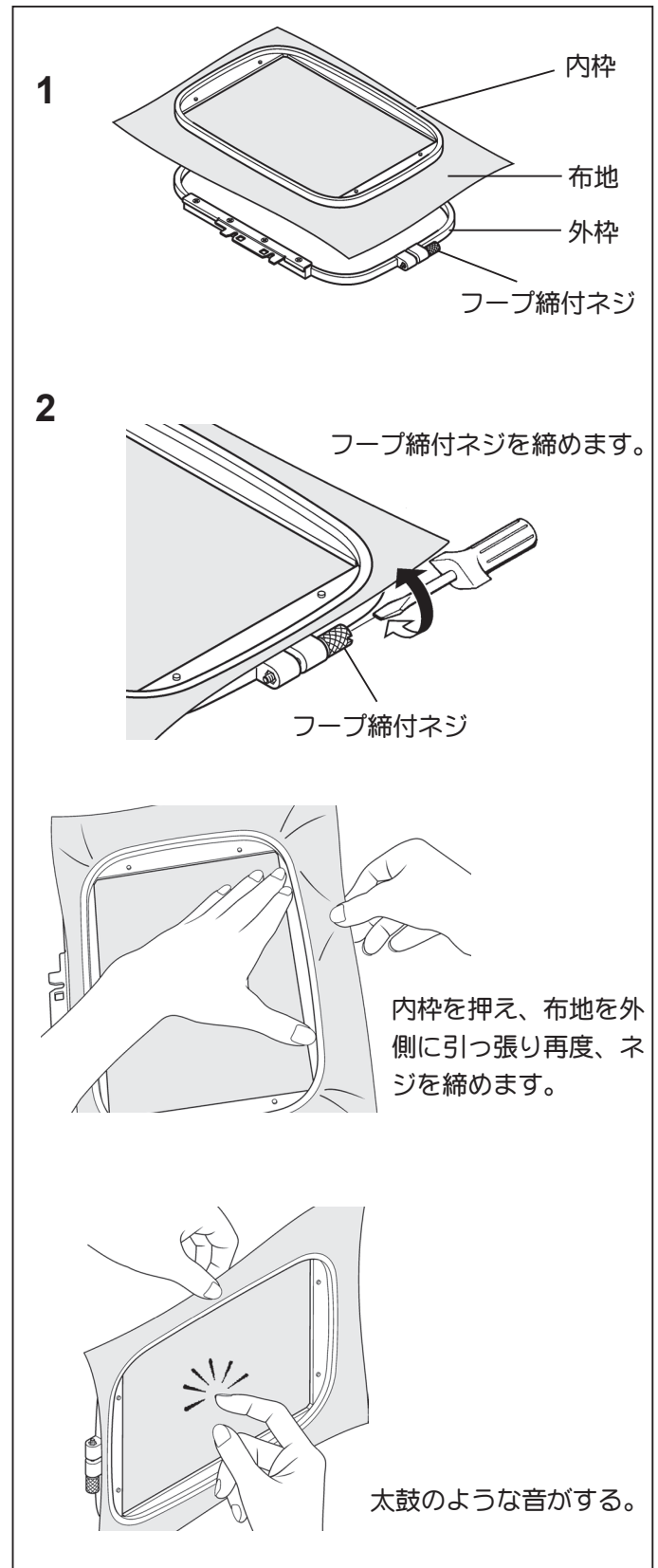
フープに布を張ります

1. 布をセットします。
外枠のフープ締付ネジをゆるめて内枠を外し、外枠の上に布をのせて内枠ではさみます。

2. 布地にたるみがないように布を張り、フープ締付ネジを締めます。

いったんネジを締めた後、内枠を押えて布の四隅を外側に引っ張ります。再度、止めネジを締めます。

※ 張った布地を指ではじいて、ポンポンと太鼓のような音がするようにしてください。



布地と接着芯の使い方 -1

布 地

つぎのような布地への刺しゅうをきれいに仕上げるために接着芯をご使用ください。

- ◎ カッターシャツのように腰の弱い布地
- ◎ ハンカチのように薄くやわらかい布地
- * このような布地は腰が弱いため、刺しゅうの重ね縫いで布詰まりなどを引き起こします。
- ◎ 伸縮性のある布地
- * フープに張った時に布が伸びると、刺しゅうの縫いずれが生じます。また、刺しゅうをした後、フープから外したときに、縮んで刺しゅう模様が変形します。

以下のような布地への刺しゅうはお避けください。

- * 極端に表地が毛羽立ったような布地
- * 毛糸セーターのようなミシン縫いには不向きな衣料

接着芯

接着芯は和紙と同じような特性に作られた不織布で裏面に接着用の糊が付いています。糊の付いている面は付着した糊が光っています。

- ◎ 接着芯は使用するフープ枠よりも大きいサイズにしてください。
布地と一緒にフープ枠に挟まなければ効果がありません。付属の接着芯は「たて30cm、よこ25cm」のサイズで大フープの使用に丁度良い大きさです。
- ◎ 付属の接着芯は2枚セットとなっております。

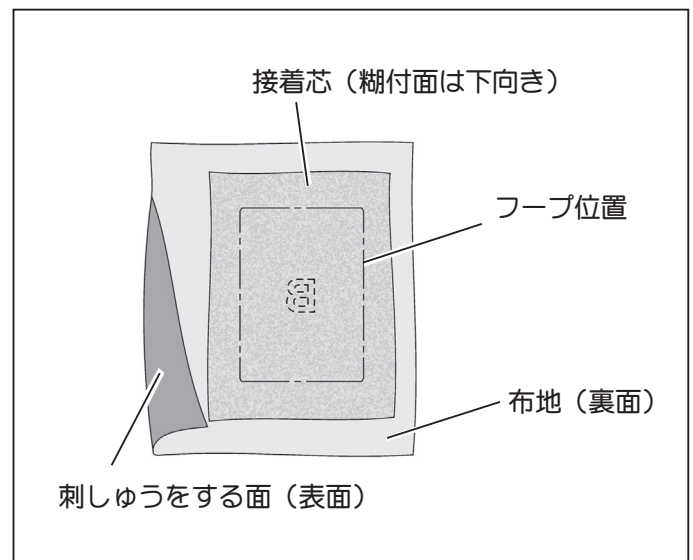
接着芯の貼り方

1. アイロンは中温度で暖めておきます。
2. 刺しゅうする面を下向きにし、アイロン台におきます。
3. 接着芯の糊の付いた面を下向きにして、布地の上に重ねます。
4. 接着芯をアイロン掛けし、しわができないように丁寧に布地に貼付けてください。

接着芯のはがし方

刺しゅうが終わった布地に接着した接着芯をアイロンで加熱し、糊を一旦溶かし、冷えないうちに刺しゅうをしていない周りの部分からはがして行くと簡単にできます。

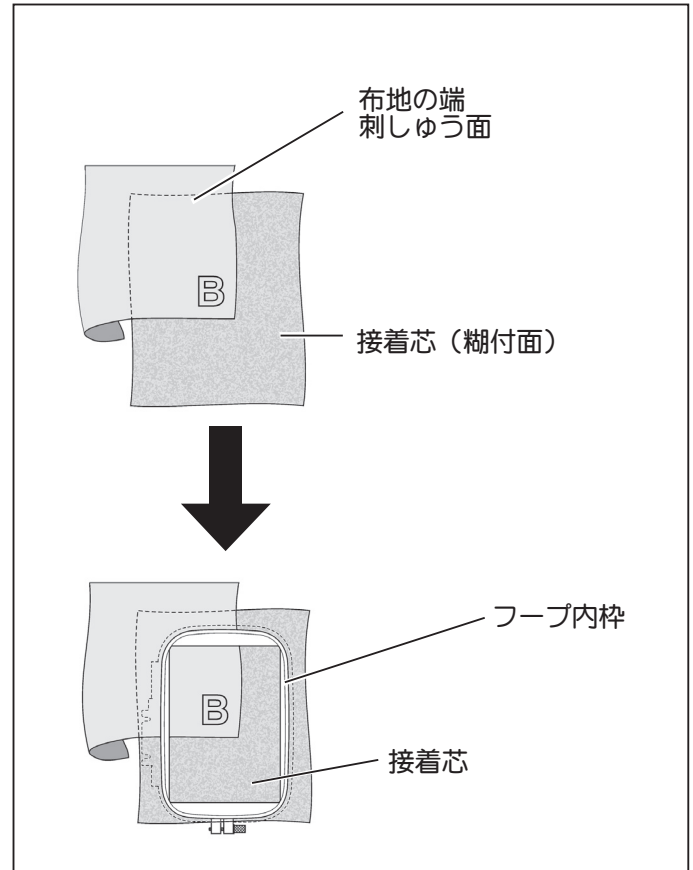
最後に刺しゅう縫いの周りに沿ってはさみ等で接着芯を切り取ってください。



布地と接着芯の使い方 -2

フープサイズより小さな、または部分的な布地への刺しゅうは接着芯を次のように貼ってください。

布地端に刺しゅうする場合

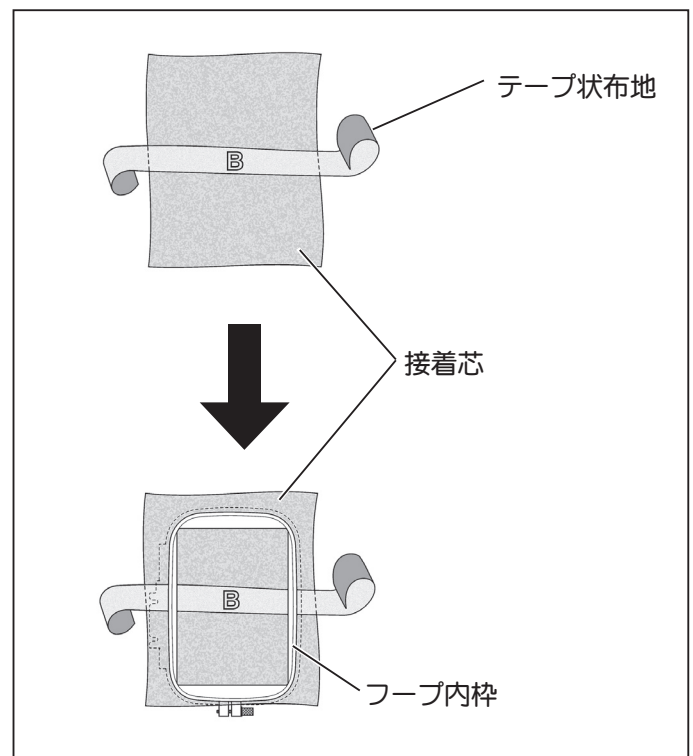


テープ・リボン状布地に刺しゅうする場合

布地によっては接着芯を2枚重ねてください。

接着芯は必ず使用するフープ枠よりも大きいサイズのものをご使用ください。(布地と一緒にフープ枠にはさまなければ効果がありません。)

追加の接着芯は市販のものをご購入ください。市販の接着芯には薄手のものから厚手のものまで色々あります。布地に合わせてご購入ください。厚手のものをご購入をおすすめします。



フープをセットする前のミシンとパソコンの準備

パソコンの準備

1. 刺しゅうプリンターソフトウェア CD をパソコンの CD 挿入口にセットします。
2. 数秒するとソフトウェアのインストールが自動的に始まります。もし始まらない場合は、指示に従って、ウィンドウズの“スタート” → “ファイル名を指定して実行” → “D:\Setup.exe” → “OK” の順にクリックしてください。お持ちのパソコンによって CD ドライブが異なる場合があります。

刺しゅうプリンターソフトウェア CD は、刺しゅうプリンター型ミシン専用で作られたものです。刺しゅうプリンター型ミシンは刺しゅうプリンターソフトウェアとの強力なコンビネーションで開発されたものです。このソフトウェア CD はコンピュータとミシンの接点にあって、効率よく仲介するもので、お好みのデザインをミシンに転送できます。

この CD にはソフトウェアの使い方が “.pdf” ファイルのフォーマットで内蔵されています。これらの “.pdf” ファイルを開いたり印刷したりするには、Adobe Reader がインストールされているパソコンを使用しなければなりません。もしあなたのパソコンに Adobe Reader がインストールされていないなら、この CD からインストールしてください。

ミシンの準備

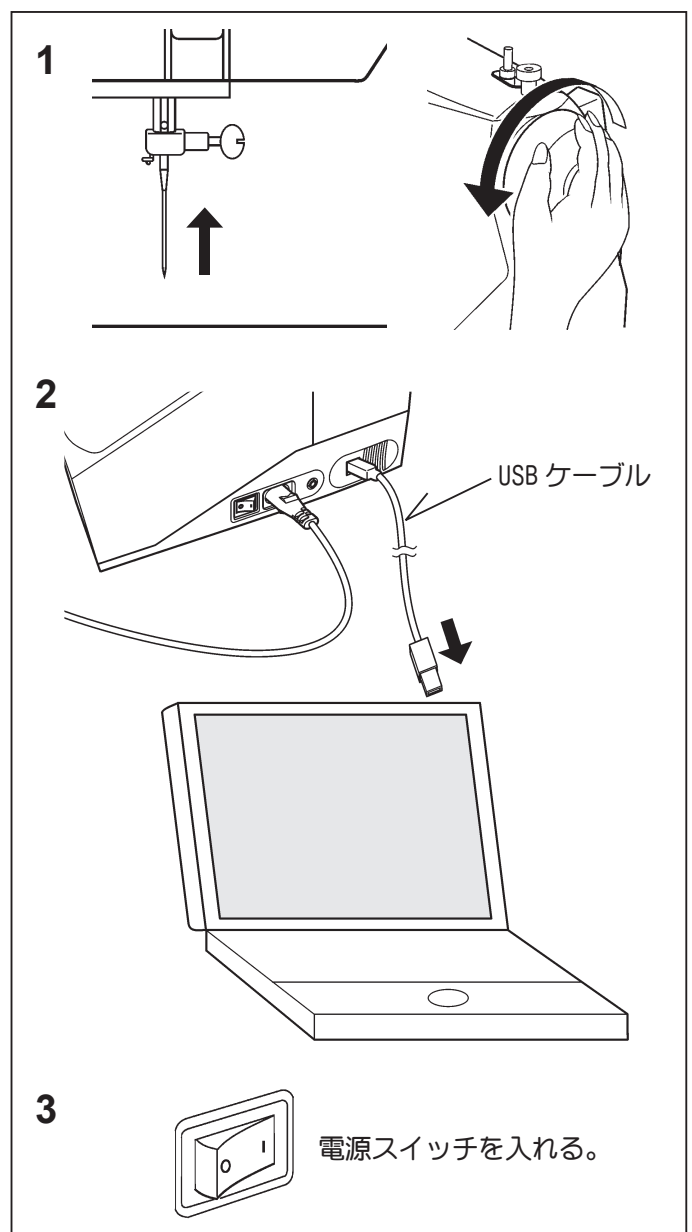
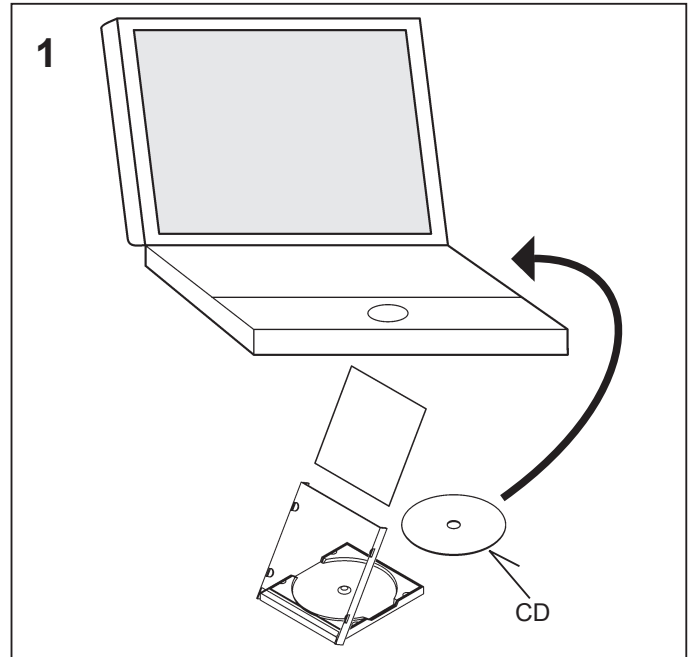
1. プーリーを回し、ミシンの針を最上点近くに上げます。
2. パソコンとミシンを USB ケーブルで接続します。
3. ミシンの電源スイッチを入れます。

注：USB ケーブルが接続されていないと、“PC” というエラーメッセージがコントロールパネル上に表示されます。

刺しゅう器のキャリッジが自動的に刺しゅう待機位置に移動します。

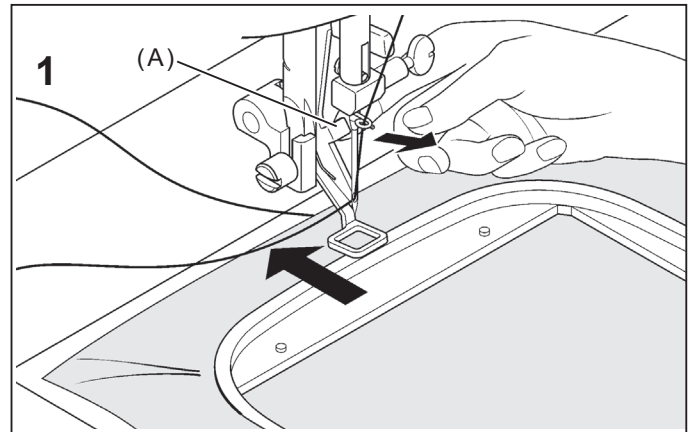
注：ミシンの針が最上点近くに上がっていないと、スタート/ストップスイッチが点滅して、キャリッジは動きません。

注：電源スイッチを入れる時は、小フープは取り付けないでください。

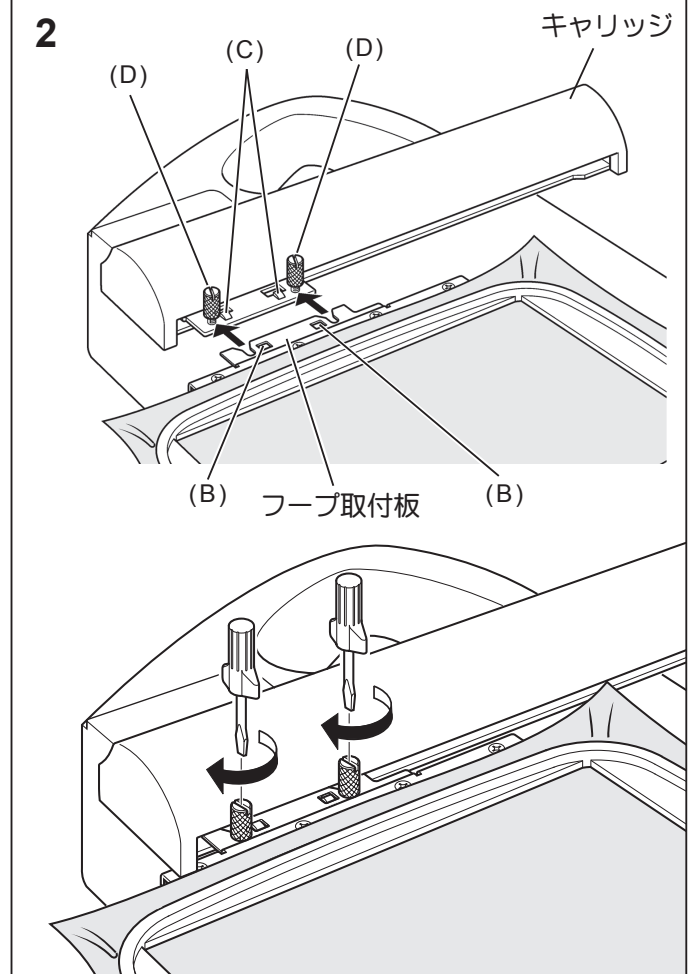


フープのミシンへのセット

1. フープを刺しゅう押えの下に通します。
ミシンの押え上げと針を上げ、刺しゅう押えのレバー
(A) を指で押し上げ、フープを下からくぐらせます。



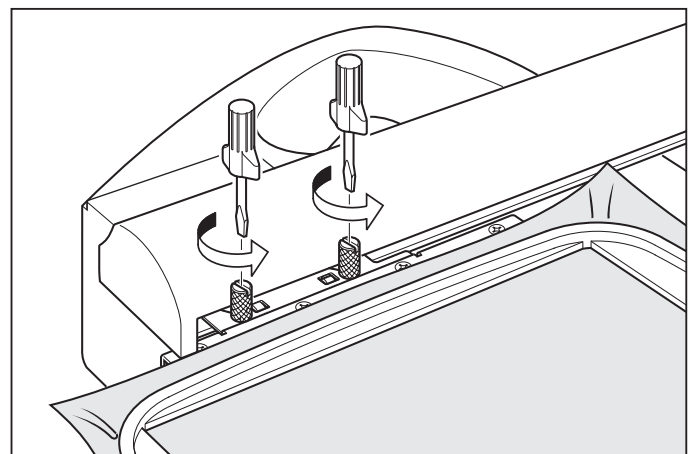
2. フープを刺しゅう器にセットします。
フープ取付ネジにフープ取付板の溝をはめ込むと、
フープ取付板の角穴 (B) がフープ台の突起部 (C)
にはまりますので、溝の手前と取付けネジが当たる
ようにしてフープ取付ネジ (D) を付属のドライバー
でしっかりと締めてください。




フープの取り外し方

フープ取付ネジをゆるめ、フープ台からフープを取り外
してください。

フープは手前側に向かって刺しゅう押えの下をくぐらせ
て取り出します。



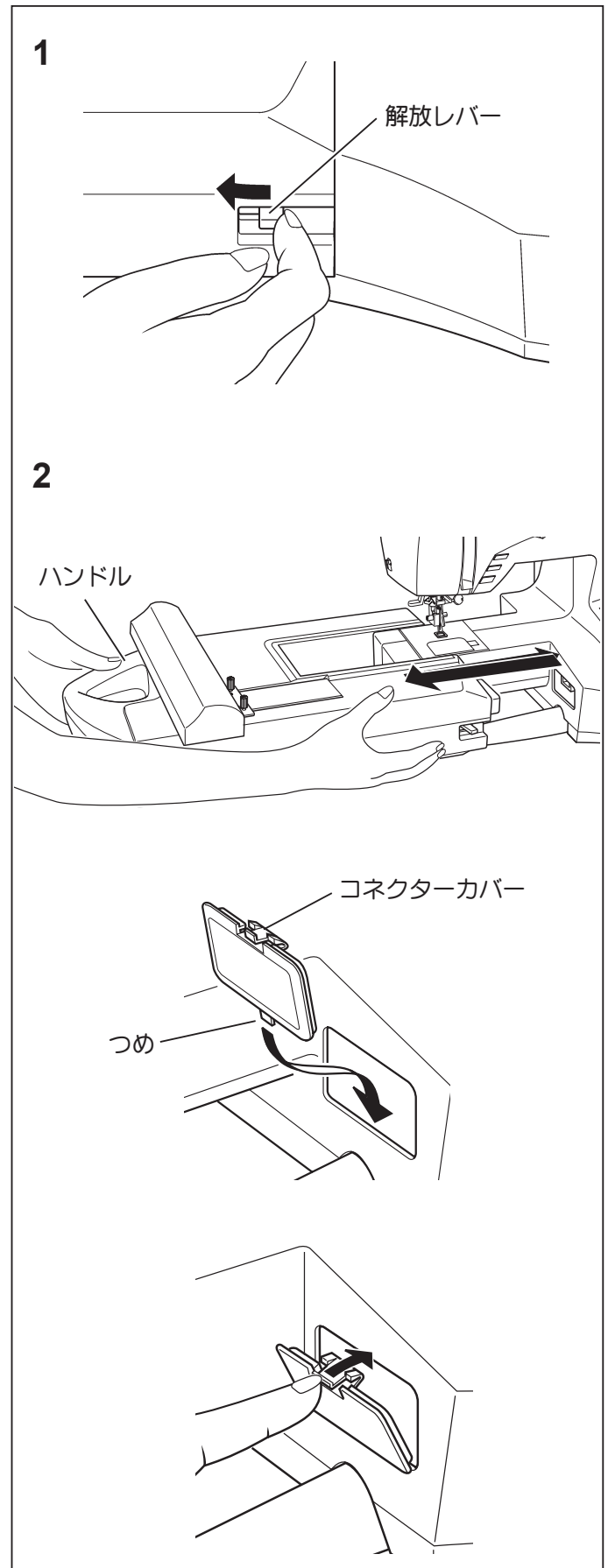
刺しゅう器の取り外し

 注意	刺しゅう器を取り外す前に、必ずミシンの電源スイッチを切ってください。
---	------------------------------------

ミシンの電源スイッチを「OFF」にしてください。

フープを外します。(44ページ参照)

1. 刺しゅう器のハンドルを持ち、解放レバーを矢印の方向に引きながら、刺しゅう器をミシンに沿って引き抜いてください。
2. ミシンのコネクターカバーを取り付けます。コネクターカバー下部のつめを図のように差し込み、カバーの上部を指で押し込みます。



刺しゅう器をセットしたときの 操作スイッチ

スタート / ストップスイッチ

刺しゅうデータ転送後、スタート / ストップスイッチを押すとスタートし、もう一度押すと針は最上点でストップします。

● スタート / ストップスイッチの色表示について

- * 緑色は、待機状態のときに表示されます。
- * 赤色は、ミシンが動作中のとき。
- * 赤色点滅は、故障したとき、または、エラー状態のとき。

2～3秒間の点滅は、間違った操作をしたとき。

連続点滅は、異常状態が発生したとき。

ミシン使用中に布詰まり、糸噛み、糸絡みなどの不具合で、ミシンが回転できなくなる状態のときにモーター保護のために連続点滅して異常状態を知らせます。

このような場合には電源を「OFF」にして速やかに不具合部分を取り除いてから、ミシンの電源を再度入れてください。

針停止位置選択スイッチ

刺しゅうデータ転送後は、1針ごとにぬい目を進めることができます。(フープが移動します。)

連続して先に進むときは、このスイッチを押し続けます。

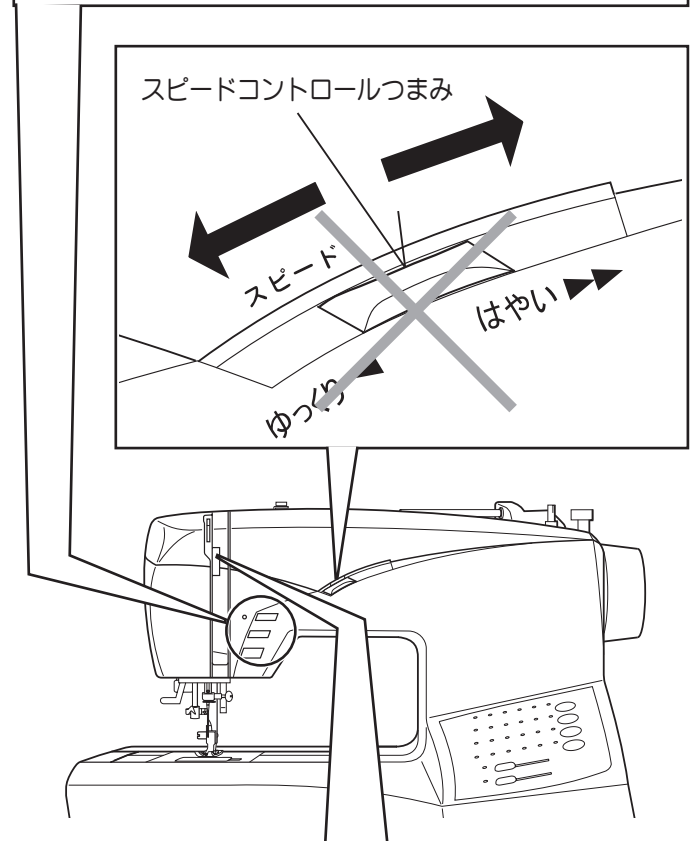
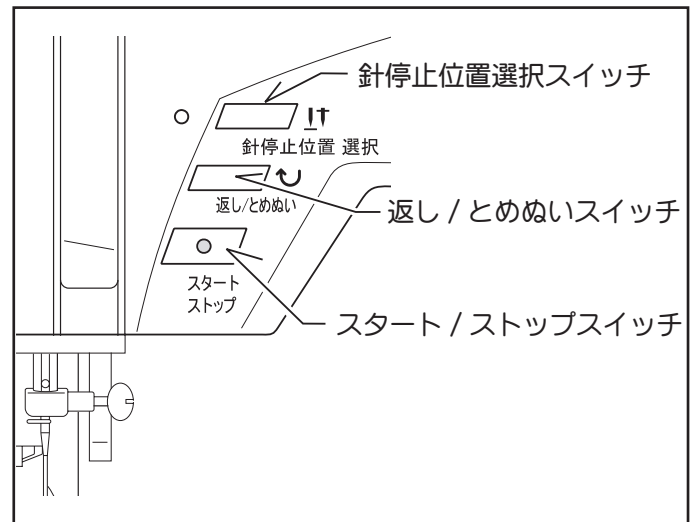
返し / とめぬいスイッチ

刺しゅうデータ転送後は、1針ごとにぬい目を戻すことができます。(フープが移動します。)

連続して戻るときは、このスイッチを押し続けます。刺しゅうデータの始まりまで戻るとそれ以上動きません。

スピードコントロール

刺しゅうデータにあらかじめ速度がプログラムされているため、スピードコントロール(速度調整)は無効となります。つまみがどの位置にあっても設定速度となります。



上糸調子ダイヤル

上糸調子ダイヤルは「E」にセットします。



トラブルになったときのアドバイス

目とび、糸切れが発生する

針先がつぶれている



新しい針に付け替える

曲がった針を使用している



新しい針に付け替える

針が正しく取り付けられていない



正しい針の取付け方
(17 ページ参照)

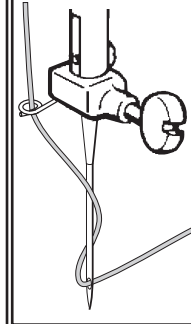
上糸調子が強い



上糸調節ダイヤルを“E”に
セットする

糸の伸縮性を見るには上糸を
15センチくらいの長さで両
手で引っ張り、切れる迄の長
さを確認します。
伸びの多い糸の場合は上糸調
子を弱い目にします

正しい処置を行っ
ても糸切れがな
おらない時は上糸を
下図の様に針に巻
き付けて糸通しを
して下さい。
巻き方向を間違わ
ぬように注意して
ください。



糸掛けが間違っている



正しい糸掛けをする
(14 ページ参照)

糸ごまの糸が糸立て棒に
絡んでいる



糸ごまの糸が絡んでい
ないか確認する
(14 ページ参照)

針板の下周辺に糸くずや
布のくずが溜まっている



くずやごみを除去する
(51 ページ参照)

厚物布地に細い針を使用
している



太目の針に付け替える
通常は#14の針です

刺しゅうの模様がずれる

ミシン側

フープ側

糸が絡まっているのに縫
いを続ける



糸が絡まったままでは布
地が縮む恐れがあり、き
れいに仕上がりにません。
一旦止めてフープを外し、
絡みを除去してください
(51 ページ参照)

上糸調子が強い



布地を縮め、縫いずれの
原因となりますので、上
糸調子を弱める

針先がつぶれていたり、太
い針を使用している



正しい針を選択する

糸ごまの糸が糸経路の途
中で絡まっている



糸が糸立て棒や糸経路の
途中で絡まっていると、糸
調子が強くなり布地を縮
めるので、上糸を確認し
てください
(14 ページ参照)

薄地や伸縮性の布地に接
着芯を貼っていない



布地に接着芯を貼って
ください
(42 ページ参照)

フープに布がきっちり
と張られていない



布地は裏から指で叩くと
太鼓のような音になるよ
うしっかりと張ります
(40 ページ参照)

刺しゅうフープが正しく
取付けられていない



フープはフープ台の取付
ネジでしっかりと締め付
けておきます
(44 ページ参照)

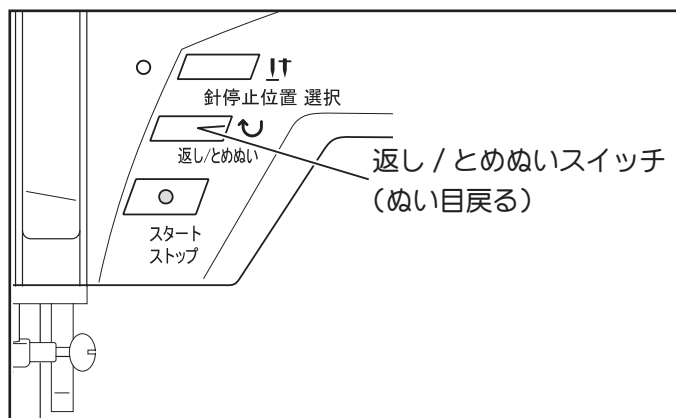
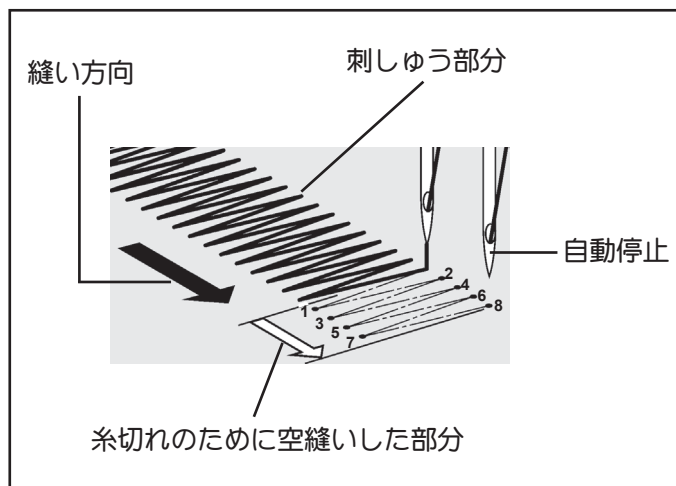
空縫い部分ができたとき

ミシンが糸切れなどを感知して自動停止するまでに8針ほど糸なしの状態（空縫い状態）が発生することがあります。

このような場合、空縫いの部分はつぎの手順でデータを戻し、刺しゅうをしてください。

1. 返し/とめぬいスイッチ（ぬい目戻る）を押し、針のデータを戻します。
このときフープは1針ごとに戻り、移動します。
空縫いの部分を十分にカバーできるところまでデータを戻してください（46ページ参照）

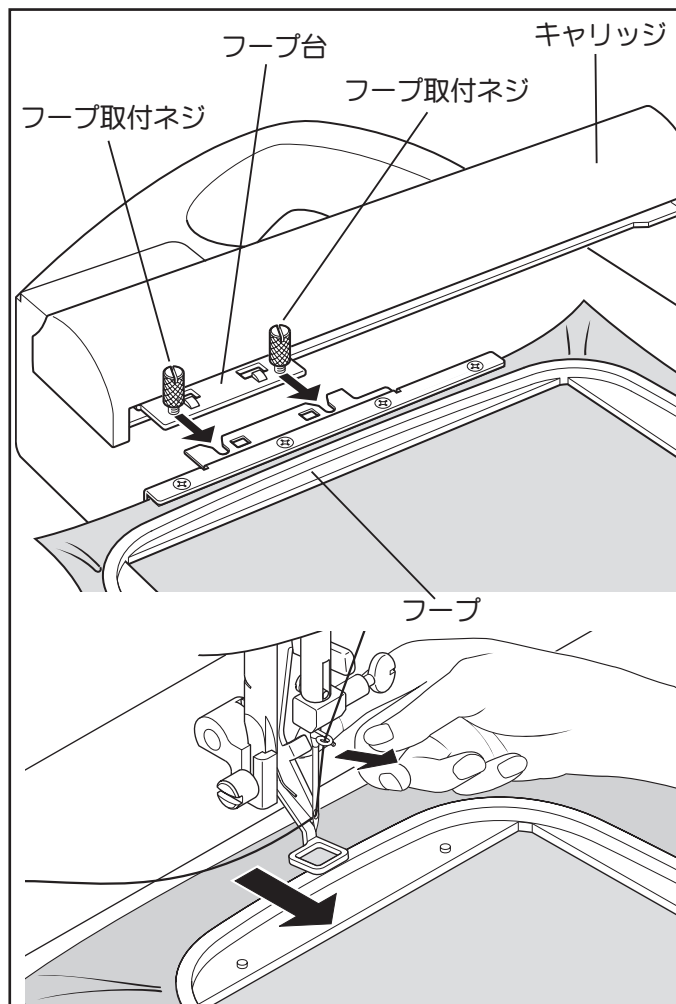
2. ミシンを再スタートさせて刺しゅう縫いを続けます。



ミシンが停止したとき

下糸がなくなったと思われる場合

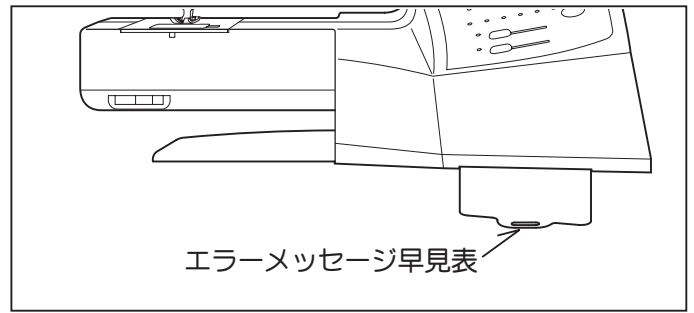
1. 押え上げを上げます。
2. フープ取付ネジをゆるめ、キャリッジを動かさないように気をつけながらフープ台からフープを取り外します。
3. フープを手前側に向かって刺しゅう押えの下をくぐらせて取り出します。
4. かまカバーをはずしてポピンを取り出し、ポピンに糸を一杯に巻き（12ページ参照）、元の位置にセットします。
5. 下糸を引き上げます。
6. キャリッジを動かさないように気をつけながら、フープを元の位置に取り付け、刺しゅう縫いを続けます。



エラーメッセージ

ミシン操作中にエラーが発生すると、操作パネル上の模様番号表示ランプとパソコンの画面にメッセージが表示されます。どのようなメッセージがあり、それにどのように対処すべきかは次の通りです。

操作パネルの模様番号表示	パソコンの画面



USBケーブルが接続されていません。
→ USBケーブルでパソコンとミシンを接続します。

フットコントローラー用ジャックに異物が差し込まれています。→ 取り除きます。


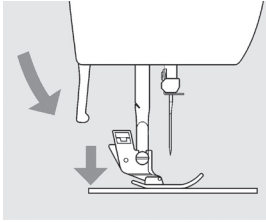

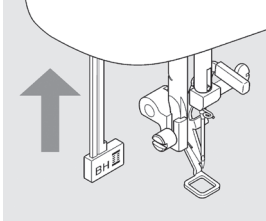


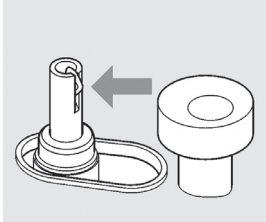

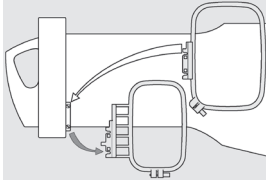
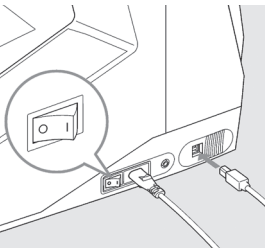
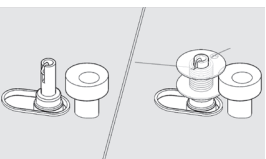
刺しゅうユニットに小フープがセットされています。
→ 刺しゅうユニットと小フープを取り外した後、刺しゅうユニットを再度取り付けるか、小フープを取り外し、電源を“OFF”にし、再度“ON”にしてください。

刺しゅうをスタートする時に針が下りています。
→ プーリーを手前に回して針を上げます。

ミシンが動いている時にフットコントローラーのプラグを抜き差ししました。→ ミシンが動いているときはプラグに触れないでください。

フットコントローラーを取り付けた状態でスタート/ストップスイッチを押してミシンの運転を開始しました。
→ フットコントローラーを使う時はスタート/ストップスイッチには触れないでください。
→ スタート/ストップスイッチを使う時はフットコントローラーをはずします。

糸切れまたは糸が正しく通されていないことが検知されました。
→ 上糸、下糸を確認します。

操作パネルの様態番号表示	パソコンの画面
	
	
	<p>安全装置が働きました。</p>
	
	
<p>—</p>	
<p>—</p>	

押えが下がっていません。
→ 押えを下ろします。

ボタンホールレバーが下がっていないか上がっていません。
→ ボタンホールを縫う時はボタンホールレバーを下げます。
→ ミシンの模様を縫う時はボタンホールレバーを上げます。

ポビンケースに糸が絡んだり、ミシンの回転が強制的に停止された為、ミシンがロックしました。
→ 電源を切り、原因を取り除いてください。

裁縫中に下糸巻き軸が右（糸巻き位置）に移動しています。
→ 下糸巻き軸を確認し、左に戻します。

大フープ用のデザインが転送されている時に小フープが取り付けられています。
→ 電源を切り、大フープを取り付けます。


ケーブルと電源スイッチを確認してください。
→ USB ケーブルがきちんと接続されているか、電源が入っているか確認します。

糸巻き操作中です。

4. ミシンのお手入れ …… ミシンを長もちさせるためには、日常の手入れが大切です。

送り歯とかまの掃除・注油

ボビンケースやかまに糸がからんだ場合又は、ボビンケースの位置がずれた場合も、次の順序で行ってください。

 注意	安全のために必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。ケガの原因になります。
---	--

1. 押えをはずし、プーリーを手前に回して、針を最上点に上げます。

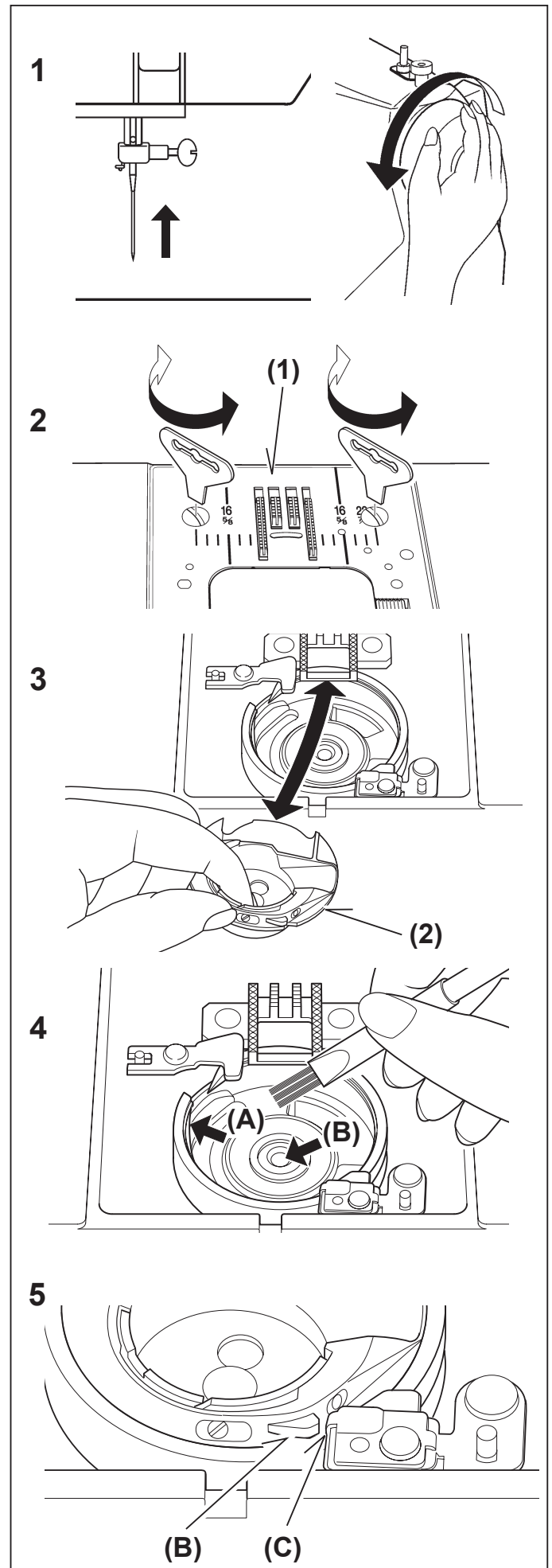
2. 針板（A）をはずします。

3. ボビンケースを図のように抜き取ります。

4. かま内部、周辺および送り歯のほこりをブラシできれいに取り除きます。溝隅のほこりが取れにくい時は爪楊枝でかまに傷をつけないようにして取り除きます。矢印の部分にミシン油を一滴さします。

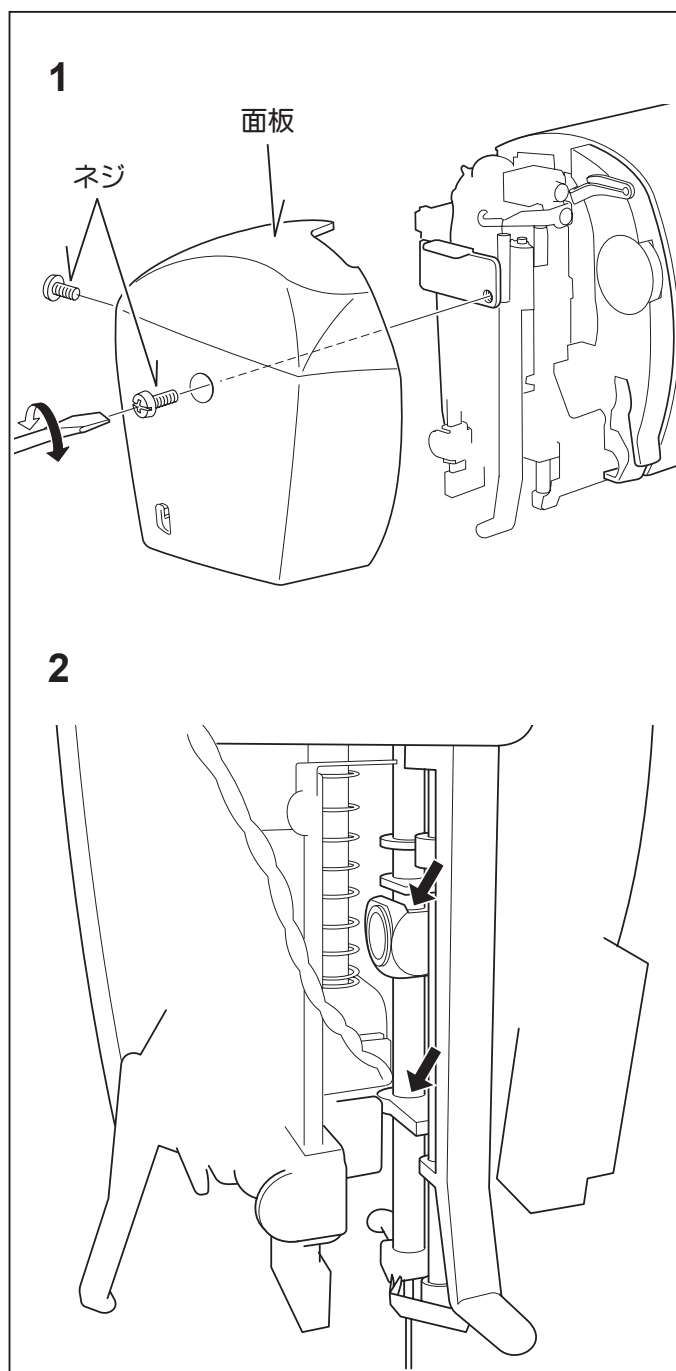
④ 差しすぎた場合には、きれいにふき取ってから、ボビンケースをかまに入れてください。

5. ボビンケースの突起部（B）がストッパー（C）の左側にくるようにかまに入れます。針板、かまカバーを取りつけます。



針棒周辺の掃除・注油

1. 2個のネジをゆるめ、面板を取り外します。



2. 針棒周辺のほこりを取り除き、矢印部分にミシン油を1, 2滴さします。

注油のヒント：

- * ミシンを頻繁に使用する場合は、定期的に注油してください。
- * 長期間ミシンを使っていない場合は、使用する前に注油してください。

5. ミシンの調子が悪いとき、次の原因を確かめましょう ……

こんな時には	原因	対処	参照ページ
ミシンが回らない	下糸巻き軸が右になっている。	下糸巻き軸を左へ押します。	12
	電源コードが正しくセットされていない。	正しくセットし直します。	6
	電源スイッチが“OFF”の位置にある。	スイッチを“ON”の位置にセットします。	6
上糸がかまにか らまってミシン が回らない	上糸をすこしゆるめ、プーリーを手前に回して糸を引き上げます。		—
	かまにからまっている糸をはさみで切って取り除きます。		—
	ボビンケースの位置がずれている。	正しい位置にセットします。	51
回転が重い	送り歯やかまに糸くずやごみがたまっている。	糸くずやごみを取り除きます。	51
	針が曲っている、先がつぶれている。	新しい針と取り換えます。	17
布を送らない	押えを下ろしていない。	押え上げを下ろして、押えを下げます。	—
	厚物縫いの場合		25
縫い目とぶ	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	17
	針が曲っている、先がつぶれている。	新しい針と取り換えます。	17
	針が針棒のいちばん奥まで入っていない。	正しくつけ直します。	17
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱めます。	18
	上糸の掛け方が間違っている。	正しくかけ直します。	14
	糸くずがかまにたまっている。	糸くずを取り除きます。	51
	縫いにくい布地の場合		25
針が折れる	無理に布を引っ張った。	布は軽く案内するだけにしてください。	—
	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	17
	針が針棒のいちばん奥まで入っていない。	正しくセットし直します。	17
	押えが正しく取り付けられていない。	押え止めネジを締め直します。	—
	段縫いの場合		25
糸が布と針板の間で だんごになる	縫い始めに上糸と下糸を向こう側に引き出して いない。	常に両糸をそろえて押えの下から向う側へ 10cmほど引き出します。	16
上糸が切れる	上糸の掛け方が間違っている。	正しくかけ直します。	14
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱めます。	18
	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	17
	針が曲がっている。	新しい針と取り換えます。	17
下糸が切れる	ボビンケースの糸の通し方が間違っている。	正しくセットし直します。	13
	糸くずがボビンケースやかまにたまっている。	糸くずを取り除きます。	51
縫い物に しわがよる	糸調子が強すぎる。	糸調子を弱めます。	18
	針が曲っている、先がつぶれている。	新しい針と取り換えます。	17
	薄物に対して縫い目が大きい。	縫い目を小さくします。	—
	薄物縫いの場合		25

6. 別売り付属品のご案内 ……

フットコントローラー お求めは、販売店または弊社までお問い合わせください。



ミシンを使用しない時は、必ず電源スイッチを切り、電源コードを電源から抜いてください。

電源のつなぎ方

電源スイッチを「OFF」にしてください。

電源コードのプラグ①をさしこみます。

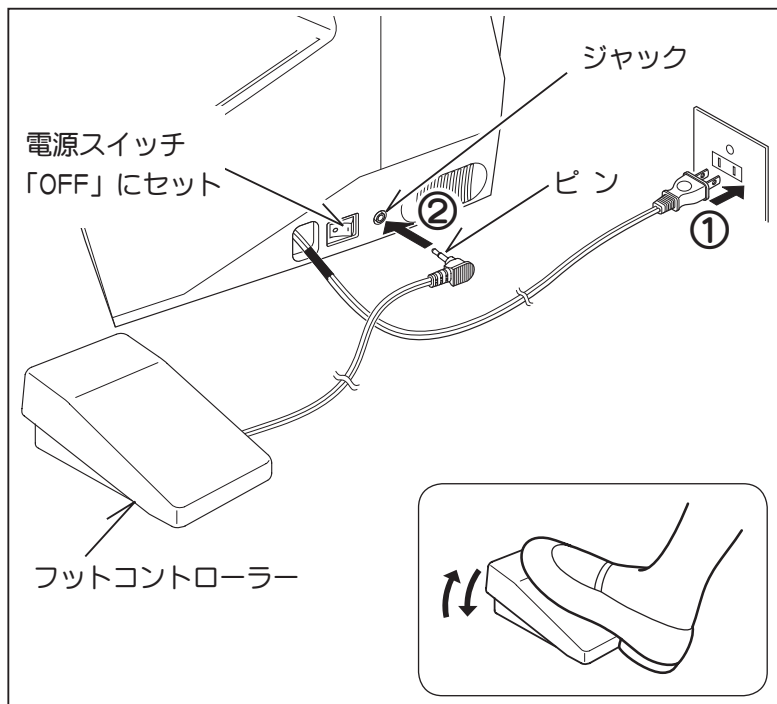
フットコントローラーのピン②を、ミシンのジャックにさしこみます。

スタート

フットコントローラーを大きく踏むとミシンの回転は速くなります。最初は軽く踏んでゆるい速度で縫い始めてください。

フットコントローラーの接続中は、スタートスイッチは使用できません。

⑧ フットコントローラーを使用する場合、スピードコントロールの設定位置が、フットコントローラーの最高速度になります。





株式会社ジャガーインターナショナルコーポレーション

〒570-0011 大阪府守口市金田町2丁目55番32号

ご相談窓口専用フリーダイヤル 0120-00-1137

電話 06-6900-1963

FAX 06-6902-0433

ホームページ <http://www.jaguar-net.co.jp/>